

平成 24年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

# 介護支援専門員の資質向上と 今後のあり方に関する調査研究

2013 年 3 月

研究代表者 白澤政和

桜美林大学大学院老年学研究科

## 目次

1	研究の目的	1
2	研究の内容	2
2.1	実施内容	2
2.2	調査方法	2
2.3	QOL 効果評価指標について	3
3	調査の概要	7
4	調査の結果	9
4.1	ケアマネジャー調査	9
4.1.1	基本属性の概要	9
4.1.2	担当する利用者について	12
4.1.3	現在の利用者の状況について	17
4.2	利用者調査	58
4.2.1	基本属性の概要	58
4.2.2	現在の本人の状況について	60
4.3	3時点での経過の比較	76
4.3.1	QOL ケアマネジャーにおける3時点(3年間)の状態等の変化比較	76
4.3.2	QOL 利用者における3時点の状態等の変化比較	97
4.4	継続調査不可能者の過去の状況	111
4.4.1	2011 年度 継続調査不可能者の状況	111
4.4.2	2012 年度 継続調査不可能者の状況	114
4.5	分析	125
4.5.1	ケアマネジャーおよび利用者における 3 時点での QOL 評価項目の変化分析	125
4.5.2	QOL 効果指標の経年変化に影響を与える要因の検討	157
4.5.3	ケアマネジャーと利用者との 3 時点での QOL 評価項目の一致度の推移	163

5 総括 .....	172
資料 .....	174
1.委員会の開催経過.....	174
2 アンケート(ケアマネジャー).....	176
3.アンケート(利用者).....	184

## 1 研究の目的

介護支援専門員（ケアマネジャー<sup>1</sup>）は、高齢者が安心して在宅生活を送るために、高齢者と適切な介護サービスや保健医療サービス、インフォーマルサービスとを繋ぐ要の役割を果たしてきた。介護保険制度創設から10年経過し、要介護者高齢者数は400万人を超え、ケアマネジャーの果たすべき役割はますます重要になっている。

それゆえに現在ケアマネジャーの資質に対し多くの視線が向けられている。ケアマネジャーの資質に関する課題としては、アセスメントやニーズ把握が不十分であること、医療や介護にまたがる多職種連携ができていないこと等が挙げられている。

しかしながら、ケアマネジメントを評価する枠組は未だ確立されていない。ケアマネジメントの質の評価はこれまでも数多く試行されてきたが、要介護度やADL等の身体面の評価や業務プロセスの評価に留まり、ケアマネジメントの効果に焦点をあてた研究は乏しい。利用者・家族と介護支援専門員のいずれかの観点からの評価になっていることも多い。

そもそもケアマネジメントは高齢者のその人らしい生活を続けられるよう支援していく役割がある。多くの高齢者は長い生活の歴史を背負っており、生活の連続性を保つことのできる在宅での生活を望む。しかし在宅の高齢者は、心身機能の低下や家族関係の変化などにより、しばしば在宅生活に対する不安を持つ。在宅生活に対する不安をできるだけ軽減し、その人らしい生活を継続できること、いわばQOL（Quality of Life；生活の質）の維持、向上は高齢者にとっての目標であり、ケアマネジメントはこれを支援するものである。

したがってケアマネジメントの評価には、高齢者のQOLの維持、向上にどのように寄与するかを客観的に測定する必要がある。そこで調査研究では、2010年度から介護支援専門員の評価指標の枠組みを探ってきた。本年度は介護支援専門員とその利用者の両者にアンケート調査を継続実施し、QOL指標項目について質問し、前年度、前々年度との比較で、どのようにQOLが変化するのかを明らかにする。

---

<sup>1</sup> 本調査研究報告書では、「介護支援専門員」と「ケアマネジャー」を同義として取り扱う。

## 2 研究の内容

### 2.1 実施内容

本調査研究では、現場の介護支援専門員および研究者による委員会を組織し、委員会メンバーによりケアマネジメントの QOL 効果評価の指標について前年度、前々年度の結果を踏まえて再検討し、アンケート票を設計し、結果の比較検討をした。さらにシンポジウムを通じて研究成果の周知を図った。

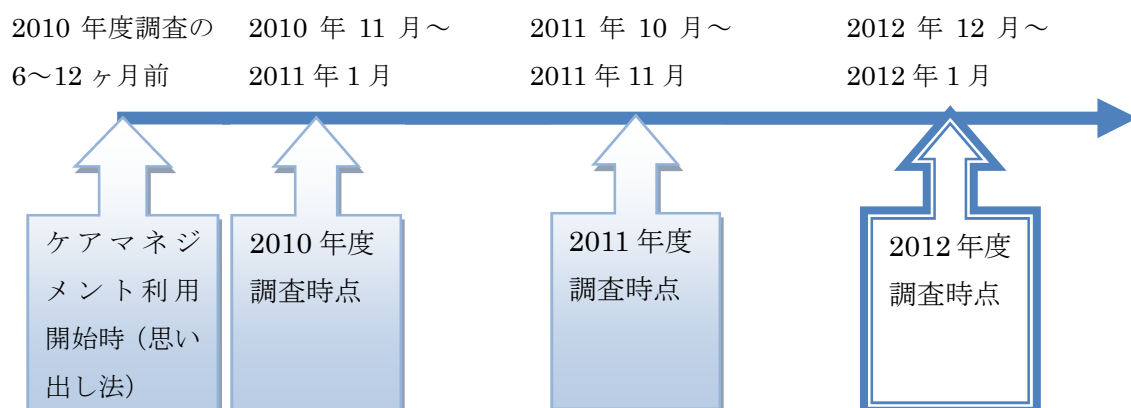
### 2.2 調査方法

2010 年度の調査では、初めてケアマネジメントを利用開始した利用者を対象に、介護保険利用開始時と調査時点（利用開始後 6 カ月～1 年後）の QOL 効果評価指標の比較を、介護支援専門員（ケアマネジャー）および利用者双方に対する思い出し法により調査した。

2011 年度は、その後も在宅で介護継続を支援している利用者に関し、介護支援専門員及びその利用者に 2010 年度調査から約 1 年後時点の QOL 効果評価指標を調査した。

今年度（2012 年度）は、前年度と同様、在宅で介護継続を支援している利用者に監視、介護支援専門員及びその利用者に 2010 年調査から約 2 年後時点の QOL 効果評価指標を調査した。

これらの調査により、利用者と介護支援専門員の 3 年間の経年変化を追うことが可能になった。



## 2.3 QOL 効果評価指標について

### (1) 評価の対象

効果評価の対象には通常 2 種類ある。1 つが計画(ケアプランの目標)の達成状況であり、ケアプランの評価としてケアプランで立案した計画(目標)の達成状況を確認するものである。もう 1 つは利用者・介護者の在宅生活の向上の評価であり、利用者のケアマネジメント業務全般を通じて、利用者や介護者の生活にどのような効果を与えたか確認するものである。本調査研究では、後者のケアマネジメント業務全般を通じた効果を評価の対象とする。

### (2) 評価の軸

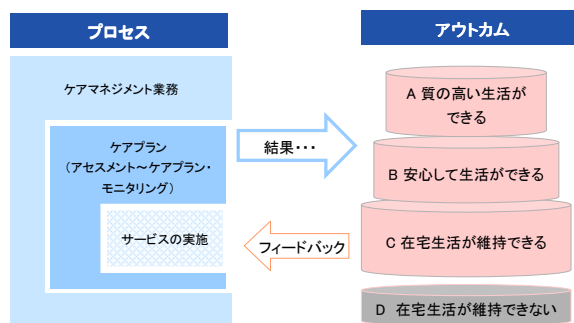
ケアマネジメントの目的は、高齢者が在宅で質の高い生活を維持できることである。在宅生活維持のレベルには、利用者の活動参加意欲が高まり充実した生活を送ることができるレベルから、かろうじて毎日を過ごしているというレベルまでが存在する。

実際には的確なアセスメントにより利用者のエンパワーメントを引き出すケアマネジメントを行う介護支援専門員もいれば、予測性を持ったアセスメントを欠くために緊急事態や困難事例を頻繁に発生させる介護支援専門員もいる。後者の場合、熟練した介護支援専門員が対処すると、問題事象さえ発生しないこともある。これは介護支援専門員の力量の差をもたらす、効果の「差」といえる。

そこで、このような差を 4 段階で整理したものが図 1 である。

第 1 段階	質の高い生活ができる
第 2 段階	安心して生活ができる
第 3 段階	在宅生活が維持できる
第 4 段階	在宅生活が維持できない

図 1 ケアマネジメントの効果評価の軸



第 1 段階の「質の高い生活ができる」は、利用者が人生への意欲を持ち、楽しく充実した毎日を過ごしている状態を想定している。リハビリ等で身体機能の向上が効果をもたらす可能性もある。

第 2 段階の「安心して生活ができる」は、利用者が要介護状態になる前と同等あるいはそれに近い状態で日常生活を送ることができたり(IADL)、周囲との関係を保つものである。

第 3 段階の「在宅生活が維持できる」は生命の維持、緊急対応は可能という程度で、身体、心理、社会面でどうにかバランスを保っている状態である。

第 4 段階の「在宅生活が維持できない」は、例えば意欲の低下が起こったり、緊急事態が頻発したり、周囲との関係が悪化したりという現象が起こり、在宅生活を維持してきたバランスが崩れた状態である。

上記の評価結果を介護支援専門員が自らの業務プロセスにフィードバックすることにより、ケアマネジメントの更なる向上に活かすことができる。

### (3) 評価の要素

前述の「質の高い生活ができる」「安心して生活ができる」「在宅生活が維持できる」「在宅生活が維持できない」の 4 段階の評価軸を測定するために、本研究では QOL を構成する要素に分け、要素ごとに評価することを試みた。

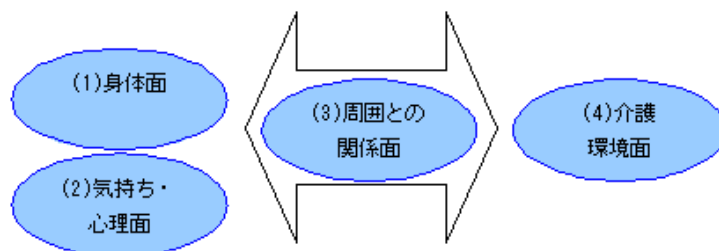
QOL を構成する要素には、生活を包括的に把握する観点が含まれる必要がある。

そこで、委員会メンバーの想起法により、在宅高齢者の生活を、機能別に(1)身体機能、(2)認知・心理機能、(3)関係構築機能、(4)社会環境機能に分けた。

各要素は、さらに詳細な項目により説明される。例えば身体機能は、日常生活自立度や健康状態や受診状況、健康状態や受診状況、食事、入浴、排泄、家事により構成される。以上の結果、QOL を構成する要素を 4 機能 13 項目に整理した (図 2)。

なお、今年度は利用者にもより分かりやすい表現とするため、(1)身体機能→身体面、(2)認知・心理機能→気持ち・心理面、(3)関係構築機能→周囲との関係面、(4)社会環境機能→介護環境面に表現を改訂している。

図 2 在宅高齢者の QOL を構成する要素



(1) 身体面	①日常生活自立度
	②健康状態や受診状況
	③食事
	④入浴
	⑤排泄
	⑥家事
(2) 気持ち・認知面	⑦認知症自立度
	⑧生活意欲
(3) 周囲との関係面	⑨意思疎通
	⑩社会参加や役割
(4) 介護環境面	⑪家族の介護負担
	⑫住環境(段差等)
	⑬経済環境(サービス利用等)

#### (4) 評価の指標

前項の4機能13項目に分類したQOLを構成する要素において、それぞれ効果評価軸の4段階(「質の高い生活ができる」「安心して生活ができる」「在宅生活が維持できる」「在宅生活が維持できない」)に相当する状態を指標とした。具体的には、以下のように4段階をA~Dの各状態にあると読み替え、項目ごとに指標を設定した。

質の高い生活ができる

⇒A 特に問題はなく、自立している状態

安心して生活ができる

⇒B 問題はあるが、家族や専門家の援助によって解消されている状態

在宅生活が維持できる

⇒C 問題に対処はしているが、日常生活において困難が生じている状態

在宅生活が維持できない

⇒D 全く問題が解決されていない状態

たとえば、日常生活自立度の場合、「A ひとりで外出できた」「B 屋内ではひとりで生活できた」「C 座ることができた(車いす)」「D ほとんどベッド上」の4つの状態を指標とした。各項目の指標は、表1のとおりである。

これに、在宅生活の状況全般を評価する指標を加え、合計14項目によって評価指標を構成している。



表 1 QOL 効果指標

		A	B	C	D
(1) 身体面	①日常生活の自立度	1 ひとりで外出できる	2 屋内ではひとりで生活できる	3 座ることができる(車いす)	4 ほとんどベッド上
	②健康状態や受診に関して	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
	③食事に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	④入浴に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑤排泄に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑥家事に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
(2) 気持ち認知面	⑦認知症の程度	1 問題ない(自立)	2 誰かが注意していれば問題ない	3 時々介護が必要	4 常に介護が必要
	⑧生活の意欲	1 とともある	2 少しある	3 あまりない	4 ない
(3) 周囲との関係面	⑨意思疎通に関して	1 できる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑩社会参加や役割	1 自分で参加できている	2 助けてもらって参加できている	3 少し参加できないところがある	4 参加できない
(4) 介護環境面	⑪家族の介護負担	1 小さい	2 まあ小さい	3 まあ大きい	4 大きい・介護者がいない
	⑫住んでいる環境(段差等)	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
	⑬経済環境(サービス利用等)	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
(5)在宅生活の状況		1 質の高い生活が送れる	2 安心して在宅で暮らせる	3 なんとか在宅で暮らせる	4 在宅では暮らせない

### 3 調査の概要

#### (1) 調査目的

本調査研究の目的は介護支援専門員の行うケアマネジメントの評価の枠組みを探ることであり、継続して介護サービスを利用している要介護者等が「質の高い生活ができる」ための改善点等を導き出し、その結果から新たなケアマネジメントの評価のあり方を探るものである。

2010年度、2011年度の過去2年の調査を踏まえて、その後も在宅における介護継続を支援している介護支援専門員に対して、追加の基礎資料の収集として介護支援専門員とそのケアの受け手である利用者の両者にアンケート調査を実施した。調査は、ケアマネジメントの評価とQOLの向上等との関連をはじめ、サービス提供開始時と現在の状況を把握するため、アンケート調査を行った。

#### (2) 調査対象

2010年度の本調査研究では、一定レベル以上の業務経験がある介護支援専門員を選別する観点から、日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャーの会の会員ならびに同学会会員で認定ケアマネジャー資格を有する者である、介護支援専門員1500名を調査対象とした。

2011年度及び2012年度はその前年度の調査時の中で、次年度も継続調査への協力を快諾していただいたケアマネジャーを対象としている。

また、対象である各ケアマネジャーを通じて、ケアマネジメントに関わっている一昨年度及び昨年度と同じ利用者1名を選んでもらっている。なお、利用者本人が回答できない場合は家族などが回答する。

#### (3) 調査方法

2011年度の調査時において、次年度の継続調査への協力を了承し連絡先を提示いただいた介護支援専門員に対して、2011年度は調査票を郵送し、介護支援専門員が回答用紙に自ら記入後に指定封筒にて郵送により返送していただくよう依頼した。

利用者に対しても、前年度同様に、介護支援専門員を通じて、個別に調査協力を依頼し、利用者が自記入後、指定封筒にて郵送による返送を依頼した。

#### (4) 調査期間

2012年11月26日(月) ～ 2013年1月7日(月)

(参考) 2010年度調査期間 2010年11月～2011年1月

2011年度調査期間 2011年10月～2011年11月

(5) 回収状況

- ケアマネジャー(介護支援専門員<sup>2</sup>)配布数 193 有効回答数 158(有効回答率 81.9%)
- 利用者 配布数 193 有効回答数 138(有効回答率 71.5%)

(6) 主な調査項目

<ケアマネジャー>

- ・ケアマネジャーの基本属性
- ・利用者への情報及びかかわり
- ・ケアマネジメントのかかわり時と現在の状況
- ・サービス利用の状況や目的・経緯
- ・ケアマネジャー自身の評価
- ・利用者についてあなたのケアマネジメントの状況 (2012年度追加項目)

<利用者>

- ・利用者の基本属性
- ・ケアマネジメントのかかわり時と現在の状況
- ・ケアマネジャーへの期待
- ・担当ケアマネジャーに対応してもらっている項目 (2012年度追加項目)

(7) 倫理的配慮

調査実施にあたっては桜美林大学内の倫理委員会でアンケート案を諮り承認を得た。また、データを扱う業務に関係する団体や企業に対しては、データの取り扱いに関する覚書を交わすと共に、その取り扱いに対する注意を促している。

アンケートの実施に関しては、研究目的に対する理解を求めると共に、協力への参加の自由意志や不参加による不利益をこうむらないこと、プライバシーの保護、研究目的以外に使用しないことなど、文書によりアンケートに同封し、介護支援専門員及び利用者個人が特定できないように配慮した。

---

<sup>2</sup> アンケート調査票では、回答者が理解しやすいよう、介護支援専門員を「ケアマネジャー」と表記しているため、以下調査結果では、ケアマネジャーと表記する。

## 4 調査の結果

### 4.1 ケアマネジャー調査

#### 4.1.1 基本属性の概要

##### 1) ケアマネジャー以外の保有資格等

回答のあったケアマネジャーの基本属性に関して無回答を除く有効回答でみると、介護支援専門員以外で有する資格では「介護福祉士」が25.7%、「看護師・准看護師」が23.3%とともに多くなっている。

#### 保有資格

表 2

	23 年度		24 年度	
	N	パーセント	N	パーセント
介護福祉士	94	25.6%	66	25.7%
ホームヘルパー	41	11.2%	30	11.7%
看護師/准看護師	94	25.6%	60	23.3%
社会福祉主事	47	12.8%	35	13.6%
社会福祉士	55	15.0%	35	13.6%
歯科衛生士	7	1.9%	6	2.3%
鍼灸/マッサージ師	4	1.1%	3	1.2%
薬剤師	2	.5%	1	.4%
栄養士/管理栄養士	6	1.6%	3	1.2%
その他	17	4.6%	18	7.0%
合計	367	100.0%	257	100.0%

##### 2) 学会認定ケアマネジャー資格

認定ケアマネジャー資格を「持っている」人は、53.8%となっている

表 3

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
持っている	127	53.8	54.7	84	53.2	53.8
持っていない	105	44.5	45.3	72	45.6	46.2
無回答	4	1.7	—	2	1.3	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

\* 表左3列は前23年度、右3列は24年度数値 以下同じ

### 3) 主任介護支援専門員資格

主任介護支援専門員資格を「持っている」人は76.4%となっている。

表 4

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
持っている	176	74.6	74.9	120	75.9	76.4
持っていない	59	25.0	25.1	37	23.4	23.6
無回答	1	.4	—	1	.6	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

### 4) 雇用・勤務形態等

雇用形態では、「常勤・専任」が70.5%であり、「常勤・兼任」の26.3%をあわせると、96%以上が常勤となっている。

#### 雇用・勤務形態

表 5

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
常勤・専任	172	72.9	73.5	110	69.6	70.5
常勤・兼務	52	22.0	22.2	41	25.9	26.3
非常勤・専任	7	3.0	3.0	3	1.9	1.9
非常勤・兼務	3	1.3	1.3	2	1.3	1.3
無回答	2	.8	—	2	1.3	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

### 5) 職場での職位

職場の地位では「管理者」が50.0%と半数を占めている。

表 6

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
管理職	111	47.0	47.8	78	49.4	50.0
管理職以外	121	51.3	52.2	78	49.4	50.0
無回答	4	1.7	—	2	1.3	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

## 6) 月間の担当介護給付件数等

平成 24 年 10 月時点の担当介護給付件数は「31～40 件」が 42.2%でもっとも多く、次いで「21～30 件」が 30.6%を占めている。予防給付では「0～10 件」が 91.7%を占めている。

### 月間の担当介護給付件数

表 7

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
0-10 件	21	8.9	9.6	18	11.4	12.2
11-20 件	27	11.4	12.4	17	10.8	11.6
21-30 件	66	28.0	30.3	45	28.5	30.6
31-40 件	99	41.9	45.4	62	39.2	42.2
41 件以上	5	2.1	2.3	5	3.2	3.4
無回答	18	7.6	—	11	7.0	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

### 月間の担当予防給付件数

表 8

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
0-10 件	186	78.8	90.7	122	77.2	91.7
11-20 件	10	4.2	4.9	4	2.5	3.0
21-30 件	4	1.7	2.0	5	3.2	3.8
31-40 件	3	1.3	1.5	1	.6	.8
41 件以上	2	.8	1.0	1	.6	.8
無回答	31	13.1	—	25	15.8	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

#### 4.1.2 担当する利用者について

##### 1) 利用者との現在の関わり方等

調査対象の利用者に関して無回答を除く有効回答で見ると、ケアマネジャーとしての関わり方では、「担当ケース」が78.2%と8割近くを占めている。一方で担当外が17.9%を占めている。その主な理由は「死亡」、「担当者変更」などが上位を占めている。

表 9

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
担当ケース	189	80.1	81.1	122	77.2	78.2
指導ケース	10	4.2	4.3	6	3.8	3.8
担当外	34	14.4	14.6	28	17.7	17.9
無回答	3	1.3	—	2	1.3	—
合計	236	100.0	100.0	158	100.0	100.0

##### 1-1) 担当変更の理由

その主な理由は「死亡」、「担当者変更」などが上位を占めている。

表 10

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
入院	5	14.7	15.6	3	10.7	11.1
施設入所	8	23.5	25.0	4	14.3	14.8
死亡	8	23.5	25.0	9	32.1	33.3
担当変更	7	20.6	21.9	7	25.0	25.9
その他	4	11.8	12.5	4	14.3	14.8
無回答	2	5.9	—	1	3.6	—
合計	34	100.0	100.0	28	100.0	100.0

これ以降は問 2-1 の担当外（無回答含む）30 ケースを除く 128 を有効回答とする。

## 2) 現在の家族の状況

現在の家族状況を見ると「同居家族あり」が 79.5%、「独居」が 20.5%となっている。

表 11

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
独居	44	22.1	22.4	26	20.3	20.5
同居家族あり	152	76.4	77.6	101	78.9	79.5
無回答	3	1.5	—	1	.8	—
合計	199	100.0	—	128	100.0	100.0

### 2-1) 世帯の形態

同居家族の内訳では「子世帯と同居」が52.5%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が27.7%となっている。

表 12

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
夫婦のみ	52	34.2	34.4	28	27.7	27.7
子世帯と同居	78	51.3	51.7	53	52.5	52.5
子以外の親族と同居	3	2.0	2.0	6	5.9	5.9
その他	18	11.8	11.9	14	13.9	13.9
無回答	1	.7	—	—	—	—
合計	152	100.0	100.0	101	100.0	100.0



### 3) 現在の介護度

現在の介護度をみると「要介護1」が22.0%、「要介護2」「要介護3」「介護度4」がともに19.7%の順となっている。

表 13

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
要支援1	7	3.5	3.6	3	2.3	2.4
要支援2	15	7.5	7.6	12	9.4	9.4
要介護1	44	22.1	22.3	28	21.9	22.0
要介護2	44	22.1	22.3	25	19.5	19.7
要介護3	34	17.1	17.3	25	19.5	19.7
要介護4	28	14.1	14.2	25	19.5	19.7
要介護5	25	12.6	12.7	9	7.0	7.1
無回答	2	1.0	—	1	.8	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 4) 現在の状況

利用者の現在の身体状態では「脳血管障害後遺症」が26.5%で最も多く、次いで「認知症」が26.0%の順となっている。

表 14

	回答数		ケースのパーセント (n198)	回答数		ケースのパーセント (n123)
	N	パーセント		N	パーセント	
脳血管障害後遺症	71	23.8%	35.9%	48	26.5%	39.0%
認知症	73	24.5%	36.9%	47	26.0%	38.2%
ターミナル (看取り)	5	1.7%	2.5%	—	—	—
廃用症候群	35	11.7%	17.7%	20	11.0%	16.3%
関節疾患	40	13.4%	20.2%	26	14.4%	21.1%
その他	72	24.2%	36.4%	35	19.3%	28.5%
該当なし	2	.7%	1.0%	5	2.8%	4.1%
合計	298	100.0%	150.5%	181	100.0%	147.2%

#### 4-1-1) 認知症 (N=47) の日常生活自立度

現在の認知症症状のある人 (47 人) の内容をさらに見ると認知症の日常生活自立度のレベルでは「Ⅱ」が最も多く 40.4、次いで「Ⅲ」が 38.3%、「Ⅳ」が 19.1%となっている。

表 15

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
I	2	2.7	2.8	1	2.1	2.1
II	22	30.1	31.0	19	40.4	40.4
III	31	42.5	43.7	18	38.3	38.3
IV	14	19.2	19.7	9	19.1	19.1
M	2	2.7	2.8	—	—	—
無回答	2	2.7	—	—	—	—
合計	73	100.0	100.0	47	100.0	100.0

#### 4-1-2) 認知症治療薬の服薬の有無

治療薬の服薬の有無では、「ある」という人は 56.5%と半数以上を占めている。

表 16

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ある	30	41.1	42.3	26	55.3	56.5
ない	41	56.2	57.7	20	42.6	43.5
無回答	2	2.7	—	1	2.1	—
合計	73	100.0	100.0	47	100.0	100.0

#### 4-1-3) 徘徊や暴言、妄想などの程度

徘徊や暴言、妄想などの程度については、「かなりある」の 13.0%から「少しある」が 26.1%までを含めると半数以上を占めている。

表 17

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
かなりある	9	12.3	12.3	6	12.8	13.0
まあある	12	16.4	16.4	7	14.9	15.2
少しある	22	30.1	30.1	12	25.5	26.1
ほとんどない	19	26.0	26.0	12	25.5	26.1
全くない	11	15.1	15.1	9	19.1	19.6
無回答	—	—	—	1	2.1	—
合計	73	100.0	100.0	47	100.0	100.0

#### 4-1-4) 利用者のBPSDの傾向についてどの程度わかっていますか

利用者のBPSDの傾向は「まあわかる」が63.0%と最も多く、次いで「分かる」が28.3%となっている。

表 18

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんどわからない	7	9.6	9.9	—	—	—
少しある	4	5.5	5.6	4	8.5	8.7
まあわかる	30	41.1	42.3	29	61.7	63.0
分かる	30	41.1	42.3	13	27.7	28.3
無回答	2	2.7	—	1	2.1	—
合計	73	100.0	100.0	47	100.0	100.0

#### 4-1-5) 利用者への適切な対応

それに対して適切な対応が取れているかをみると「まあできている」が72.3%を占めている。

表 19

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんどできていない	5	6.8	7.0	4	8.5	8.5
少しある	—	—	—	4	8.5	8.5
まあできている	42	57.5	59.2	34	72.3	72.3
できている	24	32.9	33.8	9	19.1	19.1
無回答	2	2.7	—			
合計	73	100.0	100.0	47	100.0	100.0

### 4.1.3 現在の利用者の状況について

#### 1) 現在利用者の状況

##### ①日常生活の自立度

日常生活の自立度をみると、「屋内ではひとりで生活できる」が 53.2%で最も多く、次いで「座ることができる」が 27.4%、「ほとんどベッドの上」が 12.1%の順となっている。

表 20

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりで外出できる	15	7.5	7.7	9	7.0	7.3
屋内ではひとりで生活できる	104	52.3	53.3	66	51.6	53.2
座ることができる(車いす)	51	25.6	26.2	34	26.6	27.4
ほとんどベッドの上	25	12.6	12.8	15	11.7	12.1
無回答	4	2.0	—	4	3.1	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

##### ②健康状態や受診に関して

健康や受診に関してをみると、「困らないよう助けてもらっている」が 77.4%で最も多く、次いで「少し困っていることがある」が 12.9%、「困っていることはない」が 6.5%の順となっている。

表 21

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	12	6.0	6.2	8	6.3	6.5
困らないよう助けてもらっている	134	67.3	69.1	96	75.0	77.4
少し困っていることがある	35	17.6	18.0	16	12.5	12.9
困っている	13	6.5	6.7	4	3.1	3.2
無回答	5	2.5	—	4	3.1	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ③食事に関して

食事に関してをみると、「助けてもらってできている」が54.0%で最も多く、次いで「ひとりでできる」が36.3%、「少しできないところがある」が8.1%の順となっている。

表 22

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	56	28.1	28.6	45	35.2	36.3
助けてもらってできる	104	52.3	53.1	67	52.3	54.0
少しできないところがある	22	11.1	11.2	10	7.8	8.1
できない	14	7.0	7.1	2	1.6	1.6
無回答	3	1.5	—	4	3.1	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ④入浴に関して

入浴に関してをみると、「助けてもらってできている」が71.0%で最も多く、次いで「少しできないところがある」が11.3%、「ひとりでできる」が10.5%、「できない」が7.3%の順となっている。

表 23

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	22	11.1	11.2	13	10.2	10.5
助けてもらってできる	127	63.8	64.8	88	68.8	71.0
少しできないところがある	24	12.1	12.2	14	10.9	11.3
できない	23	11.6	11.7	9	7.0	7.3
無回答	3	1.5	—	4	3.1	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑤排泄に関して

排泄に関してをみると、「ひとりでできる」が44.4%で最も多く、次いで「助けてもらってできている」が34.7%、「少しできないところがある」が13.7%、「できない」が7.3%の順となっている。

表 24

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	84	42.2	42.9	55	43.0	44.4
助けてもらってできる	66	33.2	33.7	43	33.6	34.7
少しできないところがある	29	14.6	14.8	17	13.3	13.7
できない	17	8.5	8.7	9	7.0	7.3
無回答	3	1.5	—	4	3.1	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑥家事に関して

家事に関してをみると、「できない」が46.7%で最も多く、次いで「助けてもらってできる」が38.5%、「少しできないところがある」が11.5%の順となっている。

表 25

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	7	3.5	3.6	4	3.1	3.3
助けてもらってできる	71	35.7	36.4	47	36.7	38.5
少しできないところがある	23	11.6	11.8	14	10.9	11.5
できない	94	47.2	48.2	57	44.5	46.7
無回答	4	2.0	—	6	4.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑦認知症の程度

認知症の程度をみると、「誰かが注意していれば問題ない」が39.3%で最も多く、次いで、「問題がない」が32.0%、「時々介護が必要」が16.4%、「常に介護が必要」が12.3%の順となっている。

表 26

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
問題ない（自立）	72	36.2	36.9	39	30.5	32.0
誰かが注意していれば問題ない	65	32.7	33.3	48	37.5	39.3
時々介護が必要	29	14.6	14.9	20	15.6	16.4
常に介護が必要	29	14.6	14.9	15	11.7	12.3
無回答	4	2.0	—	6	4.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑧生活の意欲

生活の意欲をみると、「少しある」が51.7%で最も多く、次いで「とてもある」が23.3%、「あまりない」が22.5%、「ない」が2.5%の順となっている。

表 27

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とてもある	51	25.6	26.0	28	21.9	23.3
少しある	83	41.7	42.3	62	48.4	51.7
あまりない	49	24.6	25.0	27	21.1	22.5
ない	13	6.5	6.6	3	2.3	2.5
無回答	3	1.5	—	8	6.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑨意思疎通に関して

意思疎通に関してをみると、「ひとりでできる」が 50.4%で最も多く、次いで「助けられてできる」が 28.9%、「少しできないところがある」が 15.7%、「できない」が 5.0%の順となっている。

表 28

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できる	98	49.2	50.0	61	47.7	50.4
助けられてできる	51	25.6	26.0	35	27.3	28.9
少しできないところがある	36	18.1	18.4	19	14.8	15.7
できない	11	5.5	5.6	6	4.7	5.0
無回答	3	1.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑩社会参加や役割

社会参加や役割をみると、「助けられて参加できている」が 50.8%で最も多く、次いで「少し参加できないところがある」が 24.6%、「参加できない」が 17.2%、「自分で参加できている」が 7.4%の順となっている。

表 29

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
自分で参加できている	13	6.5	6.7	9	7.0	7.4
助けられて参加できている	91	45.7	46.9	62	48.4	50.8
少し参加できないところがある	43	21.6	22.2	30	23.4	24.6
参加できない	47	23.6	24.2	21	16.4	17.2
無回答	5	2.5	—	6	4.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0



### ⑪介護家族の負担

家族の介護の負担をみると、「まあ大きい」が45.8%で最も多く、次いで「まあ小さい」が34.7%、「大きい・介護者がいない」が11.9%、「小さい」が7.6%の順となっている。

表 30

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
小さい	14	7.0	7.2	9	7.0	7.6
まあ小さい	66	33.2	33.8	41	32.0	34.7
まあ大きい	83	41.7	42.6	54	42.2	45.8
大きい・介護者がいない	32	16.1	16.4	14	10.9	11.9
無回答	4	2.0	—	10	7.8	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑫住んでいる環境（段差等）

住んでいる環境をみると、「困らないように助けてもらっている」が54.9%で最も多く、次いで「困っていることはない」が26.2%、「少し困っていることがある」が15.6%、「困っている」が3.3%の順となっている。

表 31

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	42	21.1	21.4	32	25.0	26.2
困らないよう助けてもらっている	121	60.8	61.7	67	52.3	54.9
少し困っていることがある	25	12.6	12.8	19	14.8	15.6
困っている	8	4.0	4.1	4	3.1	3.3
無回答	3	1.5	—	6	4.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑬経済環境（サービス利用等）

経済環境をみると、「困らないように助けてもらっている」が 45.5%で最も多く、次いで「困っていることはない」が 39.0%、「少し困っていることがある」が 9.8%、「困っている」が 5.7%の順となっている。

表 32

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	87	43.7	44.4	48	37.5	39.0
困らないよう助けてもらっている	85	42.7	43.4	56	43.8	45.5
少し困っていることがある	18	9.0	9.2	12	9.4	9.8
困っている	6	3.0	3.1	7	5.5	5.7
無回答	3	1.5	—	5	3.9	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑭在宅生活の状況

在宅生活の状況をみると、「安心して在宅で過ごせる」が 45.4%で最も多く、次いで「何とか在宅で暮らせる」が 44.5%とこの二つが上位を占めている。

表 33

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
質の高い生活が送れる	8	4.0	4.2	7	5.5	5.9
安心して在宅で暮らせる	89	44.7	46.4	54	42.2	45.4
何とか在宅で暮らせる	90	45.2	46.9	53	41.4	44.5
在宅では暮らせない	5	2.5	2.6	5	3.9	4.2
無回答	7	3.5	—	9	7.0	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 2) 優先度の領域

本人が大切にしている項目の優先度をみると、「身体面」が最も多く、次いで「気持ち・認知面」、「介護環境面」、「周囲との関係面」の順となっている。

### 身体面

表 34

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	108	54.3	55.1	67	52.3	55.4
2位	46	23.1	23.5	26	20.3	21.5
3位	23	11.6	11.7	21	16.4	17.4
4位	19	9.5	9.7	7	5.5	5.8
無回答	3	1.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 気持ち・認知面

表 35

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	54	27.1	27.6	37	28.9	30.6
2位	68	34.2	34.7	46	35.9	38.0
3位	54	27.1	27.6	23	18.0	19.0
4位	20	10.1	10.2	15	11.7	12.4
無回答	3	1.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 周囲との関係面

表 36

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	15	7.5	7.7	8	6.3	6.6
2位	44	22.1	22.4	28	21.9	23.1
3位	57	28.6	29.1	42	32.8	34.7
4位	80	40.2	40.8	43	33.6	35.5
無回答	3	1.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 介護環境面

表 37

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	25	12.6	12.8	11	8.6	9.1
2位	39	19.6	19.9	21	16.4	17.4
3位	60	30.2	30.6	34	26.6	28.1
4位	72	36.2	36.7	55	43.0	45.5
無回答	3	1.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 3) 在宅生活の状況は利用者の評価と一致しているか

在宅生活の状況を利用者の評価と一致しているかをみると、「まあそう思う」が 64.5%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が 26.4%、「そう思う」が 5.0%、「あまり思わない」が 3.3%の順となっている。「そう思う」「まあそう思う」の両方で約7割を占める。

表 38

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
全く思わない	—	—	—	1	.8	.8
あまり思わない	8	4.0	4.1	4	3.1	3.3
どちらともいえない	46	23.1	23.5	32	25.0	26.4
まあそう思う	131	65.8	66.8	78	60.9	64.5
そう思う	11	5.5	5.6	6	4.7	5.0
無回答	3	1.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

#### 4) 利用者の評価に影響しているか

あなた自身のケアマネジメントが利用者の評価に影響しているかをみると、「まあそう思う」が50.4%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が32.2%、「あまり思わない」が9.1%、「そう思う」が8.3%の順となっている。「そう思う」「まあそう思う」の両方で約60%を占める。

表 39

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまり思わない	13	6.5	6.8	11	8.6	9.1
どちらともいえない	47	23.6	24.5	39	30.5	32.2
まあそう思う	112	56.3	58.3	61	47.7	50.4
そう思う	20	10.1	10.4	10	7.8	8.3
無回答	7	3.5	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

#### 4-1) 影響を与えた領域

あなた自身のケアマネジメントが利用者の評価に影響を与えた領域をみると、「気持ち・認知面」が29.8%で最も多く、次いで「介護環境面」が28.1%、「身体面」が25.4%の順となっているがこの3つの領域に大きな差はない。

表 40

	回答数		ケースのパーセント (n129)	回答数		ケースのパーセント (n66)
	N	パーセント		N	パーセント	
身体面	63	27.2%	48.8%	29	25.4%	43.9%
気持ち・認知面	61	26.3%	47.3%	34	29.8%	51.5%
周囲との関係面	34	14.7%	26.4%	19	16.7%	28.8%
介護環境面	74	31.9%	57.4%	32	28.1%	48.5%
合計	232	100.0%	179.8%	114	100.0%	172.7%

### 5) 利用者が在宅で暮らす自信

利用者の在宅で暮らす自信の程度をみると、「どちらかといえば在宅で暮らす自信がある」が 54.5%で最も多く、次いで「在宅で暮らす自信がある」が 24.8%、「どちらかといえば在宅で暮らす自信はない」が 16.5%、「在宅で暮らす自信はない」が 4.1%の順となっている。在宅で暮らす自信がある」、「どちらかといえば在宅で暮らす自信がある」の両方で約 80%を占める。

表 41

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
在宅で暮らす自信がある	50	25.1	26.2	30	23.4	24.8
どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある	110	55.3	57.6	66	51.6	54.5
どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない	26	13.1	13.6	20	15.6	16.5
在宅で暮らす自信はない	5	2.5	2.6	5	3.9	4.1
無回答	8	4.0	—	7	5.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 6) 施設入所への考え

利用者の施設入所についての考えをみると、「施設入所を考えていない」が 65.0%で最も多く、次いで「施設入所を考えはじめている」が 18.3%、「実際に施設へ申し込んでいる」が 16.7%の順となっている。

表 42

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
施設入所を考えていない	129	64.8	68.3	78	60.9	65.0
施設入所を考えはじめている	33	16.6	17.5	22	17.2	18.3
実際に施設入所を申し込んでいる	27	13.6	14.3	20	15.6	16.7
無回答	10	5.0	—	8	6.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 7) あなたのケアマネジメントの状況について

### ①利用者の身体的な状況についての理解 (24年度のみ)

ケアマネジメントから利用者の身体的な状況についての理解を見ると、「ほぼ理解できている」が69.3%で最も多く、次いで「十分理解できている」が20.5%の順となっており、約90%で理解できている。

表 43

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解できていない	2	1.6	1.6
少し理解できていない	11	8.6	8.7
ほぼ理解できている	88	68.8	69.3
十分理解できている	26	20.3	20.5
無回答	1	.8	—
合計	128	100.0	100.0

### ②利用者の心理的な状況についての理解 (24年度のみ)

ケアマネジメントから利用者の心理的な状況についての理解を見ると、「ほぼ理解できている」が70.9%で最も多く、次いで「十分理解できている」が10.2%の順となっており、約80%で理解できている。

表 44

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解できていない	4	3.1	3.1
少し理解できていない	20	15.6	15.7
ほぼ理解できている	90	70.3	70.9
十分理解できている	13	10.2	10.2
無回答	1	.8	—
合計	128	100.0	100.0

### ③利用者の社会的な状況についての理解（24年度のみ）

ケアマネジメントから利用者の社会的な状況についての理解を見ると、「ほぼ理解できている」が72.4%で最も多く、次いで「十分理解できている」が13.4%の順となっており、約85%で理解できている。

表 45

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解できていない	2	1.6	1.6
少し理解できていない	16	12.5	12.6
ほぼ理解できている	92	71.9	72.4
十分理解できている	17	13.3	13.4
無回答	1	.8	—
合計	128	100.0	100.0

### ④利用者の今後の生活目標についての理解（24年度のみ）

ケアマネジメントから利用者の今後の生活目標についての理解を見ると、「ほぼ理解できている」が71.7%で最も多く、次いで「十分理解できている」が11.0%の順となっており、約80%以上で理解できている。

表 46

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解できていない	3	2.3	2.4
少し理解できていない	19	14.8	15.0
ほぼ理解できている	91	71.1	71.7
十分理解できている	14	10.9	11.0
無回答	1	.8	—
合計	128	100.0	100.0



#### ⑤利用者の生活上のニーズについての理解 (24年度のみ)

ケアマネジメントから利用者の生活上のニーズについての理解を見ると、「ほぼ理解できている」が75.6%で最も多く、次いで「十分理解できている」が15.0%の順となっており、約90%で理解できている。

表 47

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解できていない	2	1.6	1.6
少し理解できていない	10	7.8	7.9
ほぼ理解できている	96	75.0	75.6
十分理解できている	19	14.8	15.0
無回答	1	.8	—
合計	128	100.0	100.0

#### ⑥利用者のニーズに合ったサービスや支援につなげている (24年度のみ)

ケアマネジメントから利用者のニーズに合ったサービスや支援につなげているを見ると、「ほぼつなげられている」が71.7%で最も多く、次いで「十分つなげられている」が18.1%の順となっており、約90%でつなげられている。

表 48

	回答数	パーセント	有効パーセント
少しつなげられていない	13	10.2	10.2
ほぼつなげられている	91	71.1	71.7
十分つなげられている	23	18.0	18.1
無回答	1	.8	—
合計	128	100.0	100.0

**⑦必要な場合には、利用者宅に訪問し、話を聴いている（24年度のみ）**

ケアマネジメントから必要な場合は利用者宅に訪問し話を聴いているを見ると、「ほぼ聴いている」が54.8%で最も多く、次いで「十分つなげられている」が44.4%の順となっており、約100%聴いている。

**表 49**

	回答数	パーセント	有効パーセント
少し聴いていない	1	.8	.8
ほぼ聴いている	69	53.9	54.8
十分聴いている	56	43.8	44.4
無回答	2	1.6	—
合計	128	100.0	100.0

## 8) 現在利用しているサービスの有無と導入の目的や経緯

### ①訪問介護（ホームヘルプ）

訪問介護の利用をみると、「あり」が62.5%と6割以上の方が利用している。その利用目的は、

「家事・身の回りの面の維持向上」が33.3%と最も多く、次いで「食事・入浴・排泄面の維持・向上」が28.9%、「家族の介護負担の軽減」が17.8%で上位を占めている。

表 50

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	87	43.7	65.4	55	43.0	62.5
なし	46	23.1	34.6	33	25.8	37.5
無回答	66	33.2	—	40	31.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 訪問介護（ホームヘルプ）

表 51

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	2	2.3	2.6	2	3.6	4.4
医療管理、健康面の維持・向上	4	4.6	5.1	3	5.5	6.7
食事・入浴・排泄面の維持・向上	21	24.1	26.9	13	23.6	28.9
家事・身の回り面の維持・向上	29	33.3	37.2	15	27.3	33.3
生活意欲の維持・向上	2	2.3	2.6	2	3.6	4.4
社会参加・役割の維持・向上	1	1.1	1.3	—	—	—
家族の介護負担の軽減	17	19.5	21.8	8	14.5	17.8
住環境の改善	1	1.1	1.3	1	1.8	2.2
利用者・家族の希望	1	1.1	1.3	1	1.8	2.2
無回答	9	10.3	—	10	18.2	—
合計	87	100.0	100.0	55	100.0	100.0

## ②訪問入浴介護

訪問入浴の利用をみると、「あり」が 15.9%と利用している人は少ない。その利用目的は、

「食事・入浴・排泄面の維持・向上」が約 80%を占めている。

表 52

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	12	6.0	12.6	10	7.8	15.9
なし	83	41.7	87.4	53	41.4	84.1
無回答	104	52.3	—	65	50.8	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 訪問入浴介護

表 53

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	—	—	—	2	20.0	22.2
食事・入浴・排泄面の維持・向上	10	83.3	90.9	7	70.0	77.8
利用者・家族の希望	1	8.3	9.1	—	—	—
無回答	1	8.3	—	1	10.0	—
合計	12	100.0	100.0	10	100.0	100.0

## ③訪問看護

訪問看護の利用をみると、「あり」が 31.3%と利用している人は3割を超える程度である。その利用目的は、「医療管理、健康面の維持・向上」が80%以上を占めている。

表 54

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	37	18.6	34.9	21	16.4	31.3
なし	69	34.7	65.1	46	35.9	68.7
無回答	93	46.7	—	61	47.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 訪問看護

表 55

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	5	13.5	15.6	1	4.8	5.3
医療管理、健康面の維持・向上	26	70.3	81.3	16	76.2	84.2
食事・入浴・排泄面の維持・向上	—	—	—	1	4.8	5.3
生活意欲の維持・向上	—	—	—	1	4.8	5.3
家族の介護負担の軽減	1	2.7	3.1	—	—	—
無回答	5	13.5	—	2	9.5	—
合計	37	100.0	—	21	100.0	100.0

### ④訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーションの利用をみると、「あり」が 26.6%と利用している人は3割を下回る程度である。その利用目的は、「日常生活動作（ADL）の維持・向上」が90%近くを占めている。

表 56

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	24	12.1	22.9	17	13.3	26.6
なし	81	40.7	77.1	47	36.7	73.4
無回答	94	47.2	—	64	50.0	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 訪問リハビリテーション

表 57

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	18	75.0	81.8	14	82.4	87.5
医療管理、健康面の維持・向上	2	8.3	9.1	2	11.8	12.5
生活意欲の維持・向上	1	4.2	4.5	—	—	—
その他	1	4.2	4.5	—	—	—
無回答	2	8.3	—	1	5.9	—
合計	24	100.0	100.0	17	100.0	100.0

### ⑤居宅療養管理指導

居宅療養管理指導の利用をみると、「あり」が 18.0%と利用している人は2割を下回る程度である。その利用目的は、「医療管理、健康面の維持・向上」がすべてを占めている。

表 58

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	20	10.1	21.3	11	8.6	18.0
なし	74	37.2	78.7	50	39.1	82.0
無回答	105	52.8	—	67	52.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 居宅療養管理指導

表 59

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	15	75.0	93.8	11	100.0	100.0
家族の介護負担の軽減	1	5.0	6.3	—	—	—
無回答	4	20.0	—	—	—	—
合計	20	100.0	100.0	11	100.0	100.0

### ⑥通所介護（デイサービス）

通所介護（デイサービス）の利用をみると、「あり」が 78.3%と利用している人は8割近くを占めている。その利用目的は、「日常生活動作の維持・向上」が 27.7%で最も多く、次いで「食事・入浴・排泄面の維持・向上」が 23.1%、「生活意欲の維持・向上」が 21.5%の順でこれらが上位を占めている。

表 60

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	99	49.7	70.2	72	56.3	78.3
なし	42	21.1	29.8	20	15.6	21.7
無回答	58	29.1	—	36	28.1	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 通所介護（デイサービス）

表 61

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	17	17.2	19.8	18	25.0	27.7
食事・入浴・排泄面の維持・向上	20	20.2	23.3	15	20.8	23.1
家事・身の回り面の維持・向上	1	1.0	1.2	—	—	—
認知症日常生活度の維持・向上	7	7.1	8.1	2	2.8	3.1
生活意欲の維持・向上	12	12.1	14.0	14	19.4	21.5
社会参加・役割の維持・向上	19	19.2	22.1	10	13.9	15.4
家族の介護負担の軽減	10	10.1	11.6	4	5.6	6.2
利用者・家族の希望	—	—	—	2	2.8	3.1
無回答	13	13.1	—	7	9.7	—
合計	99	100.0	100.0	72	100.0	100.0

## ⑦通所リハビリ（デイケア）

通所リハビリテーション（デイケア）の利用をみると、「あり」が 46.1%と利用している人は5割近くを占める。その利用目的は、「日常生活動作の維持・向上」が 79.4%と約8割を占めている。

表 62

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	49	24.6	42.2	35	27.3	46.1
なし	67	33.7	57.8	41	32.0	53.9
無回答	83	41.7	—	52	40.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 通所リハビリ（デイケア）

表 63

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	31	63.3	72.1	27	77.1	79.4
医療管理、健康面の維持・向上	1	2.0	2.3	2	5.7	5.9
食事・入浴・排泄面の維持・向上	3	6.1	7.0	—	—	—
生活意欲の維持・向上	3	6.1	7.0	3	8.6	8.8
社会参加・役割の維持・向上	1	2.0	2.3	1	2.9	2.9
家族の介護負担の軽減	1	2.0	2.3	1	2.9	2.9
住環境の改善	1	2.0	2.3	—	—	—
その他	2	4.1	4.7	—	—	—
無回答	6	12.2	—	1	2.9	—
合計	49	100.0	100.0	35	100.0	100.0

### ⑧短期入所生活介護

通所入所生活介護の利用をみると、「あり」が 51.3%と利用している人は5割を超える。その利用目的は、「家族の介護負担の軽減」が 87.5%と9割近くを占めている。

表 64

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	49	24.6	44.1	39	30.5	51.3
なし	62	31.2	55.9	37	28.9	48.7
無回答	88	44.2	—	52	40.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 短期入所生活介護

表 65

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	—	—	—	1	2.6	3.1
食事・入浴・排泄面の維持・向上	7	14.3	15.6	1	2.6	3.1
生活意欲の維持・向上	1	2.0	2.2	—	—	—
社会参加・役割の維持・向上	2	4.1	4.4	1	2.6	3.1
家族の介護負担の軽減	31	63.3	68.9	28	71.8	87.5
利用者・家族の希望	1	2.0	2.2	—	—	—
その他	3	6.1	6.7	1	2.6	3.1
無回答	4	8.2	—	7	17.9	—
合計	49	100.0	100.0	39	100.0	100.0

### ⑨短期入所療養介護

通所入所療養介護の利用をみると、「あり」が 11.5%と利用している人は少ない。その利用目的は、「家族の介護負担の軽減」が 100%である。

表 66

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	7	3.5	7.4	7	5.5	11.5
なし	88	44.2	92.6	54	42.2	88.5
無回答	104	52.3	—	67	52.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0



## 短期入所療養介護

表 67

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
家族の介護負担の軽減	5	71.4	100.0	7	100.0	100.0
無回答	2	28.6	—	—	—	—
合計	7	100.0	100.0	7	100.0	100.0

## ⑩特定施設入居者生活介護

特定施設入居者生活介護の利用をみると、「あり」が3.4%と利用している人は2人しかいない。その利用目的は、「無回答」が100%である。

表 68

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	1	.5	1.1	2	1.6	3.4
なし	88	44.2	98.9	56	43.8	96.6
無回答	110	55.3	—	70	54.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 特定施設入居者生活介護

表 69

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
家事・身の回り面の維持・向上	1	100.0	100.0	—	—	—
無回答	—	—	—	2	100.0	—
合計	1	100.0	100.0	2	100.0	—

## ⑪福祉用具の貸与

福祉用具の貸与の利用をみると、「あり」が80.8%と利用している人は約8割。その利用目的は、「日常生活動作の維持・向上」が55.2%で最も多く、次いで「住環境の改善」が17.9%となっている。

表 70

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	125	62.8	79.6	80	62.5	80.8
なし	32	16.1	20.4	19	14.8	19.2
無回答	42	21.1	—	29	22.7	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 福祉用具の貸与

表 71

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	70	56.0	64.8	37	46.3	55.2
医療管理、健康面の維持・向上	4	3.2	3.7	2	2.5	3.0
食事・入浴・排泄面の維持・向上	—	—	—	3	3.8	4.5
家事・身の回り面の維持・向上	1	.8	.9	3	3.8	4.5
認知症日常生活自立度の維持・向上	1	.8	.9	—	—	—
生活意欲の維持・向上	5	4.0	4.6	3	3.8	4.5
社会参加・役割の維持・向上	2	1.6	1.9	—	—	—
家族の介護負担の軽減	8	6.4	7.4	7	8.8	10.4
住環境の改善	15	12.0	13.9	12	15.0	17.9
その他	2	1.6	1.9	—	—	—
無回答	17	13.6	—	13	16.3	—
合計	125	100.0	100.0	80	100.0	100.0

### ⑫福祉用具購入費支給

福祉用具の貸与の利用をみると、「あり」が 46.2%と利用している人は5割を少し下回る。その利用目的は、「食事・入浴・排泄面の維持・向上」が 44.4%、「日常生活動作（ADL）の維持・向上」が 33.3%である。

表 72

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	46	23.1	42.2	30	23.4	46.2
なし	63	31.7	57.8	35	27.3	53.8
無回答	90	45.2	—	63	49.2	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

福祉用具購入費支給

表 73

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	13	28.3	30.2	9	30.0	33.3
食事・入浴・排泄面の維持・向上	14	30.4	32.6	12	40.0	44.4
生活意欲の維持・向上	1	2.2	2.3	1	3.3	3.7
社会参加・役割の維持・向上	1	2.2	2.3	1	3.3	3.7
家族の介護負担の軽減	6	13.0	14.0	—	—	—
住環境の改善	7	15.2	16.3	4	13.3	14.8
利用者・家族の希望	1	2.2	2.3	—	—	—
無回答	3	6.5	—	3	10.0	—
合計	46	100.0	100.0	30	100.0	100.0

⑬住宅改修

住宅改修の利用をみると、「あり」が60.0%と利用している人は6割。その利用目的は、「住環境の改善」が71.8%と最も多く、次いで「日常生活動作の維持・向上」が15.4%である。

表 74

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	77	38.7	62.1	45	35.2	60.0
なし	47	23.6	37.9	30	23.4	40.0
無回答	75	37.7	—	53	41.4	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 住宅改修

表 75

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	16	20.8	23.9	6	13.3	15.4
食事・入浴・排泄面の維持・向上	2	2.6	3.0	—	—	—
生活意欲の維持・向上	2	2.6	3.0	2	4.4	5.1
社会参加・役割の維持・向上	1	1.3	1.5	1	2.2	2.6
家族の介護負担の軽減	2	2.6	3.0	1	2.2	2.6
住環境の改善	43	55.8	64.2	28	62.2	71.8
経済環境の改善	1	1.3	1.5	—	—	—
利用者・家族の希望	—	—	—	1	2.2	2.6
無回答	10	13.0	—	6	13.3	—
合計	77	100.0	100.0	45	100.0	100.0

### ⑭夜間対応型訪問介護

夜間対応型訪問介護の利用をみると、「ない」が100%と利用している人はいない。

表 76

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	1	.5	1.1	—	—	—
なし	89	44.7	98.9	55	43.0	100.0
無回答	109	54.8	—	73	57.0	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑮認知症対応型通所介護

認知症対応型通所介護の利用をみると、「あり」が3.5%と利用している人は2人である。その利用目的は、「生活意欲の維持・向上」、「認知症日常生活度の維持・向上」が50%である。

表 77

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	7	3.5	7.5	2	1.6	3.5
なし	86	43.2	92.5	55	43.0	96.5
無回答	106	53.3	—	71	55.5	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 認知症対応型通所介護

表 78

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
認知症日常生活度の維持・向上	—	—	—	1	50.0	50.0
生活意欲の維持・向上	2	28.6	33.3	1	50.0	50.0
社会参加・役割の維持・向上	2	28.6	33.3	—	—	—
家族の介護負担の軽減	2	28.6	33.3	—	—	—
無回答	1	14.3	—	—	—	—
合計	7	100.0	100.0	2	100.0	100.0

### ⑩訪問診療・往診、訪問看護（医療）

訪問診療・往診、訪問看護（医療）の利用をみると、「あり」が 23.8%と利用している人は2割程度である。その利用目的は、「医療管理、健康面の維持・向上」が 92.3%を占めている。

表 79

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	29	14.6	28.2	15	11.7	23.8
なし	74	37.2	71.8	48	37.5	76.2
無回答	96	48.2	—	65	50.8	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### 訪問診療・往診、訪問看護（医療）

表 80

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	21	72.4	95.5	12	80.0	92.3
家族の介護負担の軽減	1	3.4	4.5	1	6.7	7.7
無回答	7	24.1	—	2	13.3	—
合計	29	100.0	—	15	100.0	100.0

### ⑰ その他医療機関の受診・通院

その他の医療機関の受診、通院の利用をみると、「あり」が70.0%と利用している人は7割を占める。その利用目的は、「医療管理、健康面の維持・向上」が88.4%を占めている。

表 81

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	59	29.6	53.2	49	38.3	70.0
なし	52	26.1	46.8	21	16.4	30.0
無回答	88	44.2	—	58	45.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### その他医療機関の受診・通院

表 82

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	—	—	—	2	4.1	4.7
医療管理、健康面の維持・向上	50	84.7	98.0	38	77.6	88.4
社会参加・役割の維持・向上	—	—	—	1	2.0	2.3
家族の介護負担の軽減	—	—	—	2	4.1	4.7
その他	1	1.7	2.0	—	—	—
無回答	8	13.6	—	6	12.2	—
合計	59	100.0	100.0	49	100.0	100.0

### ⑱ 生活支援サービス

生活支援サービスの利用をみると、「あり」が5.4%と利用している人は3人である。その利用目的は、「家事・身の回り面の維持・向上」、「住環境の改善」がそれぞれ50%である。

表 83

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	3	1.5	3.4	3	2.3	5.4
なし	85	42.7	96.6	53	41.4	94.6
無回答	111	55.8	—	72	56.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 生活支援サービス

表 84

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
家事・身の回り面の維持・向上	—	—	—	1	33.3	50.0
社会参加・役割の維持・向上	1	33.3	33.3	—	—	—
家族の介護負担の軽減	2	66.7	66.7	—	—	—
住環境の改善	—	—	—	1	33.3	50.0
無回答	—	—	—	1	33.3	—
合計	3	100.0	100.0	3	100.0	100.0

## ⑩生きがい対応型デイサービス

生きがい対応型デイサービスの利用をみると、「あり」が1.8%と利用している人は1人しかいない。その利用目的は、「医療管理、健康面の維持・向上」である。

表 85

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	1	.5	1.1	1	.8	1.8
なし	88	44.2	98.9	55	43.0	98.2
無回答	110	55.3	—	72	56.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 生きがい対応型デイサービス

表 86

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	—	—	—	1	100.0	100.0
無回答	1	100.0	—	—	—	—
合計	1	100.0	—	1	100.0	100.0

## ⑩配食サービス

配食サービスの利用をみると、「あり」が 20.3%と利用している人 2 割程度である。その利用目的は、「食事・入浴・排泄面の維持・向上」、「利用者・家族の希望」がそれぞれ 30%、「家族の介護負担の軽減」が 20%である。

表 87

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	22	11.1	22.4	13	10.2	20.3
なし	76	38.2	77.6	51	39.8	79.7
無回答	101	50.8	—	64	50.0	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 配食サービス

表 88

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	3	13.6	16.7	1	7.7	10.0
食事・入浴・排泄面の維持・向上	7	31.8	38.9	3	23.1	30.0
社会参加・役割の維持・向上	1	4.5	5.6	—	—	—
家族の介護負担の軽減	6	27.3	33.3	2	15.4	20.0
利用者・家族の希望	1	4.5	5.6	3	23.1	30.0
その他	—	—	—	1	7.7	10.0
無回答	4	18.2	—	3	23.1	—
合計	22	100.0	100.0	13	100.0	100.0



## ㉑ 近隣等のインフォーマルサービス

近隣等のインフォーマルサービスの利用をみると、「あり」が 36.4%と利用している人は 4 割程度である。その利用目的は、「社会参加・役割の維持・向上」が約 4 割を占めている。

表 89

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	47	23.6	43.9	24	18.8	36.4
なし	60	30.2	56.1	42	32.8	63.6
無回答	92	46.2	—	62	48.4	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 近隣等のインフォーマルサービス

表 90

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
医療管理、健康面の維持・向上	2	4.3	5.9	—	—	—
家事・身の回り面の維持・向上	5	10.6	14.7	3	12.5	17.6
生活意欲の維持・向上	7	14.9	20.6	1	4.2	5.9
意志疎通面の維持・向上	3	6.4	8.8	—	—	—
社会参加・役割の維持・向上	10	21.3	29.4	7	29.2	41.2
家族の介護負担の軽減	2	4.3	5.9	2	8.3	11.8
住環境の改善	—	—	—	1	4.2	5.9
経済環境の改善	1	2.1	2.9	1	4.2	5.9
利用者・家族の希望	3	6.4	8.8	1	4.2	5.9
その他	1	2.1	2.9	1	4.2	5.9
無回答	13	27.7	—	7	29.2	—
合計	47	100.0	100.0	24	100.0	100.0

## ㉒ その他

その他の利用をみると、「あり」が 29.6%と利用している人は3割程度である。その利用目的は、「日常生活動作（ADL）の維持・向上」、「医療管理、健康面の維持・向上」や「利用者・家族の希望」などがそれぞれ20%である。

表 91

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あり	19	9.5	23.8	16	12.5	29.6
なし	61	30.7	76.3	38	29.7	70.4
無回答	119	59.8	—	74	57.8	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## その他

表 92

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
日常生活動作（ADL）の維持・向上	2	10.5	13.3	3	18.8	20.0
医療管理、健康面の維持・向上	1	5.3	6.7	3	18.8	20.0
食事・入浴・排泄面の維持・向上	1	5.3	6.7	—	—	—
認知症日常生活度の維持・向上	1	5.3	6.7	1	6.3	6.7
生活意欲の維持・向上	2	10.5	13.3	1	6.3	6.7
社会参加・役割の維持・向上	1	5.3	6.7	2	12.5	13.3
家族の介護負担の軽減	2	10.5	13.3	2	12.5	13.3
住環境の改善	1	5.3	6.7	—	—	—
経済環境の改善	1	5.3	6.7	—	—	—
利用者・家族の希望	1	5.3	6.7	3	18.8	20.0
その他	2	10.5	13.3			
無回答	4	21.1	—	1	6.3	—
合計	19	100.0	100.0	16	100.0	100.0

#### 4 ケアマネジャー自身の評価について

##### ①利用者や家族が抱えているリスクを特定する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者や家族が抱えているリスクを特定するでは、「まあできている」が75.4%で最も多く、次いで「できている」が15.9%となっており、9割以上で出来ている。

表 93

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	1	.5	.5	—	—	—
あまりできていない	2	1.0	1.0	2	1.6	1.6
どちらともいえない	17	8.5	8.5	9	7.0	7.1
まあできている	154	77.4	77.4	95	74.2	75.4
できている	25	12.6	12.6	20	15.6	15.9
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

##### ②利用者のニーズや、家族・友人などの周辺環境を評価する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者のニーズや、家族・友人などの周辺環境を評価するでは、「まあできている」が71.4%で最も多く、次いで「できている」が11.9%となっており、8割以上で出来ている。

表 94

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	4	2.0	2.0	1	.8	.8
どちらともいえない	33	16.6	16.8	20	15.6	15.9
まあできている	143	71.9	72.6	90	70.3	71.4
できている	17	8.5	8.6	15	11.7	11.9
無回答	2	1.0	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ③利用者の強みや弱み、そしてそれらが日常生活に与える影響を把握する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者の強みや弱み、そしてそれらが日常生活に与える影響を把握するでは、「まあできている」が 72.0%で最も多く、次いで「できている」が 7.2%となっており、8割近くで出来ている。

表 95

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	2	1.0	1.0	2	1.6	1.6
どちらともいえない	47	23.6	23.6	24	18.8	19.2
まあできている	130	65.3	65.3	90	70.3	72.0
できている	20	10.1	10.1	9	7.0	7.2
無回答	—	—	—	3	2.3	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ④利用者のニーズや目標達成に向けた適切なサービス提供が行われているか、継続的なアセスメントを行う

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者のニーズや目標達成に向けた適切なサービス提供が行われているか、継続的なアセスメントを行うでは、「まあできている」が 69.8%で最も多く、次いで「できている」が 20.6%となっており、9割で出来ている。

表 96

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	1	.5	.5	—	—	—
あまりできていない	5	2.5	2.5	2	1.6	1.6
どちらともいえない	21	10.6	10.6	10	7.8	7.9
まあできている	138	69.3	69.3	88	68.8	69.8
できている	34	17.1	17.1	26	20.3	20.6
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑤継続的なアセスメントの結果を記録に残す

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、継続的なアセスメントの結果を記録に残すでは、「まあできている」が 52.4%で最も多く、次いで「できている」が 30.2%となっており、8割以上で出来ている。

表 97

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	6	3.0	3.0	4	3.1	3.2
どちらともいえない	18	9.0	9.0	18	14.1	14.3
まあできている	118	59.3	59.3	66	51.6	52.4
できている	57	28.6	28.6	38	29.7	30.2
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑥利用者や家族と協働してケアプランを作成する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者や家族と協働してケアプランを作成するでは、「まあできている」が 50.0%で最も多く、次いで「できている」が 27.8%となっており、8割近くで出来ている。

表 98

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	1	.5	.5	—	—	—
あまりできていない	9	4.5	4.5	4	3.1	3.2
どちらともいえない	27	13.6	13.6	24	18.8	19.0
まあできている	112	56.3	56.3	63	49.2	50.0
できている	50	25.1	25.1	35	27.3	27.8
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑦利用者との適切な関係性を築き、継続する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者との適切な関係性を築き、継続するでは、「まあできている」が 61.9%で最も多く、次いで「できている」が 34.9%となっており、9割以上で出来ている。

表 99

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	2	1.0	1.0	1	.8	.8
どちらともいえない	11	5.5	5.5	3	2.3	2.4
まあできている	127	63.8	63.8	78	60.9	61.9
できている	59	29.6	29.6	44	34.4	34.9
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑧利者の自立を促し、自己決定を支援する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利者の自立を促し、自己決定を支援するでは、「まあできている」が 54.0%で最も多く、次いで「できている」が 22.2%となっており、8割近くで出来ている。

表 100

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	1	.5	.5	—	—	—
あまりできていない	6	3.0	3.0	4	3.1	3.2
どちらともいえない	48	24.1	24.4	26	20.3	20.6
まあできている	111	55.8	56.3	68	53.1	54.0
できている	31	15.6	15.7	28	21.9	22.2
無回答	2	1.0	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑨利用者の緊急時に適切に対処する

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者の緊急時に適切に対処するでは、「まあできている」が57.9%で最も多く、次いで「できている」が27.8%となっており、8割以上で出来ている。

表 101

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	6	3.0	3.0	1	.8	.8
どちらともいえない	19	9.5	9.6	17	13.3	13.5
まあできている	130	65.3	65.7	73	57.0	57.9
できている	43	21.6	21.7	35	27.3	27.8
無回答	1	.5	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑩サービスが利用者のニーズにあっているか確認するため、継続的にサービス提供や利用者との連絡・調整を行う

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、サービスが利用者のニーズにあっているか確認するため、継続的にサービス提供や利用者との連絡・調整を行うでは、「まあできている」が65.1%で最も多く、次いで「できている」が31.7%となっており、9割以上で出来ている。

表 102

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	1	.5	.5	—	—	—
どちらともいえない	13	6.5	6.5	4	3.1	3.2
まあできている	112	56.3	56.3	82	64.1	65.1
できている	73	36.7	36.7	40	31.3	31.7
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑩利用者のニーズの変化に迅速に対応し、適切にサービスを変更する**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者のニーズの変化に迅速に対応し、適切にサービスを変更するでは、「まあできている」が63.5%で最も多く、次いで「できている」が26.2%となっており、9割近くで出来ている。

表 103

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	1	.5	.5	—	—	—
あまりできていない	1	.5	.5	3	2.3	2.4
どちらともいえない	16	8.0	8.1	10	7.8	7.9
まあできている	124	62.3	62.6	80	62.5	63.5
できている	56	28.1	28.3	33	25.8	26.2
無回答	1	.5	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑪サービスの終了が適切な場合に、利用者とともに計画し、手続きを行う**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、サービスの終了が適切な場合に、利用者とともに計画し、手続きを行うでは、「まあできている」が52.4%で最も多く、次いで「できている」が23.8%となっており、8割近くで出来ている。

表 104

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	2	1.0	1.0	—	—	—
あまりできていない	8	4.0	4.1	3	2.3	2.4
どちらともいえない	44	22.1	22.3	27	21.1	21.4
まあできている	108	54.3	54.8	66	51.6	52.4
できている	35	17.6	17.8	30	23.4	23.8
無回答	2	1.0	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0



**⑬公的資源のみではなく、家族などのインフォーマルな資源も適切に活用する**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、公的資源のみではなく、家族などのインフォーマルな資源も適切に活用するでは、「まあできている」が 50.8%で最も多く、次いで「できている」が 19.0%となっており、7割近くで出来ている。

表 105

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	2	1.0	1.0	—	—	—
あまりできていない	15	7.5	7.5	6	4.7	4.8
どちらともいえない	50	25.1	25.1	32	25.0	25.4
まあできている	107	53.8	53.8	64	50.0	50.8
できている	25	12.6	12.6	24	18.8	19.0
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑭利用者が利用可能な地域資源について、最新の情報を把握する**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者が利用可能な地域資源について、最新の情報を把握するでは、「まあできている」が 47.6%で最も多く、次いで「できている」が 11.9%となっており、6割近くで出来ている。

表 106

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	20	10.1	10.1	10	7.8	7.9
どちらともいえない	58	29.1	29.1	41	32.0	32.5
まあできている	102	51.3	51.3	60	46.9	47.6
できている	19	9.5	9.5	15	11.7	11.9
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑮利用者へのサービス提供に関連する法律や規制などについて十分な知識と理解を持つ**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、利用者へのサービス提供に関連する法律や規制などについて十分な知識と理解を持つでは、「まあできている」が49.2%で最も多く、次いで「できている」が13.5%となっており、6割以上で出来ている。

表 107

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	15	7.5	7.5	9	7.0	7.1
どちらともいえない	49	24.6	24.6	38	29.7	30.2
まあできている	120	60.3	60.3	62	48.4	49.2
できている	15	7.5	7.5	17	13.3	13.5
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑯適切なサービスが受けられるよう、利用者の権利を擁護する**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、適切なサービスが受けられるよう、利用者の権利を擁護するでは、「まあできている」が61.1%で最も多く、次いで「できている」が21.4%となっており、8割以上で出来ている。

表 108

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	4	2.0	2.0	2	1.6	1.6
どちらともいえない	31	15.6	15.6	20	15.6	15.9
まあできている	128	64.3	64.3	77	60.2	61.1
できている	36	18.1	18.1	27	21.1	21.4
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑩多職種によるチームの一員として働く

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、多職種によるチームの一員として働くでは、「まあできている」が55.6%で最も多く、次いで「できている」が27.8%となっており、8割以上で出来ている。

表 109

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	2	1.0	1.0	1	.8	.8
どちらともいえない	16	8.0	8.0	20	15.6	15.9
まあできている	139	69.8	69.8	70	54.7	55.6
できている	42	21.1	21.1	35	27.3	27.8
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

### ⑪ケアマネジャー自身が適切にスーパービジョンを受ける

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、ケアマネジャー自身が適切にスーパービジョンを受けるでは、「まあできている」が41.3%で最も多く、次いで「できている」が6.3%となっており、5割近くで出来ている。

表 110

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	10	5.0	5.0	3	2.3	2.4
あまりできていない	34	17.1	17.1	19	14.8	15.1
どちらともいえない	72	36.2	36.2	44	34.4	34.9
まあできている	66	33.2	33.2	52	40.6	41.3
できている	17	8.5	8.5	8	6.3	6.3
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑱重要事項説明、同意取得、ケアプラン交付などの書類関係業務を、利用者に対し適切に行う**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、重要事項説明、同意取得、ケアプラン交付などの書類関係業務を、利用者に対し適切に行うでは、「まあできている」、「できている」が46.8%で最も多く、9割以上で出来ている。

表 111

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
あまりできていない	1	.5	.5	3	2.3	2.4
どちらともいえない	9	4.5	4.5	5	3.9	4.0
まあできている	94	47.2	47.2	59	46.1	46.8
できている	95	47.7	47.7	59	46.1	46.8
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

**⑳日本介護支援専門員協会の倫理綱領等に定められた内容を理解し、実践に活かす**

ケアマネジャー自身の評価をどの程度出来ているかをみると、日本介護支援専門員協会の倫理綱領等に定められた内容を理解し、実践に活かすでは、「まあできている」が46.0%で最も多く、次いで「できている」が21.4%となっており、7割近くで出来ている。

表 112

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
できていない	2	1.0	1.0	1	.8	.8
あまりできていない	14	7.0	7.0	11	8.6	8.7
どちらともいえない	46	23.1	23.1	29	22.7	23.0
まあできている	107	53.8	53.8	58	45.3	46.0
できている	30	15.1	15.1	27	21.1	21.4
無回答	—	—	—	2	1.6	—
合計	199	100.0	100.0	128	100.0	100.0

## 4.2 利用者調査

### 4.2.1 基本属性の概要

#### 1) 記入者

回答のあった利用者の基本属性に関して無回答を除く有効回答でみると、記入者は「ご本人以外」が81.2%と8割以上を占めている。

表 113

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
利用者本人	41	20.2	20.4	26	18.8	18.8
本人以外	160	78.8	79.6	112	81.2	81.2
無回答	2	1.0	—	—	—	—
合計	203	100.0	100.0	138	100.0	100.0

\* 表左3列は前23年度、右3列は24年度数値 以下同じ

#### 1-2) ご本人以外

その内訳では、「ご家族」が95.1%と大半を占めている。

表 114

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
家族	137	85.6	91.9	97	86.6	95.1
その他	12	7.5	8.1	5	4.5	4.9
無回答	11	6.9	—	10	8.9	—
合計	160	100.0	100.0	112	100.0	100.0

#### 1-3) 家族の内訳

さらにその家族の内訳をみると「子供」が49.3%で最も多く、次いで「配偶者」の37.3%となっている。

表 115

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
配偶者	27	19.7	36.0	25	22.3	37.3
子ども	42	30.7	56.0	33	29.5	49.3
その他	6	4.4	8.0	9	8.0	13.4
無回答	62	45.3	—	45	40.2	—
合計	137	100.0	100.0	112	100.0	100.0

## 2) 昨年度と同じ記入者

また今回の回答者のなかで「昨年度と同様」の回答者は66.9%であった。

表 116

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
はい	137	68.2	68.8	91	65.9	66.9
いいえ	62	30.8	31.2	45	32.6	33.1
無回答	2	1.0	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

## 4.2.2 現在の本人の状況について

### 1) 本人が考える本人の現在の状況

#### ①日常生活自立度

日常生活の自立度をみると、「屋内ではひとりで生活できる」が 47.4%で最も多く、次いで「座ることができる」が 32.1%、「ほとんどベッドの上」が 10.9%の順となっている。

表 117

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりで外出できる	21	10.4	10.6	13	9.4	9.5
屋内ではひとりで生活できる	97	48.3	49.0	65	47.1	47.4
座ることができる(車いす)	54	26.9	27.3	44	31.9	32.1
ほとんどベッド上	26	12.9	13.1	15	10.9	10.9
無回答	3	1.5	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

#### ②健康状態や受診に関して

健康や受診に関してをみると、「困らないよう助けてもらっている」が 67.9%で最も多く、次いで「少し困っている」が 19.7%、「困っていることはない」が 7.3%の順となっている。

表 118

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	12	6.0	6.1	10	7.2	7.3
困らないよう助けてもらっている	133	66.2	67.2	93	67.4	67.9
少し困っている	40	19.9	20.2	27	19.6	19.7
困っている	13	6.5	6.6	7	5.1	5.1
無回答	3	1.5	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ③食事に関して

食事に関してをみると、「助けてもらってできている」が43.0%で最も多く、次いで「ひとりでできる」が37.0%、「少しできないところがある」が14.1%の順となっている。

表 119

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	74	35.9	36.5	50	36.2	37.0
助けてもらってできている	87	42.2	42.9	58	42.0	43.0
少しできないところがある	29	14.1	14.3	19	13.8	14.1
できない	13	6.3	6.4	8	5.8	5.9
無回答	3	1.5	—	3	2.2	—
合計	206	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ④入浴に関して

入浴に関してをみると、「助けてもらってできている」が62.0%で最も多く、次いで「ひとりでできる」が16.1%、「できない」が13.1%、「少しできないところがある」が8.8%の順となっている。

表 120

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	26	12.9	13.0	22	15.9	16.1
助けてもらってできている	125	62.2	62.5	85	61.6	62.0
少しできないところがある	23	11.4	11.5	12	8.7	8.8
できない	26	12.9	13.0	18	13.0	13.1
無回答	1	.5	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0



### ⑤排泄に関して

排泄に関してをみると、「ひとりでできる」が 43.8%で最も多く、次いで「助けてもらってできている」が 32.8%、「少しできないところがある」が 13.1%、「できない」が 10.2%の順となっている。

表 121

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	89	44.3	44.5	60	43.5	43.8
助けてもらってできている	63	31.3	31.5	45	32.6	32.8
少しできないところがある	27	13.4	13.5	18	13.0	13.1
できない	21	10.4	10.5	14	10.1	10.2
無回答	1	.5	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑥家事に関して

家事に関してをみると、「できない」が 58.8%で最も多く、次いで「助けてもらってできる」が 27.2%、「少しできないところがある」が 10.3%の順となっている。

表 122

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	3	1.5	1.5	5	3.6	3.7
助けてもらってできている	61	30.3	30.8	37	26.8	27.2
少しできないところがある	26	12.9	13.1	14	10.1	10.3
できない	108	53.7	54.5	80	58.0	58.8
無回答	3	1.5	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑦認知症の程度

認知症の程度をみると、「誰かが注意していれば問題ない」が 42.3%で最も多く、次いで「問題がない」が 33.6%、「常に介護が必要」が 14.6%、「時々介護が必要」が 9.5%の順となっている。

表 123

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
問題ない（自立）	60	29.9	30.3	46	33.3	33.6
誰かが注意していれば問題ない	67	33.3	33.8	58	42.0	42.3
時々介護が必要	40	19.9	20.2	13	9.4	9.5
常に介護が必要	31	15.4	15.7	20	14.5	14.6
無回答	3	1.5	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑧生活の意欲

生活の意欲をみると、「少しある」が 46.7%で最も多く、次いで「あまりない」が 24.8%、「とてもある」が 24.1%、「ない」が 4.4%の順となっている。

表 124

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とてもある	46	22.9	23.2	33	23.9	24.1
少しある	81	40.3	40.9	64	46.4	46.7
あまりない	56	27.9	28.3	34	24.6	24.8
ない	15	7.5	7.6	6	4.3	4.4
無回答	3	1.5	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑨意思疎通に関して

意思疎通に関してをみると、「ひとりでできる」が41.2%で最も多く、次いで「助けってもらってできる」が31.6%、「少しできないところがある」が19.1%、「できない」が8.1%の順となっている。

表 125

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	74	36.8	37.0	56	40.6	41.2
助けってもらってできている	60	29.9	30.0	43	31.2	31.6
少しできないところがある	50	24.9	25.0	26	18.8	19.1
できない	16	8.0	8.0	11	8.0	8.1
無回答	1	.5	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑩社会参加や役割

社会参加や役割をみると、「参加できない」が36.0%で最も多く、次いで「助けってもらって参加できている」が33.8%、「少し参加できないところがある」が23.5%、「自分で参加している」が6.6%の順となっている。

表 126

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
自分で参加している	11	5.5	5.5	9	6.5	6.6
助けってもらって参加している	68	33.8	34.2	46	33.3	33.8
少し参加できないところがある	38	18.9	19.1	32	23.2	23.5
参加できない	82	40.8	41.2	49	35.5	36.0
無回答	2	1.0	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑪家族の介護負担

家族の介護の負担をみると、「まあ大きい」が39.7%で最も多く、次いで「まあ小さい」が34.6%、「小さい」が13.2%、「大きい・介護者がいない」が12.5%の順となっている。

表 127

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
小さい	19	9.5	9.8	18	13.0	13.2
まあ小さい	69	34.3	35.8	47	34.1	34.6
まあ大きい	82	40.8	42.5	54	39.1	39.7
大きい・介護者がいない	23	11.4	11.9	17	12.3	12.5
無回答	8	4.0	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑫住んでいる環境（段差等）

住んでいる環境をみると、「困らないように助けてもらっている」が58.4%で最も多く、次いで「困っていることはない」が21.9%、「少し困っている」が16.1%、「困っている」が3.6%の順となっている。

表 128

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	39	19.4	19.8	30	21.7	21.9
困らないよう助けてもらっている	112	55.7	56.9	80	58.0	58.4
少し困っていることがある	37	18.4	18.8	22	15.9	16.1
困っている	9	4.5	4.6	5	3.6	3.6
無回答	4	2.0	—	1	.7	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑬経済環境（サービス利用等）

経済環境をみると、「困らないように助けてもらっている」が 50.0%で最も多く、次いで「困っていることはない」が 32.4%、「少し困っていることがある」が 13.2%、「困っている」が 4.4%の順となっている。

表 129

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	62	30.8	31.2	44	31.9	32.4
困らないよう助けてもらっている	103	51.2	51.8	68	49.3	50.0
少し困っていることがある	24	11.9	12.1	18	13.0	13.2
困っている	10	5.0	5.0	6	4.3	4.4
無回答	2	1.0	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑭在宅生活の状況

在宅生活の状況をみると、「何とか在宅で暮らせる」が 53.3%で最も多く、次いで「安心して在宅で過ごせる」が 37.8%、「在宅では暮らせない」が 5.9%の順となっている。

表 130

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
質の高い生活が送れる	3	1.5	1.6	4	2.9	3.0
安心して在宅で暮らせる	75	37.3	39.3	51	37.0	37.8
何とか在宅で暮らせる	99	49.3	51.8	72	52.2	53.3
在宅では暮らせない	14	7.0	7.3	8	5.8	5.9
無回答	10	5.0	—	3	2.2	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

## 2) 利用者本人が大切にしている項目の優先度の高いもの

本人が大切にしている項目の優先度をみると、「身体面」が最も多く、次いで「気持ち・認知面」、「介護環境面」、「周囲との関係面」の順となっている。

### 身体面

表 131

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	121	60.2	60.8	87	63.0	64.0
2位	46	22.9	23.1	28	20.3	20.6
3位	19	9.5	9.5	14	10.1	10.3
4位	13	6.5	6.5	7	5.1	5.1
無回答	2	1.0	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### 気持ち・認知面

表 132

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	53	26.4	26.9	30	21.7	22.2
2位	65	32.3	33.0	48	34.8	35.6
3位	55	27.4	27.9	36	26.1	26.7
4位	24	11.9	12.2	21	15.2	15.6
無回答	4	2.0	—	3	2.2	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### 周囲との関係面

表 133

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	15	7.5	7.6	6	4.3	4.4
2位	38	18.9	19.3	21	15.2	15.6
3位	55	27.4	27.9	41	29.7	30.4
4位	89	44.3	45.2	67	48.6	49.6
無回答	4	2.0	—	3	2.2	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

## 介護環境面

表 134

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
1位	18	9.0	9.1	14	10.1	10.4
2位	48	23.9	24.4	42	30.4	31.1
3位	68	33.8	34.5	41	29.7	30.4
4位	63	31.3	32.0	38	27.5	28.1
無回答	4	2.0	—	3	2.2	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### 3) 現在在宅で暮らす自信の程度

利用者の在宅で暮らす自信の程度をみると、「どちらかといえば在宅で暮らす自信がある」が50.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば在宅で暮らす自信はない」が22.1%、「在宅で暮らす自信がある」が19.9%、「在宅で暮らす自信はない」が7.4%の順となっている。

表 135

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
在宅で暮らす自信がある	49	24.4	24.7	27	19.6	19.9
どちらかといえば在宅で暮らす自信がある	92	45.8	46.5	69	50.0	50.7
どちらかといえば在宅で暮らす自信はない	43	21.4	21.7	30	21.7	22.1
在宅で暮らす自信はない	14	7.0	7.1	10	7.2	7.4
無回答	3	1.5	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### 4) 現在入所を考えていますか

利用者の施設入所についての考えをみると、「施設入所を考えていない」が66.4%で最も多く、次いで「施設入所を考えはじめている」が17.2%、「実際に施設へ申し込んでいる」が16.4%の順となっている。

表 136

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
施設への入所は考えていない	122	60.7	61.3	89	64.5	66.4
施設への入所を考え始めている	39	19.4	19.6	23	16.7	17.2
実際に施設への入所を申し込んでいる	38	18.9	19.1	22	15.9	16.4
無回答	2	1.0	—	4	2.9	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

## 5) 担当ケアマネジャーに対してどの程度対応してもらっているか

### ①利用者の身体的な状況について理解してもらっているか (24年度のみ)

担当ケアマネジャーの利用者への対応について利用者の身体的な状況について理解してもらっているかでは、「十分理解してもらっている」が 50.0%で最も多く、「ほぼ理解してもらっている」の 44.9%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 137

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解してもらっていない	2	1.4	1.5
少し理解してもらっていない	5	3.6	3.7
ほぼ理解してもらっている	61	44.2	44.9
十分理解してもらっている	68	49.3	50.0
無回答	2	1.4	—
合計	138	100.0	100.0

### ②利用者の心理的な状況について理解してもらっているか (24年度のみ)

担当ケアマネジャーの利用者への対応について利用者の心理的な状況について理解してもらっているかでは、「ほぼ理解してもらっている」が 52.2%で最も多く、「十分理解してもらっている」が 40.4%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 138

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解してもらっていない	1	.7	.7
少し理解してもらっていない	9	6.5	6.6
ほぼ理解してもらっている	71	51.4	52.2
十分理解してもらっている	55	39.9	40.4
無回答	2	1.4	—
合計	138	100.0	100.0



**③利用者の社会的な状況について理解してもらっているか (24年度のみ)**

担当ケアマネジャーの利用者への対応について利用者の社会的な状況について理解してもらっているかでは、「ほぼ理解してもらっている」が 51.9%で最も多く、「十分理解してもらっている」が 43.0%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 139

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解してもらっていない	1	.7	.7
少し理解してもらっていない	6	4.3	4.4
ほぼ理解してもらっている	70	50.7	51.9
十分理解してもらっている	58	42.0	43.0
無回答	3	2.2	—
合計	138	100.0	100.0

**④利用者の今後の生活目標について理解してもらっているか (24年度のみ)**

担当ケアマネジャーの利用者への対応について利用者の今後の生活目標について理解してもらっているかでは、「ほぼ理解してもらっている」が 51.1%で最も多く、「十分理解してもらっている」が 42.2%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 140

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解してもらっていない	3	2.2	2.2
少し理解してもらっていない	6	4.3	4.4
ほぼ理解してもらっている	69	50.0	51.1
十分理解してもらっている	57	41.3	42.2
無回答	3	2.2	—
合計	138	100.0	100.0

**⑤利用者の生活上のニーズについて理解してもらっているか (24年度のみ)**

担当ケアマネジャーの利用者への対応について利用者の生活上のニーズについて理解してもらっているかでは、「十分理解してもらっている」が 47.8%で最も多く、「ほぼ理解してもらっている」の 45.6%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 141

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど理解してもらっていない	3	2.2	2.2
少し理解してもらっていない	6	4.3	4.4
ほぼ理解してもらっている	62	44.9	45.6
十分理解してもらっている	65	47.1	47.8
無回答	2	1.4	—
合計	138	100.0	100.0

**⑥利用者のニーズにあったサービスや支援につなげてもらっているか (24年度のみ)**

担当ケアマネジャーの利用者への対応について利用者のニーズにあったサービスや支援につなげてもらっているか、「十分つなげてもらっている」が 52.6%で最も多く、「ほぼつなげてもらっている」の 41.5%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 142

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんどつなげてもらっていない	3	2.2	2.2
少しつなげてもらっていない	5	3.6	3.7
ほぼつなげてもらっている	56	40.6	41.5
十分つなげてもらっている	71	51.4	52.6
無回答	3	2.2	—
合計	138	100.0	100.0

⑦必要な場合には、利用者宅に訪問し、話を聴いてもらっているか (24年度のみ)

担当ケアマネジャーの利用者への対応について必要な場合には、利用者宅に訪問し、話を聴いてもらっているか、「十分聴いてもらっている」が 59.0%で最も多く、「ほぼ聴いてもらっている」の 35.1%を合わせると 9割以上が理解してもらっている。

表 143

	回答数	パーセント	有効パーセント
ほとんど聴いてもらっていない	3	2.2	2.2
少し聴いてもらっていない	5	3.6	3.7
ほぼ聴いてもらっている	47	34.1	35.1
十分聴いてもらっている	79	57.2	59.0
無回答	4	2.9	—
合計	138	100.0	100.0

## 6) ケアマネジャーに対して満足

### ①不安なことや心配なことの話をきいてもらう

ケアマネジャーへの満足度で不安なことや心配なことの話をきいてもらうでは「とても満足」が44.9%で最も多く、「満足」の43.4%を合わせると9割近くが満足している。

表 144

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とても満足	86	42.8	43.0	61	44.2	44.9
満足	94	46.8	47.0	59	42.8	43.4
どちらでもない	17	8.5	8.5	11	8.0	8.1
不満	3	1.5	1.5	2	1.4	1.5
とても不満	—	—	—	3	2.2	2.2
無回答	1	.5	—	2	1.4	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ②介護サービスの調整をしてもらう

ケアマネジャーへの満足度で介護サービスの調整をしてもらうでは「とても満足」が48.9%で最も多く、「満足」の44.4%を合わせると9割以上が満足している。

表 145

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とても満足	92	45.8	46.2	66	47.8	48.9
満足	91	45.3	45.7	60	43.5	44.4
どちらでもない	11	5.5	5.5	4	2.9	3.0
不満	4	2.0	2.0	2	1.4	1.5
とても不満	1	.5	.5	3	2.2	2.2
無回答	2	1.0	—	3	2.2	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ③病院や診療所への連絡をしてもらう

ケアマネジャーへの満足度で病院や診療所への連絡をしてもらうでは「とても満足」が35.3%で最も多く、「満足」の30.1%を合わせると6割以上が満足している。

表 146

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とても満足	57	28.4	29.1	47	34.1	35.3
満足	68	33.8	34.7	40	29.0	30.1
どちらでもない	67	33.3	34.2	43	31.2	32.3
不満	3	1.5	1.5	—	—	—
とても不満	1	.5	.5	3	2.2	2.3
無回答	5	2.5	—	5	3.6	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ④何かあった時のために見守ってもらう

ケアマネジャーへの満足度で何かあった時のために見守ってもらうでは「満足」が43.7%で最も多く、「とても満足」の32.6%を合わせると7割以上が満足している。

表 147

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とても満足	64	31.8	32.2	44	31.9	32.6
満足	95	47.3	47.7	59	42.8	43.7
どちらでもない	38	18.9	19.1	28	20.3	20.7
不満	2	1.0	1.0	1	.7	.7
とても不満	—	—	—	3	2.2	2.2
無回答	2	1.0	—	3	2.2	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### ⑤その他

ケアマネジャーへの満足度でその他では「とても満足」が 58.3%で最も多く、「満足」の 33.3%を合わせると 9割以上が満足している。

表 148

	回答数	パーセント	有効パーセント	回答数	パーセント	有効パーセント
とても満足	19	9.5	52.8	14	10.1	58.3
満足	8	4.0	22.2	8	5.8	33.3
どちらでもない	6	3.0	16.7	2	1.4	8.3
不満	2	1.0	5.6	—	—	—
とても不満	1	.5	2.8	—	—	—
無回答	165	82.1	—	114	82.6	—
合計	201	100.0	100.0	138	100.0	100.0

### 4.3 3時点での経過の比較

#### 4.3.1 QOL ケアマネジャーにおける3時点(3年間)の状態等の変化比較

過去3回の調査でケアマネジャーのデータを突合し、以下の期間を在宅継続している126サンプルを3時点で比較している。(無回答を除く有効回答)

10年度開始(2010年10月～2011年5月の間にサービスを開始) —10年度現在(2010年11月現在) —11年度現在(2011年11月現在) —12年度現在(2012年12月現在)

#### Ⅱ-2) 家族状況

家族の状況をみると、この3年の間に「同居家族あり」は80%前後で推移している。

表 149

	10年度現在		11年度現在		12年度現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
独居	23	18.4	30	24.4	26	20.6
同居家族あり	102	81.6	93	75.6	100	79.4
合計	125	100.0	123	100.0	126	100.0

#### Ⅱ-3) 要介護度

対象利用者の介護度をみると、ここ3年間では「要介護5」が3.2%から7.1%と増えている。さらに「介護度3」、「介護度4」もそれぞれ17.7%から19.8%、12.9%から19.8%に増えており、全体にやや介護度の重度化がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.003で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.510で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 150

	10年度現在		11年度現在		12年度現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
要支援1	5	4.0	7	5.6	3	2.4
要支援2	12	9.7	11	8.9	12	9.5
要介護1	34	27.4	27	21.8	27	21.4
要介護2	31	25.0	29	23.4	25	19.8
要介護3	22	17.7	17	13.7	25	19.8
要介護4	16	12.9	17	13.7	25	19.8
要介護5	4	3.2	16	12.9	9	7.1
合計	124	100.0	124	100.0	126	100.0

#### Ⅱ-4) 対象利用者の状態

対象利用者の状態をみると、この3年の間に「脳血管障害後遺症」や「認知症」が36%から40%前後で推移しているほか、廃用症候群は20.8%から16.4%と少し減っている状態が続いている。

表 151

	10年度現在		11年度現在		12年度現在	
	度数	ケース (n125) のパーセント	度数	ケース (n125) のパーセント	度数	ケース (n125) のパーセント
脳血管障害後遺症	45	36.0%	46	36.8%	47	38.5%
認知症	52	41.6%	46	36.8%	47	38.5%
ターミナル (看取り)	—	—	1	.8%	—	—
廃用性症候群	26	20.8%	24	19.2%	20	16.4%
関節疾患	25	20.0%	29	23.2%	26	21.3%
その他	37	29.6%	40	32.0%	35	28.7%
該当なし	—	—	2	1.6%	5	4.1%
合計	185	148.0%	188	150.4%	180	147.5%



### Ⅲ-1)現在の利用者の状態

#### ①日常生活の自立度

身体面等の3時点での変化の状態をみると、日常生活の自立度では「ひとりで外出できる」などが10年度現在の9.8%から7.3%までやや減っている。一方では「ほとんどベッドの上」がこの3年間で4.1%から12.2%に増えており、日常生活の自立度は低下傾向にある。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.001で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.343で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 152

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりで外出できる	17	13.8	12	9.8	9	7.4	9	7.3
屋内ではひとりで生活できる	54	43.9	82	66.7	69	56.6	65	52.8
座ることができる(車いす)	31	25.2	24	19.5	30	24.6	34	27.6
ほとんどベッドの上	21	17.1	5	4.1	14	11.5	15	12.2
合計	123	100.0	123	100.0	122	100.0	123	100.0

#### ②健康状態や受診に関して

健康状態や受診に関して3時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」の割合がこの3年間で5.6%から6.5%とわずかに増えており、「困っている」も7.3%から3.3%に少し減っているなど全体に改善傾向にある。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.081で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.023で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 153

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
困っていることはない	5	4.0	7	5.6	7	5.8	8	6.5
困らないよう助けてもらっている	38	30.6	88	71.0	82	67.8	95	77.2
少し困っていることがある	45	36.3	20	16.1	23	19.0	16	13.0
困っている	36	29.0	9	7.3	9	7.4	4	3.3
合計	124	100.0	124	100.0	121	100.0	123	100.0

### ③食事に関して

食事に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で52.0%から35.8%へ大きく減っている。また「できない」が0%から1.6%とわずかに増えるなどやや低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.033で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.002で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 154

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	52	41.9	64	52.0	34	27.6	44	35.8
助けてもらってできている	38	30.6	45	36.6	64	52.0	67	54.5
少しできないところがある	26	21.0	14	11.4	16	13.0	10	8.1
できない	8	6.5	—	—	9	7.3	2	1.6
合計	124	100.0	123	100.0	123	100.0	123	100.0

### ④入浴に関して

入浴に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で21.0%から10.6%へ減っている。その一方で「できない」が5.6%から7.3%に、わずかに増えるなど全体として低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.051で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.130で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 155

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	18	14.5	26	21.0	17	13.8	13	10.6
助けてもらってできている	44	35.5	77	62.1	73	59.3	87	70.7
少しできないところがある	37	29.8	14	11.3	16	13.0	14	11.4
できない	25	20.2	7	5.6	17	13.8	9	7.3
合計	124	100.0	124	100.0	123	100.0	123	100.0

### ⑤排泄に関して

排泄に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で56.5%から43.9%へ大きく減っている。その一方で「できない」が1.6%から7.3%に増えるなど全体として低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.021で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.534で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 156

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	55	44.4	70	56.5	56	45.5	54	43.9
助けてもらってできている	31	25.0	30	24.2	37	30.1	43	35.0
少しできないところがある	30	24.2	22	17.7	17	13.8	17	13.8
できない	8	6.5	2	1.6	13	10.6	9	7.3
合計	124	100.0	124	100.0	123	100.0	123	100.0

### ⑥家事に関して

家事に関して3時点での変化の状態をみると、この3年間で「できない」が43.5%から46.3%とやや増えてはいるが、その他「助けてもらってできている」や「少しできないところがある」などでは全体としてやや改善傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.782で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.347で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 157

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	4	3.2	4	3.2	4	3.3	4	3.3
助けてもらってできている	24	19.4	40	32.3	44	35.8	47	38.8
少しできないところがある	18	14.5	26	21.0	14	11.4	14	11.6
できない	78	62.9	54	43.5	61	49.6	56	46.3
合計	124	100.0	124	100.0	123	100.0	121	100.0

### ⑦認知症に関して

認知症に関して3時点での変化の状態をみると、「常に介護が必要」が8.9%から12.4%、「時々介護が必要」が15.4%から16.5%にやや増えるなど全体として低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.236で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.627で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 158

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
問題ない（自立）	45	36.6	39	31.7	44	36.1	38	31.4
誰かが注意していれば問題ない	34	27.6	54	43.9	39	32.0	48	39.7
時々介護が必要	30	24.4	19	15.4	18	14.8	20	16.5
常に介護が必要	14	11.4	11	8.9	21	17.2	15	12.4
合計	123	100.0	123	100.0	122	100.0	121	100.0

### ⑧生活の意欲

生活の意欲を3時点での変化の状態をみると、「とてもある」の割合がこの3年間で32.2%から22.7%と減っている。また「あまりない」の割合16.5%から22.7%に増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.033で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.715で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 159

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とてもある	21	17.2	39	32.2	35	28.5	27	22.7
少しある	40	32.8	60	49.6	50	40.7	62	52.1
あまりない	44	36.1	20	16.5	28	22.8	27	22.7
なかった	17	13.9	2	1.7	10	8.1	3	2.5
合計	122	100.0	121	100.0	123	100.0	119	100.0

### ⑨意思疎通に関して

意思疎通に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合が59.8%から50.8%とこの3年間で減っている。また「少しできないところがある」や「できない」の割合が13.9%から15.8%、0.8%から5.0%へとともに少し増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.027で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.218で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 160

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	61	49.2	73	59.8	62	50.4	61	50.8
助けてもらってできている	25	20.2	31	25.4	26	21.1	34	28.3
少しできないところがある	33	26.6	17	13.9	26	21.1	19	15.8
できない	5	4.0	1	.8	9	7.3	6	5.0
合計	124	100.0	122	100.0	123	100.0	120	100.0

### ⑩社会参加や役割に関して

社会参加や役割に関して3時点での変化の状態をみると、「自分で参加できている」や「助けてもらって参加できていた」の割合が8.1%から7.4%、51.2%から50.4%とそれぞれこの3年間でわずかに減っており、また「参加できない」の割合が3%増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.601で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.209で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 161

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
自分で参加できている	9	7.3	10	8.1	9	7.4	9	7.4
助けてもらって参加できている	25	20.2	63	51.2	57	47.1	61	50.4
少し参加できないところがある	35	28.2	32	26.0	25	20.7	30	24.8
参加できない	55	44.4	18	14.6	30	24.8	21	17.4
合計	124	100.0	123	100.0	121	100.0	121	100.0

### ⑩家族の介護負担

家族の介護負担に関して3時点での変化の状態をみると、「小さい」や「まあ小さい」の割合がそれぞれ9.0%から7.7%、45.1%から34.2%とこの3年間でともに少しずつ減っており、また「まあ大きい」の割合が37.7%から46.2%に増えるなど、全体として負担の増加傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.008で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.993で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 162

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
小さい	8	6.6	11	9.0	11	9.0	9	7.7
まあ小さい	29	23.8	55	45.1	43	35.2	40	34.2
まあ大きい	59	48.4	46	37.7	47	38.5	54	46.2
大きい・介護者がいない	26	21.3	10	8.2	21	17.2	14	12.0
合計	122	100.0	122	100.0	122	100.0	117	100.0

### ⑪住んでいる環境(段差等)に関して

住んでいる環境(段差等)に関して3時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」の割合が30.9%から26.4%とこの3年間で少し減っている。また一方で「少し困っていることがある」の割合が13.0%から15.7%とわずかに増えており、全体としてやや低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.283で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.742で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 163

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
困っていることはない	27	22.0	38	30.9	28	22.8	32	26.4
困らないよう助けてもらっている	30	24.4	65	52.8	74	60.2	66	54.5
少し困っていることがある	41	33.3	16	13.0	17	13.8	19	15.7
困っている	25	20.3	4	3.3	4	3.3	4	3.3
合計	123	100.0	123	100.0	123	100.0	121	100.0

**⑬経済環境(サービス利用等)に関して**

経済環境(サービス利用等)に関して3時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」の割合がこの3年間で45.5%から38.5%と7%減っている。さらに「困っている」が4.1%から5.7%とわずかに増えており、全体として低下傾向にある。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.342で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.234で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

**表 164**

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
困っていることはない	53	42.7	56	45.5	56	45.5	47	38.5
困らないよう助けてもらっている	24	19.4	50	40.7	52	42.3	56	45.9
少し困っていることがある	27	21.8	12	9.8	12	9.8	12	9.8
困っている	20	16.1	5	4.1	3	2.4	7	5.7
合計	124	100.0	123	100.0	123	100.0	122	100.0

**⑭在宅生活の状況に関して**

在宅生活の状況に関して3時点での変化の状態をみると、この3年間で「在宅では暮らせない」が2.5%から4.2%に増えているが、「なんとか在宅で暮らせる」も36.1%から44.9%に増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.019で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.655で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

**表 165**

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
質の高い生活が送れる	5	4.1	7	5.7	7	5.9	7	5.9
安心して在宅で暮らせる	21	17.1	68	55.7	55	46.2	53	44.9
なんとか在宅で暮らせる	78	63.4	44	36.1	53	44.5	53	44.9
在宅では暮らせない	19	15.4	3	2.5	4	3.4	5	4.2
合計	123	100.0	122	100.0	119	100.0	118	100.0

### Ⅲ-2) 利用者ご本人が大切にしていると思われる項目

ご本人が大切にしていると思われる項目の優先順位ではどの時点でも「身体面」が最も多く、次いで「気持ち・認知面」、「介護環境面」、「周囲との関係面」の順となっており、3時点の推移で大きな変化は見られない。

表 166

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
①身体面	83	66.9	64	53.3	70	55.6	67	54.9
②気持ち・認知面	26	21.0	32	26.7	32	25.4	37	30.3
③周囲との関係面	3	2.4	14	11.7	8	6.3	8	6.6
④介護環境面	12	9.7	10	8.3	16	12.7	10	8.2
合計	124	100.0	120	100.0	126	100.0	122	100.0

### Ⅲ-3) あなた自身が評価した利用者の在宅生活状況は、利用者の評価と一致していますか

利用者の在宅生活の状況の評価は、利用者の評価と一致しているかでは、この3年間で「まあそう思う」、「そう思う」で少し増減があるものの、おおむね利用者との評価の一致では肯定的な見方が70%前後を占めている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.455で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.773で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 167

	10年度現在		11年度現在		12年度現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
全く思わない	1	.8	—	—	1	.8
あまり思わない	2	1.6	5	4.0	4	3.3
どちらともいえない	31	25.4	30	24.2	32	26.7
まあそう思う	78	63.9	82	66.1	77	64.2
そう思う	10	8.2	7	5.6	6	5.0
合計	122	100.0	124	100.0	120	100.0



#### Ⅲ-4) あなた自身のマネジメントが利用者の評価の変化に影響していると考えますか

あなた自身のマネジメントが利用者の評価の変化に影響しているかでは、この3年間で「そう思う」、「まあそう思う」が年々少しずつ減っており、おおむね肯定的な見方は70%以上から60%以下となっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.003で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.069で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 168

	10年度現在		11年度現在		12年度現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
全く思わない	—	—	—	—	—	—
あまり思わない	5	4.1	7	5.8	11	9.2
どちらともいえない	27	22.0	34	28.3	39	32.5
まあそう思う	79	64.2	65	54.2	60	50.0
そう思う	12	9.8	14	11.7	10	8.3
合計	123	100.0	120	100.0	120	100.0

#### Ⅲ-5) 在宅で暮らす自信の程度

在宅で暮らす自信の程度では、ここ3年間では「在宅で暮らす自信がある」が49.2%から25.0%と減っている。また、「どちらかといえば在宅で暮らす自信はない」では、9.0%から16.7%に増えており、全体的に在宅で暮らす自信の程度は少し弱くなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.002で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.468で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 169

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
在宅で暮らす自信がある	27	22.1	60	49.2	36	30.5	30	25.0
どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある	51	41.8	46	37.7	61	51.7	65	54.2
どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない	37	30.3	11	9.0	17	14.4	20	16.7
在宅で暮らす自信はなかった	7	5.7	5	4.1	4	3.4	5	4.2
合計	122	100.0	122	100.0	118	100.0	120	100.0

### Ⅲ-6) 施設入所についての考え

施設入所への考えでは、「施設入所を考えはじめていない」がこの3年間で81.3%から64.7%と大きく減っている。また、「入所を考えはじめていた」も12.2%から18.5%と少し増えるなど全体的に施設入所への意向はやや強くなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.004で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.967で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 170

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
施設入所を考えていない	99	80.5	100	81.3	78	66.7	77	64.7
施設入所を考えはじめている	20	16.3	15	12.2	19	16.2	22	18.5
実際に施設入所を申し込んでいる	4	3.3	8	6.5	20	17.1	20	16.8
合計	123	100.0	123	100.0	117	100.0	119	100.0

### Ⅲ-7) 現在利用しているサービス（有効回答のみ）

#### ①訪問介護の利用の有無

現在利用しているサービスをみると訪問介護では、この3年間で「あり」が60%台で推移しており、大きな増減はない。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.251で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.617で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 171

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	41	46.1	52	60.5	57	66.3	55	62.5
なし	48	53.9	34	39.5	29	33.7	33	37.5
合計	89	100.0	86	100.0	86	100.0	88	100.0

#### ②訪問入浴の利用の有無

現在利用しているサービスの訪問入浴では、この3年間で「あり」が4.8%から15.9%と利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.059で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.000で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 172

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	3	4.3	3	4.8	5	8.6	10	15.9
なし	66	95.7	59	95.2	53	91.4	53	84.1
合計	69	100.0	62	100.0	58	100.0	63	100.0

#### ③訪問看護の利用の有無

現在利用しているサービスの訪問看護では、この3年間で「あり」が17.9%から31.3%と利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.011で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.527で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 173

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	10	13.9	12	17.9	20	31.7	21	31.3
なし	62	86.1	55	82.1	43	68.3	46	68.7
合計	72	100.0	67	100.0	63	100.0	67	100.0

#### ④訪問リハビリテーションの利用の有無

現在利用しているサービスの訪問リハビリテーションでは、この3年間で「あり」が17.4%から26.6%と利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.366で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.257で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 174

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	10	13.5	12	17.4	15	22.7	17	26.6
なし	64	86.5	57	82.6	51	77.3	47	73.4
合計	74	100.0	69	100.0	66	100.0	64	100.0

#### ⑤居宅療養管理指導の利用の有無

現在利用しているサービスの居宅療養管理指導では、この3年間で「あり」が12.7%から18.0%と少し利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.102で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.000で帰無仮説を棄却しており、差があるといえる。

表 175

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	2	2.9	8	12.7	12	20.3	11	18.0
なし	67	97.1	55	87.3	47	79.7	50	82.0
合計	69	100.0	63	100.0	59	100.0	61	100.0

#### ⑥通所介護(デイサービス)の利用の有無

現在利用しているサービスの通所介護(デイサービス)では、この3年間で「あり」が69.2%から78.0%と利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.439で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.046で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 176

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	55	57.9	63	69.2	60	69.0	71	78.0
なし	40	42.1	28	30.8	27	31.0	20	22.0
合計	95	100.0	91	100.0	87	100.0	91	100.0

#### ⑦通所リハビリテーション(デイケア)の利用の有無

現在利用しているサービスの通所リハビリテーション(デイケア)では、この3年間で「あり」が45%前後で推移しており大きな増減はない。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.527で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.059で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 177

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	26	32.1	36	46.2	33	42.9	35	46.1
なし	55	67.9	42	53.8	44	57.1	41	53.9
合計	81	100.0	78	100.0	77	100.0	76	100.0

#### ⑧短期入所生活介護の利用の有無

現在利用しているサービスの短期入所生活介護では、この3年間で「あり」が28.6%から51.3%と大きく利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.257で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.108で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 178

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	11	14.5	20	28.6	30	42.9	39	51.3
なし	65	85.5	50	71.4	40	57.1	37	48.7
合計	76	100.0	70	100.0	70	100.0	76	100.0

#### ⑨短期入所療養介護の利用の有無

現在利用しているサービスの短期入所療養介護では、この3年間で「あり」が6.3%から11.5%と少し利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.029で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.564で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 179

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	1	1.4	4	6.3	5	8.3	7	11.5
なし	70	98.6	59	93.7	55	91.7	54	88.5
合計	71	100.0	63	100.0	60	100.0	61	100.0

#### ⑩特定施設生活介護の利用の有無

現在利用しているサービスの特定施設生活介護では、この3年間で「あり」が2人で3.4%とわずかに増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.157で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.157で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 180

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	—	—	—	—	1	1.8	2	3.4
なし	70	100.0	61	100.0	55	98.2	56	96.6
合計	70	100.0	61	100.0	56	100.0	58	100.0

#### ⑩福祉用具の貸与の利用の有無

現在利用しているサービスの福祉用具の貸与では、この3年間で「あり」が71.3%から80.8%と少し利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.029で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 181

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	52	54.2	62	71.3	76	78.4	80	80.8
なし	44	45.8	25	28.7	21	21.6	19	19.2
合計	96	100.0	87	100.0	97	100.0	99	100.0

#### ⑪福祉用具購入費支給の利用の有無

現在利用しているサービスの福祉用具購入費支給では、この3年間で「あり」が31.4%から46.2%と少し利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.029で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.257で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 182

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	31	37.8	22	31.4	26	38.2	30	46.2
なし	51	62.2	48	68.6	42	61.8	35	53.8
合計	82	100.0	70	100.0	68	100.0	65	100.0

#### ⑫住宅改修の利用の有無

現在利用しているサービスの住宅改修では、この3年間で「あり」が31.9%から60.0%と倍近く利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.001で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.782で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 183

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	36	42.9	23	31.9	44	58.7	45	60.0
なし	48	57.1	49	68.1	31	41.3	30	40.0
合計	84	100.0	72	100.0	75	100.0	75	100.0

⑭夜間対応型訪問介護の利用の有無

現在利用しているサービスの夜間対応型訪問介護では、この3年間で利用者はいない。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 184

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	—	—	—	—	—	—	—	—
なし	70	100.0	61	100.0	57	100.0	55	100.0
合計	70	100.0	61	100.0	57	100.0	55	100.0

⑮認知症対応型通所介護の利用の有無

現在利用しているサービスの認知症対応型通所介護では、この3年間で「あり」が2人、5人、2人の利用が続いている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.317で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 185

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	1	1.4	2	3.2	5	8.5	2	3.5
なし	70	98.6	61	96.8	54	91.5	55	96.5
合計	71	100.0	63	100.0	59	100.0	57	100.0



#### ⑩訪問診療・往診・訪問看護(医療)の利用の有無

現在利用しているサービスの訪問診療、往診・訪問看護（医療）では、この3年間で「あり」が23%台で推移しており、大きな増減はない。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.317で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.763で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 186

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	8	11.1	15	23.4	15	23.8	15	23.8
なし	64	88.9	49	76.6	48	76.2	48	76.2
合計	72	100.0	64	100.0	63	100.0	63	100.0

#### ⑪その他医療機関の受診・通院の利用の有無

現在利用しているサービスのその他の医療機関の受診では、この3年間で「あり」が69.7%から47.1%、70.0%と利用の増減の幅が大きい。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.206で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.000で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 187

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	49	59.8	53	69.7	32	47.1	49	70.0
なし	33	40.2	23	30.3	36	52.9	21	30.0
合計	82	100.0	76	100.0	68	100.0	70	100.0

#### ⑫生活支援サービスの利用の有無

現在利用しているサービスの生活支援では、この3年間で「あり」が1.6%から5.4%とわずかに3人まで利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.157で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 188

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	—	—	1	1.6	3	5.5	3	5.4
なし	71	100.0	63	98.4	52	94.5	53	94.6
合計	71	100.0	64	100.0	55	100.0	56	100.0

#### ⑱生きがい対応型デイサービスの利用の有無

現在利用しているサービスの生きがいデイサービスでは、この3年間で「あり」が、1.8%とわずかに1人の利用がある。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.317で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 189

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	—	—	—	—	—	—	1	1.8
なし	71	100.0	64	100.0	55	100.0	55	98.2
合計	71	100.0	64	100.0	55	100.0	56	100.0

#### ⑳配食サービスの利用の有無

現在利用しているサービスの配食サービスでは、この3年間で「あり」が20%台で推移しており、大きな増減はない。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.739で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.206で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 190

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	7	9.5	14	20.0	15	24.6	13	20.3
なし	67	90.5	56	80.0	46	75.4	51	79.7
合計	74	100.0	70	100.0	61	100.0	64	100.0

### ㉒ 近隣等インフォーマルサービスの有無

現在利用しているサービスの近隣等インフォーマルサービスでは、この3年間で「あり」が31.9%から36.4%と少し利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.739で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.527で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 191

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	18	23.7	23	31.9	30	42.9	24	36.4
なし	58	76.3	49	68.1	40	57.1	42	63.6
合計	76	100.0	72	100.0	70	100.0	66	100.0

### ㉓ その他サービスの有無

現在利用しているサービスのその他のサービスでは、この3年間で「あり」が23.4%から29.6%と少し利用が増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.705で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.317で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 192

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
あり	5	10.0	11	23.4	5	11.1	16	29.6
なし	45	90.0	36	76.6	40	88.9	38	70.4
合計	50	100.0	47	100.0	45	100.0	54	100.0

### 4.3.2 QOL 利用者における3時点の状態等の変化比較

過去3回の調査で利用者のデータを突合し、以下の期間を在宅継続している 126 サンプルを3時点で比較している。（無回答を除く有効回答）

10年度開始（2010年10月～2011年5月の間にサービスを開始）—10年度現在（2010年11月現在）—11年度現在（2011年11月現在）—12年度現在（2012年12月現在）

#### I 2010年11月現在の介護度（約2年前の介護度、参考：対ケアマネジャー）

10年度調査時の利用者の介護度は、以下の表のとおり、要介護1や要介護2の軽度者の割合が少し減り、要介護4および要介護5の割合が増えており、全体に重度化が進んでいることがわかる。

表 193

	10年度現在（利用者）		11年度現在（ケアマネジャー）		12年度現在（ケアマネジャー）	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
要支援1	9	8.0	7	5.6	3	2.4
要支援2	9	8.0	11	8.9	12	9.5
要介護1	28	24.8	27	21.8	27	21.4
要介護2	30	26.5	29	23.4	25	19.8
要介護3	22	19.5	17	13.7	25	19.8
要介護4	13	11.5	17	13.7	25	19.8
要介護5	2	1.8	16	12.9	9	7.1
合計	113	100.0	124	100.0	126	100.0

## Ⅱ-1)現在の利用者の状態

### ①日常生活の自立度

身体面等の3時点での変化の状態をみると、日常生活の自立度では「ひとりで外出できる」が11.9%から10.0%とわずかに減っている。また「ほとんどベッドの上」もこの3年間で4.6%から9.2%に増えており、全体としてやや低下傾向にある。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.038で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.797で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 194

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりで外出できる	15	13.6	13	11.9	12	9.8	12	10.0
屋内ではひとりで生活できる	51	46.4	64	58.7	65	53.3	56	46.7
座ることができる(車いす)	28	25.5	27	24.8	32	26.2	41	34.2
ほとんどベッドの上	16	14.5	5	4.6	13	10.7	11	9.2
合計	110	100.0	109	100.0	122	100.0	120	100.0

### ②健康状態や受診に関して

健康状態や受診に関して3時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」がこの3年間で14.4%から7.5%と減っている。一方で「少し困っていることがある」の割合がこの3年間で11.7%から19.2%へ少し増えており、やや低下傾向が見える。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.300で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.428で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 195

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
困っていることはない	12	10.8	16	14.4	7	5.7	9	7.5
困らないよう助けてもらっている	41	36.9	73	65.8	81	66.4	82	68.3
少し困っていることがある	30	27.0	13	11.7	26	21.3	23	19.2
困っている	28	25.2	9	8.1	8	6.6	6	5.0
合計	111	100.0	111	100.0	122	100.0	120	100.0

### ③食事に関して

食事に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で51.8%から36.4%へ大きく減っている。また、「できない」が2.7%から5.9%とわずかに増えるなど全体として低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.006で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.867で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 196

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	52	46.8	58	51.8	48	38.7	43	36.4
助けてもらってできている	23	20.7	38	33.9	50	40.3	51	43.2
少しできないところがある	25	22.5	13	11.6	19	15.3	17	14.4
できない	11	9.9	3	2.7	7	5.6	7	5.9
合計	111	100.0	112	100.0	124	100.0	118	100.0

### ④入浴に関して

入浴に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で18.9%から17.5%へわずかに減っている。また、「少しできないところがある」が13.5%から9.2%、「できない」も13.5%から12.5%とともにわずかに減っている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.536で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.891で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 197

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	26	23.2	21	18.9	22	17.7	21	17.5
助けてもらってできている	37	33.0	60	54.1	76	61.3	73	60.8
少しできないところがある	20	17.9	15	13.5	10	8.1	11	9.2
できない	29	25.9	15	13.5	16	12.9	15	12.5
合計	112	100.0	111	100.0	124	100.0	120	100.0

### ⑤排泄に関して

排泄に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で54.5%から46.7%へ減っており、「できない」が5.4%から10.0%に増えるなど全体としても低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.324で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.904で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 198

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	55	49.1	61	54.5	59	47.6	56	46.7
助けてもらってできている	24	21.4	28	25.0	35	28.2	37	30.8
少しできないところがある	22	19.6	17	15.2	17	13.7	15	12.5
できない	11	9.8	6	5.4	13	10.5	12	10.0
合計	112	100.0	112	100.0	124	100.0	120	100.0

### ⑥家事に関して

家事に関して3時点での変化の状態をみると、「できない」の割合がこの3年間で45.0%から58.8%と増えている。また「助けてもらってできている」も37.8%から26.1%と大きく減るなど全体として低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.122で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.390で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 199

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	8	7.2	3	2.7	2	1.6	5	4.2
助けてもらってできている	17	15.3	42	37.8	40	32.5	31	26.1
少しできないところがある	23	20.7	16	14.4	16	13.0	13	10.9
できない	63	56.8	50	45.0	65	52.8	70	58.8
合計	111	100.0	111	100.0	123	100.0	119	100.0

### ⑦認知症の程度に関して

認知症に関して3時点での変化の状態をみると、「問題ない自立している」の割合がこの3年間で40.9%から36.7%とやや減っている。また「常に介護が必要」が6.4%から13.3%に少し増えるなど全体としてやや低下傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.346で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.021で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 200

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
問題ない自立	48	43.2	45	40.9	37	30.3	44	36.7
誰かが注意していれば問題ない	35	31.5	41	37.3	41	33.6	51	42.5
時々介護が必要	21	18.9	17	15.5	25	20.5	9	7.5
常に介護が必要	7	6.3	7	6.4	19	15.6	16	13.3
合計	111	100.0	110	100.0	122	100.0	120	100.0

### ⑧生活の意欲

生活の意欲を3時点での変化の状態をみると、「とてもある」割合がこの3年間で37.8%から25.0%と大きく減っている。また「あまりない」や「なかった」の割合が15.3%から23.3%、3.6%から4.2%とそれぞれ少し増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.027で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.345で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 201

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とてもある	31	27.9	42	37.8	29	23.8	30	25.0
少しある	35	31.5	48	43.2	54	44.3	57	47.5
あまりない	28	25.2	17	15.3	31	25.4	28	23.3
なかった	17	15.3	4	3.6	8	6.6	5	4.2
合計	111	100.0	111	100.0	122	100.0	120	100.0



### ⑨意思疎通に関して

意思疎通に関して3時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの3年間で50.0%から43.7%と少し減っている。また「少しできないところがある」や「できない」の割合が16.1%から18.5%、3.6%から7.6%とそれぞれともにわずかに増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.378で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.281で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 202

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
ひとりでできる	53	47.3	56	50.0	49	39.5	52	43.7
助けてもらってできている	24	21.4	36	32.1	36	29.0	36	30.3
少しできないところがある	28	25.0	18	16.1	30	24.2	22	18.5
できない	7	6.3	2	1.8	9	7.3	9	7.6
合計	112	100.0	112	100.0	124	100.0	119	100.0

### ⑩社会参加や役割

社会参加や役割に関して3時点での変化の状態をみると、「自分で参加できている」や「助けてもらって参加できていた」の割合が8.0%から6.7%とこの3年間でわずかに減っている。一方で「参加できない」の割合が21.4%から35.0%へと大きく増えており、社会参加などが少し難しくなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.047で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.469で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 203

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
自分で参加できている	18	16.2	9	8.0	8	6.6	8	6.7
助けてもらって参加できている	20	18.0	52	46.4	39	32.0	42	35.0
少し参加できないところがある	26	23.4	27	24.1	24	19.7	28	23.3
参加できない	47	42.3	24	21.4	51	41.8	42	35.0
合計	111	100.0	112	100.0	122	100.0	120	100.0

### ⑩家族の介護負担

家族の介護負担に関して3時点での変化の状態をみると、「小さい」や「まあ小さい」の割合がこの3年間でそれぞれ15.2%から13.4%、44.6%から35.3%と減っている。また「まあ大きい」や「大きかった」の割合もそれぞれ33.9%から38.7%、6.3%から12.6%へと増えるなど、全体として介護負担が大きくなっている傾向がみられる。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.224で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.893で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 204

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
小さい	20	17.9	17	15.2	15	12.7	16	13.4
まあ小さい	27	24.1	50	44.6	43	36.4	42	35.3
まあ大きい	48	42.9	38	33.9	46	39.0	46	38.7
大きい・介護者がいない	17	15.2	7	6.3	14	11.9	15	12.6
合計	112	100.0	112	100.0	118	100.0	119	100.0

### ⑪住んでいる環境(段差等)に関して

住んでいる環境(段差等)に関して3時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」の割合がこの3年間で31.3%から21.7%と大きく減っており、また「少し困っていることがあった」や「困っている」の割合が15.2%から15.8%、2.7%から3.3%とそれぞれわずかに増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.123で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.607で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 205

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
困っていることはない	33	29.5	35	31.3	22	18.0	26	21.7
困らないよう助けてもらっている	26	23.2	57	50.9	70	57.4	71	59.2
少し困っていることがある	38	33.9	17	15.2	27	22.1	19	15.8
困っている	15	13.4	3	2.7	3	2.5	4	3.3
合計	112	100.0	112	100.0	122	100.0	120	100.0

**⑬経済環境(サービス利用等)に関して**

経済環境(サービス利用等)に関して3時点での変化の状態をみると、この3年間で「困っていることはない」が45.5%から32.8%と減っている。また「困っている」の割合が3.6%から5.0%とわずかに増えている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.233で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.720で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

**表 206**

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
困っていることはない	44	39.3	51	45.5	35	28.2	39	32.8
困らないよう助けてもらっている	25	22.3	41	36.6	66	53.2	60	50.4
少し困っていることがある	29	25.9	16	14.3	18	14.5	14	11.8
困っている	14	12.5	4	3.6	5	4.0	6	5.0
合計	112	100.0	112	100.0	124	100.0	119	100.0

**⑭在宅生活の状況に関して**

在宅生活の状況に関して3時点での変化の状態をみると、この3年間で「質の高い生活が送れる」が4.5%から3.4%とわずかに減っている。また、「安心して在宅で暮らせる」の割合も50.0%から37.0%と大きく減っている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.032で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.662で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

**表 207**

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
質の高い生活が送れる	5	4.5	5	4.5	3	2.6	4	3.4
安心して在宅で暮らせる	26	23.4	55	50.0	47	40.2	44	37.0
なんとか在宅で暮らせる	68	61.3	48	43.6	62	53.0	65	54.6
在宅では暮らせない	12	10.8	2	1.8	5	4.3	6	5.0
合計	111	100.0	110	100.0	117	100.0	119	100.0

## Ⅱ-2) 利用者が優先している領域

ご利用者本人が大切にしていると思われる項目の優先順位では「身体面」が際立って多く、次いで「気持ち・認知面」、「介護環境面」、「周囲との関係面」の順となっており、3時点の変化は見られない。ケアマネジャーの回答と同じである。

表 208

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
①身体面	64	62.7	57	55.9	74	58.7	78	64.5
②気持ち・認知面	22	21.6	35	34.3	33	26.2	25	20.7
③周囲との関係面	2	2.0	1	1.0	7	5.6	5	4.1
④介護環境面	14	13.7	9	8.8	12	9.5	13	10.7
合計	102	100.0	102	100.0	126	100.0	121	100.0

## Ⅱ-3) 在宅で暮らす自信の程度

在宅で暮らす自信の程度では、「在宅で暮らす自信がある」が40.0%から21.7%と大きく減っている。また、「在宅で暮らす自信はなかった」も2.7%から6.7%と少し増えており全体的に在宅で暮らす自信の程度は弱くなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.002で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.091で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 209

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
在宅で暮らす自信がある	30	27.3	44	40.0	29	24.0	26	21.7
どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある	41	37.3	51	46.4	64	52.9	59	49.2
どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない	24	21.8	12	10.9	25	20.7	27	22.5
在宅で暮らす自信はなかった	15	13.6	3	2.7	3	2.5	8	6.7
合計	110	100.0	110	100.0	121	100.0	120	100.0

#### Ⅱ-4) 施設入所を考えた

施設入所への考えでは、「施設入所を考えていない」は72.1%から67.2%とわずかに減っている。一方では、「実際に施設入所を申し込んでいる」は4.5%から17.6%と大きく増えており、全体的に施設入所への意向は強くなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.132で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

同様に11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.563で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 210

	10年度 開始時		10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
施設入所を考えていない	83	74.8	80	72.1	77	62.6	80	67.2
施設入所を考え はじめている	22	19.8	26	23.4	23	18.7	18	15.1
実際に施設入所を 申し込んでいる	6	5.4	5	4.5	23	18.7	21	17.6
合計	111	100.0	111	100.0	123	100.0	119	100.0

## Ⅱ-5) ケアマネジャーの満足度

### ①ケアマネジャーに対して不安や心配なことの話聞いてもらう

ケアマネジャーへの満足度をみると、「不安や心配なことの話聞いてもらう」では、この3年間で「とても満足」、「満足」がともに数%程度とわずかに減っているが、全体の満足度は90%前後と高い。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.177で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.839で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 211

	10年度 開始時			10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とても期待していた	34	30.4	とても満足	53	47.3	54	43.5	55	45.8
期待していた	45	40.2	満足	51	45.5	56	45.2	51	42.5
どちらでもない	26	23.2	どちらでもない	7	6.3	12	9.7	10	8.3
期待していなかった	6	5.4	不満	1	.9	2	1.6	1	.8
全く期待していなかった	1	.9	とても不満	—	—	—	—	3	2.5
合計	112	100.0	合計	112	100.0	124	100.0	120	100.0

### ②ケアマネジャーに対して介護サービスの調整をもらう

ケアマネジャーへの満足度をみると、「介護サービスを調整してもらう」では、この3年間で「とても満足」、「満足」がともにやや増減しているが、全体の満足度は90%以上と高い。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.840で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.723で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 212

	10年度 開始時			10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とても期待していた	39	34.8	とても満足	51	45.1	59	48.0	58	48.7
期待していた	55	49.1	満足	54	47.8	54	43.9	52	43.7
どちらでもない	16	14.3	どちらでもない	6	5.3	6	4.9	4	3.4
期待していなかった	2	1.8	不満	2	1.8	3	2.4	2	1.7
全く期待していなかった	—	—	とても不満	—	—	1	.8	3	2.5
合計	112	100.0	合計	113	100.0	123	100.0	119	100.0

③ケアマネジャーに対して病院や診療所への連絡をしてもらう

ケアマネジャーへの満足度をみると、「病院や診療所への連絡をしてもらう」では、この3年間で「とても満足」、「満足」がともに数%ながらもわずかに増減しており、満足度は60%以上でほぼ変わらない。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.917で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.410で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 213

	10年度 開始時			10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とても期待していた	18	16.4	とても満足	33	29.7	32	26.4	39	33.3
期待していた	29	26.4	満足	37	33.3	41	33.9	35	29.9
どちらでもない	45	40.9	どちらでもない	40	36.0	45	37.2	40	34.2
期待していなかった	13	11.8	不満	1	.9	3	2.5	—	—
全く期待していなかった	5	4.5	とても不満	—	—	—	—	3	2.6
合計	110	100.0	合計	111	100.0	121	100.0	117	100.0

#### ④ケアマネジャーに対して何かあったときのために見守ってもらう

ケアマネジャーへの満足度をみると、「何かあったときのために見守ってもらう」では、この3年間で「とても満足」「満足」がともに増減はあるものの、満足度は70%以上と高くなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.330で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.576で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 214

	10年度 開始時			10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とても期待していた	23	20.5	とても満足	38	33.9	40	32.5	38	31.9
期待していた	48	42.9	満足	50	44.6	57	46.3	53	44.5
どちらでもない	25	22.3	どちらでもない	24	21.4	24	19.5	24	20.2
期待していなかった	12	10.7	不満	—	—	2	1.6	1	.8
全く期待していなかった	4	3.6	とても不満	—	—	—	—	3	2.5
合計	112	100.0	合計	112	100.0	123	100.0	119	100.0

#### ⑤ケアマネジャーに対してその他

ケアマネジャーへの満足度をみると、その他では、この3年間で「とても満足」「満足」が年々それぞれ増えており、満足度は60%から90%へと高くなっている。

10年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を拒否しており、差があると言える。

11年度現在と12年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率1.000で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。



表 215

	10年度 開始時			10年度 現在		11年度 現在		12年度 現在	
	度数	パーセント		度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
とても期待していた	5	27.8	とても満足	7	38.9	10	45.5	12	54.5
期待していた	5	27.8	満足	4	22.2	5	22.7	8	36.4
どちらでもない	7	38.9	どちらでもない	7	38.9	4	18.2	2	9.1
期待していなかった	1	5.6	不満	—	—	2	9.1	—	—
全く期待していなかった	—	—	とても不満	—	—	1	4.5	—	—
合計	18	100.0	合計	18	100.0	22	100.0	22	100.0

#### 4.4 継続調査不可能者の過去の状況

##### 4.4.1 2011年度 継続調査不可能者の状況

2011年度（2年目）の調査で追跡不能だった34名の過去の状況をみると以下のようになっている。（無回答を除く有効回答のみ）

###### 1) 担当外の理由

11年度のケアマネジャー調査分から、担当外になった対象者の、主な理由は「死亡」、  
「施設入所」がそれぞれ25.0%、「担当者変更」が21.9%などが上位を占めている。

表 216

	回答数	パーセント	有効パーセント
入院	5	14.7	15.6
施設入所	8	23.5	25.0
死亡	8	23.5	25.0
担当者変更	7	20.6	21.9
その他	4	11.8	12.5
合計	32	94.1	100.0

###### 2) 10年当時の利用者の性別

10年当時の利用者の性別をみると「女性」が58.6%、「男性」が41.4%となっており、  
女性が多くなっている。

表 217

	度数	パーセント	有効パーセント
男性	12	35.3	41.4
女性	17	50.0	58.6
合計	29	85.3	100.0

### 3) 10年当時の利用者の年齢

10年当時の利用者の年齢をみると「80-84歳」、「85-89歳」がともに27.6%で最も多く、次いで「75-79歳」の順となっており、75歳以上が82.7%を占めている。

表 218

	度数	パーセント	有効パーセント
40～64歳	1	2.9	3.4
65～69歳	1	2.9	3.4
70～74歳	1	2.9	3.4
75～79歳	6	17.6	20.7
80～84歳	8	23.5	27.6
85～89歳	8	23.5	27.6
90～94歳	3	8.8	10.3
95歳以上	1	2.9	3.4
合計	29	85.3	100.0

### 4) 10年当時の利用者の介護度

10年当時の利用者の介護度をみると「要介護2」が31.0%と最も多く、次いで「要介護3」が17.2%の順となっている。

表 219

	回答数	パーセント	有効パーセント
要支援1	3	8.8	10.3
要支援2	2	5.9	6.9
要介護1	4	11.8	13.8
要介護2	9	26.5	31.0
要介護3	5	14.7	17.2
要介護4	2	5.9	6.9
要介護5	4	11.8	13.8
合計	29	85.3	100.0

### 5) 前回調査の利用者の状況

10 年度のケアマネジャーの調査から初回調査の利用者の身体状態をみると「認知症」が 41.2%で最も多く、次いで「脳血管障害後遺症」が 26.5%の順となっている。

参考として 11 年調査の変更理由と前年 10 年度の疾病等の状態をクロス集計すると、死亡では「認知症」や「廃用症候群」が多く、施設入所では「認知症」、担当変更では「関節疾患」の割合が高い。

表 220

	回答数 (複数回答)		ケースのパーセント (n 34)
	N	パーセント	
脳血管障害後遺症	9	18.4%	26.5%
認知症	14	28.6%	41.2%
ターミナル (看取り)	—	—	—
廃用症候群	7	14.3%	20.6%
関節疾患	8	16.3%	23.5%
その他	11	22.4%	32.4%
該当なし	—	—	—
合計	49	100.0%	144.1%

表 221

			現在の状態 クロス表						
			現在の状態 (複数回答 n32)					合計	
			10M 脳血管 障害後遺症	10M 認知症	10M 廃用症候群	10M 関節疾 患	10M その他		
11M 担 当 変 更 の 理 由	入院	度数	1	1	0	1	2	5	
		合計数に対する割合 (%)	3.1%	3.1%	.0%	3.1%	6.3%	15.6%	
	施設入所	度数	2	6	1	0	1	8	
		合計数に対する割合 (%)	6.3%	18.8%	3.1%	.0%	3.1%	25.0%	
	死亡	度数	1	4	4	2	3	8	
		合計数に対する割合 (%)	3.1%	12.5%	12.5%	6.3%	9.4%	25.0%	
	担当変更	度数	1	1	1	4	2	7	
		合計数に対する割合 (%)	3.1%	3.1%	3.1%	12.5%	6.3%	21.9%	
	その他	度数	3	1	1	0	2	4	
		合計数に対する割合 (%)	9.4%	3.1%	3.1%	.0%	6.3%	12.5%	
	合計		度数	8	13	7	7	10	32
			合計数に対する割合 (%)	25.0%	40.6%	21.9%	21.9%	31.3%	100.0%

#### 4.4.2 2012 年度 継続調査不可能者の状況

2012 年度（3 年目）の調査で追跡不能だった 29 名の過去の状況をみると以下のようになっている。（無回答を除く有効回答のみ）

##### 1) 担当外の理由

12 年度のケアマネジャー調査分から、担当外になった対象者の、主な理由は「死亡」が 32.1%、「担当者変更」が 28.6%などが上位を占めている。入院や入所はそれぞれ 10.7%、14.3%と少ない。

表 222

	回答数	パーセント	有効パーセント
入院	3	10.3	10.7
施設入所	4	13.8	14.3
死亡	9	31.0	32.1
担当者変更	8	27.6	28.6
その他	4	13.8	14.3
合計	28	96.6	100.0

##### 2) 10年当時の利用者の性別

10 年当時の利用者の性別をみると「女性」が 55.6%、「男性」が 44.4%となっており、やや女性が多くなっている。

表 223

	度数	パーセント	有効パーセント
男性	12	41.4	44.4
女性	15	51.7	55.6
合計	27	93.1	100.0

### 3) 10年当時の利用者の年齢

10年当時の利用者の年齢をみると「75-79歳」が25.9%で最も多く、「80-84歳」、「85-89歳」がともに22.2%の順となっており、75歳以上が85%を占めている。

表 224

	度数	パーセント	有効パーセント
70～74歳	4	13.8	14.8
75～79歳	7	24.1	25.9
80～84歳	6	20.7	22.2
85～89歳	6	20.7	22.2
90～94歳	4	13.8	14.8
合計	27	93.1	100.0

### 4) 10年当時の利用者の介護度

10年当時の利用者の介護度をみると「要介護1」が32.0%、「要介護2」、「要介護3」がともに24.0%の順となっており、やや軽度の人が多くなっている。

表 225

	回答数	パーセント	有効パーセント
要支援1	1	3.4	4.0
要支援2	1	3.4	4.0
要介護1	8	27.6	32.0
要介護2	6	20.7	24.0
要介護3	6	20.7	24.0
要介護4	3	10.3	12.0
要介護5	—	—	—
合計	25	86.2	100.0

### 5) 前回調査の利用者の状況

11年度のケアマネジャーの調査から前回調査の利用者の身体状態をみると「認知症」が41.4%で最も多く、次いで「脳血管障害後遺症」が31.0%の順となっている。

参考として12年調査の変更理由と前年11年度の疾病等の状態をクロス集計すると、死亡では「認知症」や「廃用症候群」が多く、担当変更では「認知症」や「脳血管障害後遺症」の割合が高い。

表 226

	回答数 (複数回答)		ケースのパーセント (n 29)
	N	パーセント	
脳血管障害後遺症	9	20.9%	31.0%
認知症	12	27.9%	41.4%
ターミナル (看取り)	—	—	—
廃用症候群	7	16.3%	24.1%
関節疾患	4	9.3%	13.8%
その他	11	25.6%	37.9%
該当なし	—	—	—
合計	43	100.0%	148.3%

表 227

			現在の状態 クロス表						
			\$現在の状態 (複数回答 n43)						
			11M 脳血管 障害後遺症	11M 認知症	11M 廃用症候群	11M 関節疾 患	11M その他	合計	
12M 担 当 変 更 の 理 由	入院	度数	1	0	1	1	3	3	
		合計数に対する割合 (%)	3.6%	.0%	3.6%	3.6%	10.7%	10.7%	
	施設入所	度数	2	2	0	1	0	4	
		合計数に対する割合 (%)	7.1%	7.1%	.0%	3.6%	.0%	14.3%	
	死亡	度数	1	3	3	0	6	9	
		合計数に対する割合 (%)	3.6%	10.7%	10.7%	.0%	21.4%	32.1%	
	担当変更	度数	4	4	1	2	1	8	
		合計数に対する割合 (%)	14.3%	14.3%	3.6%	7.1%	3.6%	28.6%	
	その他	度数	1	2	1	0	1	4	
		合計数に対する割合 (%)	3.6%	7.1%	3.6%	.0%	3.6%	14.3%	
	合計		度数	9	11	6	4	11	28
			合計数に対する割合 (%)	32.1%	39.3%	21.4%	14.3%	39.3%	100.0%

## Ⅱ-1)現在の利用者の状態

### ①日常生活の自立度

身体面等の2時点での変化の状態をみると、日常生活の自立度では「座ることができる」が25.9%から31.0%と少し増えている。また「ほとんどベッドの上」もこの2年間で3.7%から13.8%に増えており、全体としてやや低下傾向にある。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.210で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 228

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
ひとりで外出できる	5	17.2	18.5	5	17.2	17.2
屋内ではひとりで生活できる	14	48.3	51.9	11	37.9	37.9
座ることができる(車いす)	7	24.1	25.9	9	31.0	31.0
ほとんどベッドの上	1	3.4	3.7	4	13.8	13.8
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

### ②健康状態や受診に関して

健康状態や受診に関して2時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」がこの2年間で15.4%から3.4%と大きく減っている。また「少し困っていることがある」の割合がこの2年間で23.1%から27.6%へ少し増えており、やや低下傾向が見える。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.477で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 229

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	4	13.8	15.4	1	3.4	3.4
困らないよう助けられている	15	51.7	57.7	19	65.5	65.5
少し困っていることがある	6	20.7	23.1	8	27.6	27.6
困っている	1	3.4	3.8	1	3.4	3.4
合計	26	89.7	100.0	29	100.0	100.0



### ③食事に関して

食事に関して2時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの2年間で59.3%から37.9%へ大きく減っている。また、「少しできないところがある」が14.8%から17.2%とわずかに増えるなど全体として低下傾向がみられる。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.397で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 230

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	16	55.2	59.3	11	37.9	37.9
助けてもらってできている	6	20.7	22.2	13	44.8	44.8
少しできないところがある	4	13.8	14.8	5	17.2	17.2
できない	1	3.4	3.7	—	—	—
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

### ④入浴に関して

入浴に関して2時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの2年間で22.2%から6.9%へ大きく減っている。また、「少しできないところがある」が11.1%から24.1%、「できない」も3.7%から10.3%とともに増えており、低下傾向が見える。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.012で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 231

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	6	20.7	22.2	2	6.9	6.9
助けてもらってできている	17	58.6	63.0	17	58.6	58.6
少しできないところがある	3	10.3	11.1	7	24.1	24.1
できない	1	3.4	3.7	3	10.3	10.3
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

### ⑤排泄に関して

排泄に関して2時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの2年間で70.4%から44.8%へ減っており、「少しできないところがある」が3.7%から10.3%に増えるなど全体としても低下傾向がみられる。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.106で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 232

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	19	65.5	70.4	13	44.8	44.8
助けてもらってできている	6	20.7	22.2	13	44.8	44.8
少しできないところがある	1	3.4	3.7	3	10.3	10.3
できない	1	3.4	3.7	—	—	—
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

### ⑥家事に関して

家事に関して2時点での変化の状態をみると、この2年間で「ひとりでできる」が7.7%から0%に減っている。また「できない」の割合が50.0%から51.7%とわずかに増えている。一方で「助けてもらってできている」が26.9%から37.9%と大きく増えている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.851で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 233

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	2	6.9	7.7	—	—	—
助けてもらってできている	7	24.1	26.9	11	37.9	37.9
少しできないところがある	4	13.8	15.4	3	10.3	10.3
できない	13	44.8	50.0	15	51.7	51.7
合計	26	89.7	100.0	29	100.0	100.0

### ⑦認知症の程度に関して

認知症に関して2時点での変化の状態をみると、この2年間で「常に介護が必要」が11.1%から20.7%に少し増えている。また「時々介護が必要」が18.5%から24.1%に増えるなど全体としてやや低下傾向がみられる。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.251で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 234

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
問題ない自立	7	24.1	25.9	7	24.1	24.1
誰かが注意していれば問題ない	12	41.4	44.4	9	31.0	31.0
時々介護が必要	5	17.2	18.5	7	24.1	24.1
常に介護が必要	3	10.3	11.1	6	20.7	20.7
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

### ⑧生活の意欲

生活の意欲を2時点での変化の状態をみると、「とてもある」割合がこの2年間で34.6%から7.1%と大きく減っている。また「あまりない」や「なかった」の割合が30.8%から42.9%、3.8%から10.7%とそれぞれ少し増えているなど全体としてやや低下傾向がみられる。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.053で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 235

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
とてもある	9	31.0	34.6	2	6.9	7.1
少しある	8	27.6	30.8	11	37.9	39.3
あまりない	8	27.6	30.8	12	41.4	42.9
なかった	1	3.4	3.8	3	10.3	10.7
合計	26	89.7	100.0	28	96.6	100.0

### ⑨意思疎通に関して

意思疎通に関して2時点での変化の状態をみると、「ひとりでできる」の割合がこの2年間で42.3%から24.1%と大きく減っている。また「少しできないところがある」や「できない」の割合が15.4%から31.0%、0%から6.9%とそれぞれともに増えているなど全体としてやや低下傾向がみられる。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.036で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 236

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
ひとりでできる	11	37.9	42.3	7	24.1	24.1
助けてもらってできている	11	37.9	42.3	11	37.9	37.9
少しできないところがある	4	13.8	15.4	9	31.0	31.0
できない	—	—	—	2	6.9	6.9
合計	26	89.7	100.0	29	100.0	100.0

### ⑩社会参加や役割

社会参加や役割に関して2時点での変化の状態をみると、「自分で参加できている」が24.0%から6.9%とこの2年間で大きく減っている。一方で「参加できない」の割合が44.0%から41.4%へとわずかに増えている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.771で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 237

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
自分で参加できている	6	20.7	24.0	2	6.9	6.9
助けてもらって参加できている	4	13.8	16.0	11	37.9	37.9
少し参加できないところがある	4	13.8	16.0	4	13.8	13.8
参加できない	11	37.9	44.0	12	41.4	41.4
合計	25	86.2	100.0	29	100.0	100.0

### ⑩家族の介護負担

家族の介護負担に関して2時点での変化の状態をみると、「まあ小さい」の割合がこの2年間で40.7%から31.0%と減っている。また「まあ大きい」も37.0%から65.5%へと大きく増えるなど、全体として介護負担が大きくなっている傾向がみられる。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.005で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 238

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
小さい	5	17.2	18.5	—	—	—
まあ小さい	11	37.9	40.7	9	31.0	31.0
まあ大きい	10	34.5	37.0	19	65.5	65.5
大きい・介護者がいない	1	3.4	3.7	1	3.4	3.4
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

### ⑪住んでいる環境(段差等)に関して

住んでいる環境(段差等)に関して2時点での変化の状態をみると、「困っていることはない」の割合がこの2年間で44.4%から20.7%と大きく減っており、また「少し困っていることがあった」の割合が0%から17.2%と少し増えている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.007で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

表 239

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	12	41.4	44.4	6	20.7	20.7
困らないよう助けてもらっている	15	51.7	55.6	18	62.1	62.1
少し困っていることがある	—	—	—	5	17.2	17.2
困っている	—	—	—	—	—	—
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

**⑬経済環境(サービス利用等)に関して**

経済環境(サービス利用等)に関して2時点での変化の状態をみると、この2年間で「困っていることはない」が48.1%から48.3%とほぼ横ばいで推移している。また「少し困っている」の割合が11.1%から17.2%と少し増えている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.527で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

**表 240**

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
困っていることはない	13	44.8	48.1	14	48.3	48.3
困らないよう助けてもらっている	10	34.5	37.0	9	31.0	31.0
少し困っていることがある	3	10.3	11.1	5	17.2	17.2
困っている	1	3.4	3.7	1	3.4	3.4
合計	27	93.1	100.0	29	100.0	100.0

**⑭在宅生活の状況に関して**

在宅生活の状況に関して2時点での変化の状態をみると、この2年間で「安心して在宅で暮らせる」の割合も70.4%から32.1%と大きく減っている。また、「在宅では暮らせない」が0%から7.1%へと少し増えている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.003で帰無仮説を拒否しており、差があるといえる。

**表 241**

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
質の高い生活が送れる	—	—	—	—	—	—
安心して在宅で暮らせる	19	65.5	70.4	9	31.0	32.1
なんとか在宅で暮らせる	8	27.6	29.6	17	58.6	60.7
在宅では暮らせない	—	—	—	2	6.9	7.1
合計	27	93.1	100.0	28	96.6	100.0

### Ⅱ-3) 在宅で暮らす自信の程度

在宅で暮らす自信の程度では、「在宅で暮らす自信がある」が40.0%から20.7%と大きく減っている。また、「在宅で暮らす自信はなかった」も3.4%から6.9%と少し増えており全体的に在宅で暮らす自信の程度は弱くなっている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.123で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 242

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
在宅で暮らす自信がある	10	34.5	40.0	6	20.7	20.7
どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある	9	31.0	36.0	11	37.9	37.9
どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない	5	17.2	20.0	10	34.5	34.5
在宅で暮らす自信はなかった	1	3.4	4.0	2	6.9	6.9
合計	25	86.2	100.0	29	100.0	100.0

### Ⅱ-4) 施設入所を考えた

施設入所への考えでは、「施設入所を考えていない」は53.8%から55.2%とわずかに増えているがほぼ横ばいである。一方で、「実際に施設入所を考えはじめている」は15.4%から27.6%と大きく増えており、全体的に施設入所への意向は強くなっている。

10年度現在と11年度現在でノンパラメトリック検定を行うと有意確率.325で帰無仮説を保持しており、差がないといえる。

表 243

	10年度 現在			11年度 現在		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
施設入所を考えていない	14	48.3	53.8	16	55.2	55.2
施設入所を考えはじめている	4	13.8	15.4	8	27.6	27.6
実際に施設入所を申し込んでいる	8	27.6	30.8	5	17.2	17.2
合計	26	89.7	100.0	29	100.0	100.0

## 4.5 分析

### 4.5.1 ケアマネジャーおよび利用者における 3 時点での QOL 評価項目の変化分析

ケアマネジメント実施後の利用者の要介護度や QOL に関する項目、また在宅生活継続についての自信等の経年変化を従属変数として、反復測定の一元配置分散分析（以下、R-M ANOVA とする）による分析を行った。この分析では、①ケアマネジメントの実施によって利用者の QOL 等に有意な効果があるのか、②ケアマネジャーによる評価と利用者自身の評価にどのような差異があるのかということを検討することを目的としている

事前に確認しておかなければならない点として、今回の調査対象者が要介護等高齢者であることである。つまり、このような調査対象者の場合、ケアマネジメントの実施の有無に関わらず、加齢に伴う経年変化として、要介護度や ADL、あるいは QOL 等の低下が生じることが指摘されている。したがって、R-M ANOVA により統計的に有意な差が確認されなかった場合には、経年に伴う変化が生じていないということになるが、それはケアマネジメント実施の効果として状態を維持することができていると解釈することも可能であろう。このような点も考慮に入れながら、分析結果について検討することが必要である。

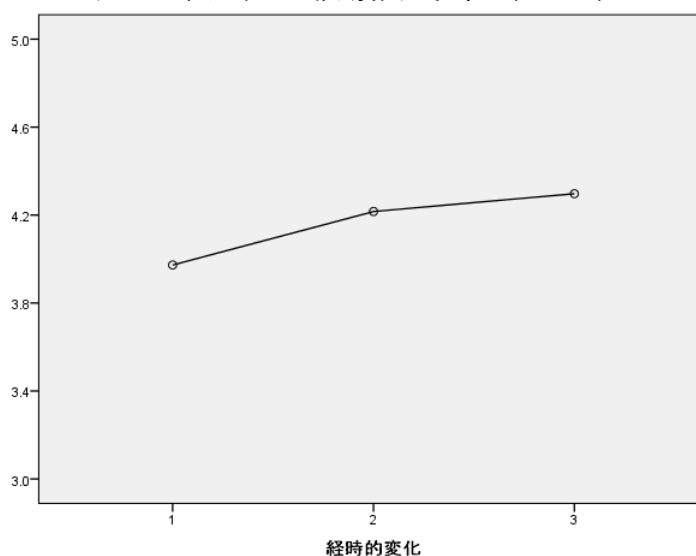
また、各項目の回答選択肢はそのままの番号を得点としているため、評価がよいほど点数が低くなるように設定されている。つまり、グラフでは評価が向上した場合に折れ線が下がり、評価が低下した場合に折れ線が上がる設定となっている点に留意されたい。

※グラフは、縦軸が平均点、横軸が時点（1；10 年度、2；11 年度、3；12 年度）を表す。

#### 1) 要介護度の変化

要介護度を従属変数として R-M ANOVA を実施した結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,111)=2.919, p>.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における要介護度には、統計学的な差はないといえる。

図 3 利用者の要介護度の変化 (3 時点)





## 2) 日常生活の自立度

日常生活の自立度を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(2,109)=7.533, p<.01$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,98)=1.383, p>.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における日常生活の自立度は、ケアマネによる評価は有意に変化しており、利用者による評価には変化がなかったといえる。ケアマネによる評価の変化としては、11 年時点、12 年時点ともに若干の悪化傾向にあることが示された。

図 4 日常生活の自立度のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

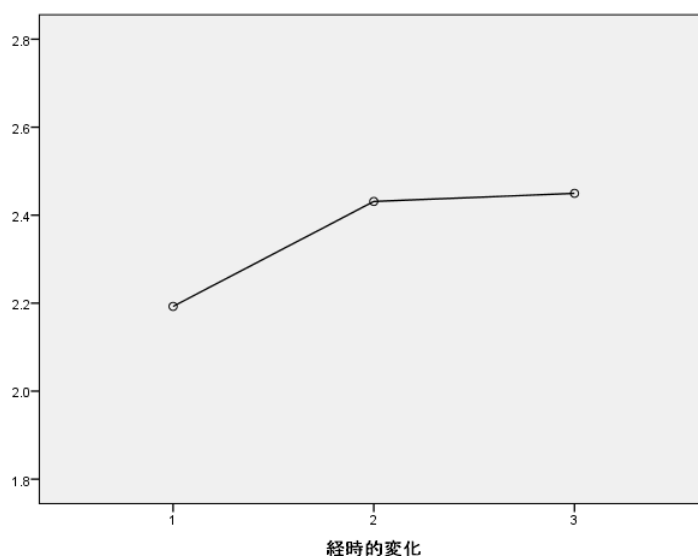
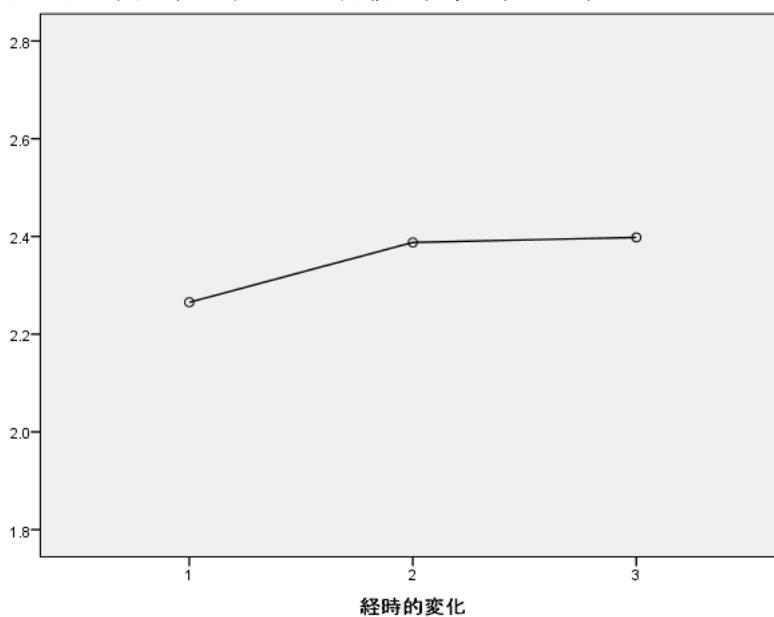


図 5 日常生活の自立度の利用者による評価の変化 (3 時点)



### 3) 健康状態や受診に関して

健康状態や受診を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意でなかった ( $F(2,108)=2.611, p>.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,100)=0.303, p>.05$ )。したがって、この3時点(2年間)における健康状態や受診は、ケアマネによる評価と利用者による評価のどちらにも変化がなかったといえる。

図 6 健康状態や受診に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

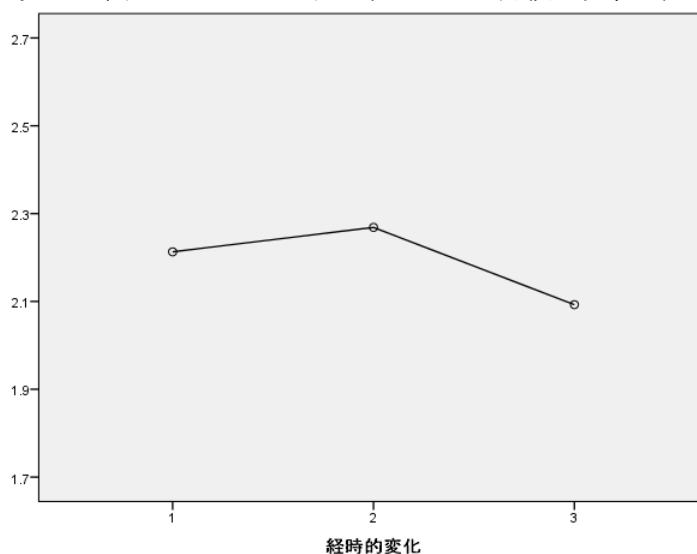
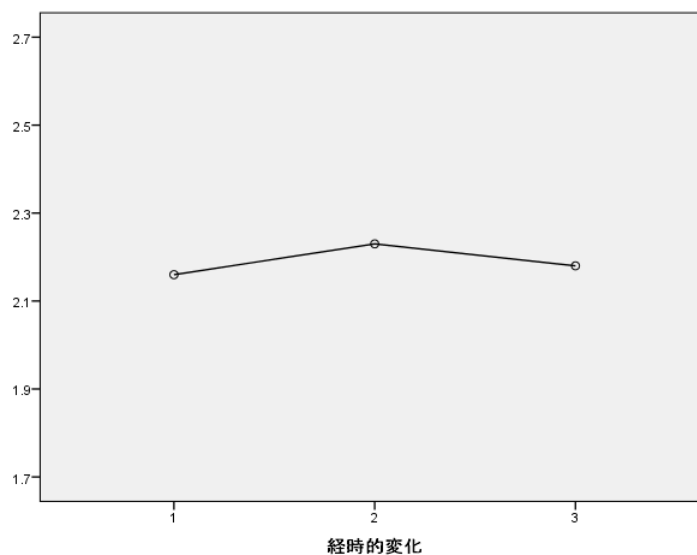


図 7 健康状態や受診に関しての利用者による評価の変化 (3 時点)



#### 4) 食事に関して

食事に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(2,109)=11.805, p<.001$ )。また、利用者による評価についての分析結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(2,100)=3.427, p<.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における食事に関しては、ケアマネによる評価でも、利用者による評価でも有意に変化しているといえる。ケアマネによる評価では 11 年時点で一度悪化し、その後多少改善するというパターンを辿っているが、利用者による評価では 11 年時点で悪化した後は維持というパターンであった。

図 8 食事に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

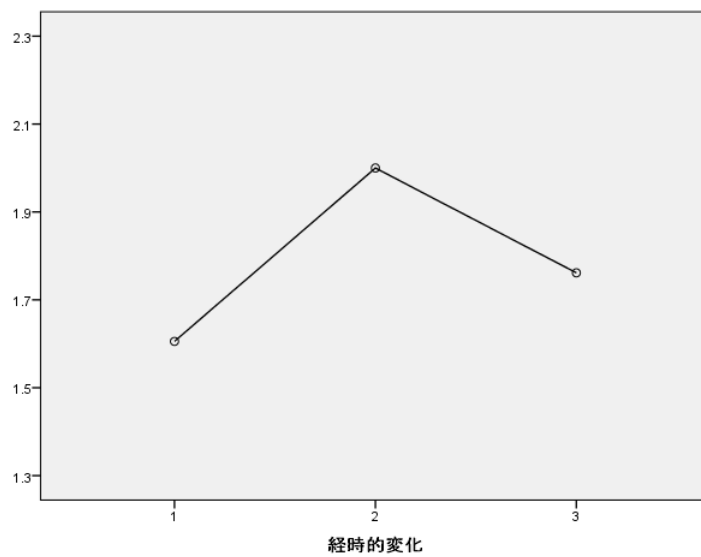
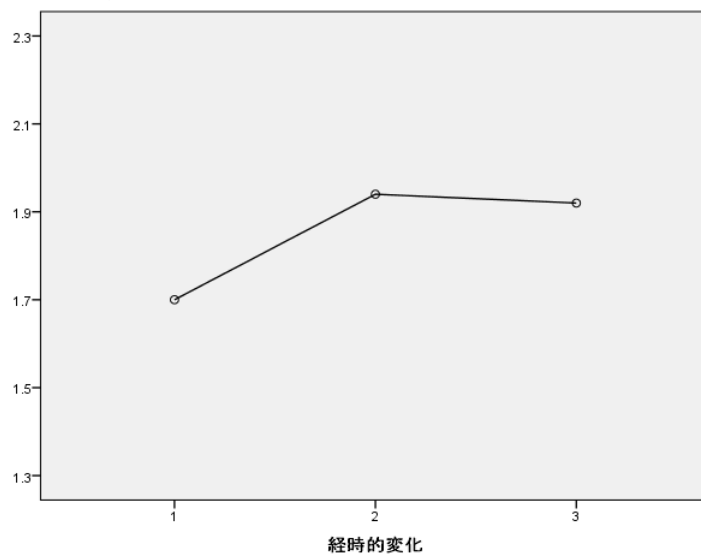


図 9 食事に関しての利用者による評価の変化 (3 時点)



## 5) 入浴に関して

入浴に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(2,110)=3.893, p<.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意でなかった ( $F(2,101)=0.841, p>.05$ )。したがって、この3時点(2年間)における入浴に関しては、ケアマネによる評価は有意に変化しており、利用者による評価には変化がなかったといえる。入浴についても、ケアマネの評価は11年時点で一度悪化し、その後改善するという変化パターンを辿っていた。

図 10 入浴に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

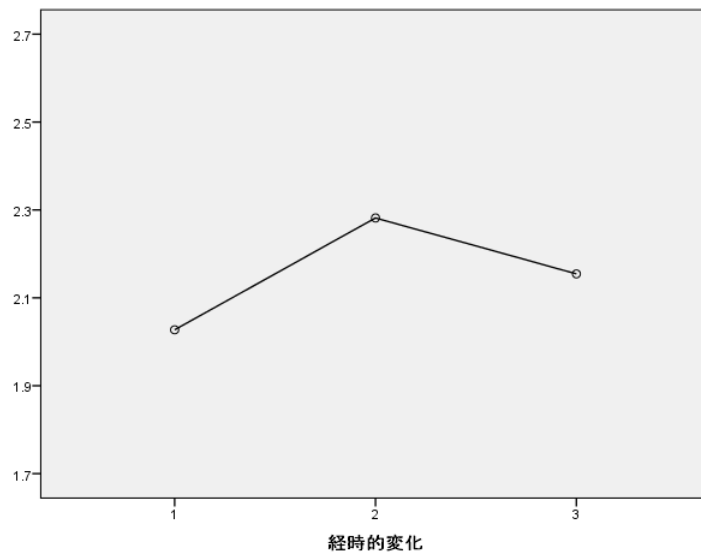
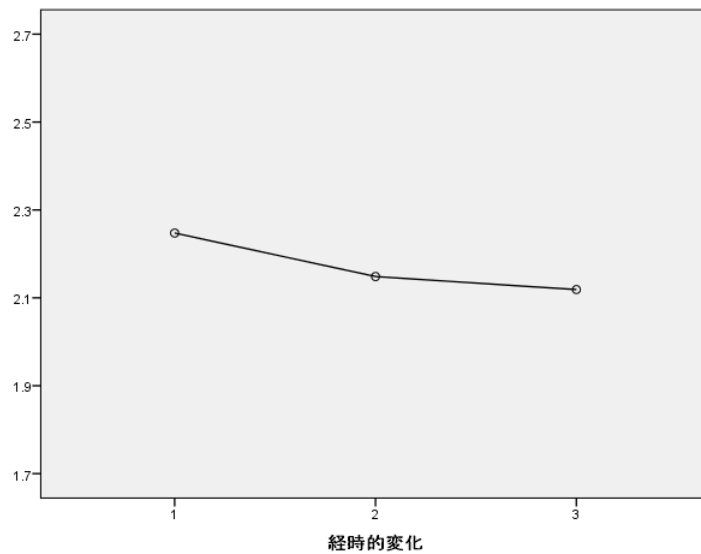


図 11 入浴に関しての利用者による評価の変化 (3 時点)



## 6) 排泄に関して

排泄に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意でなかった ( $F(2,110)=2.888, p>.05$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,102)=0.425, p>.05$ )。したがって、この3時点(2年間)における排泄に関しては、ケアマネによる評価、利用者による評価の両者とも変化がなかったといえる。

図 12 排泄に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

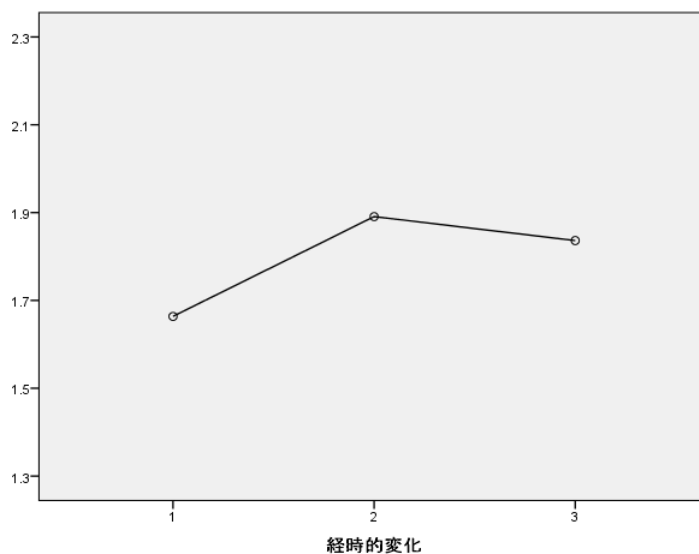
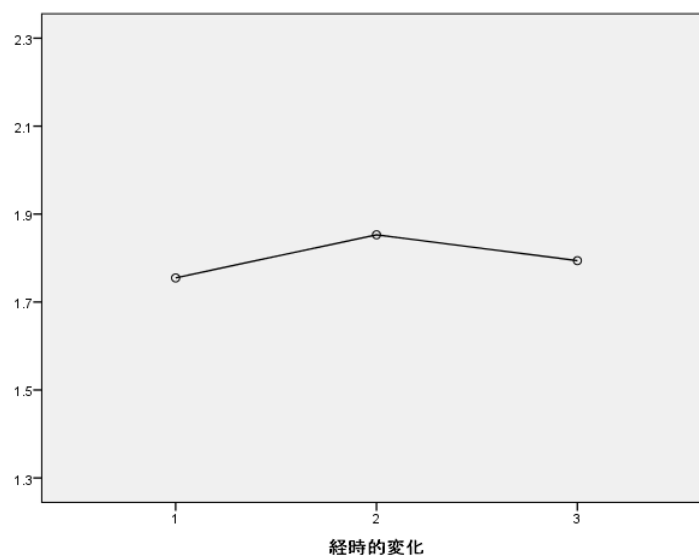


図 13 排泄に関しての利用者による評価の変化 (3 時点)



## 7) 家事に関して

家事に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意でなかった ( $F(2,108)=0.498$ ,  $p>.05$ )。また、利用者による評価について分析を行った結果においても、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,100)=1.184$ ,  $p>.05$ )。したがって、この3時点(2年間)における家事に関しては、ケアマネによる評価、利用者による評価ともに変化がなかったといえる。

図 14 家事に関するケアマネジャーによる評価の変化(3時点)

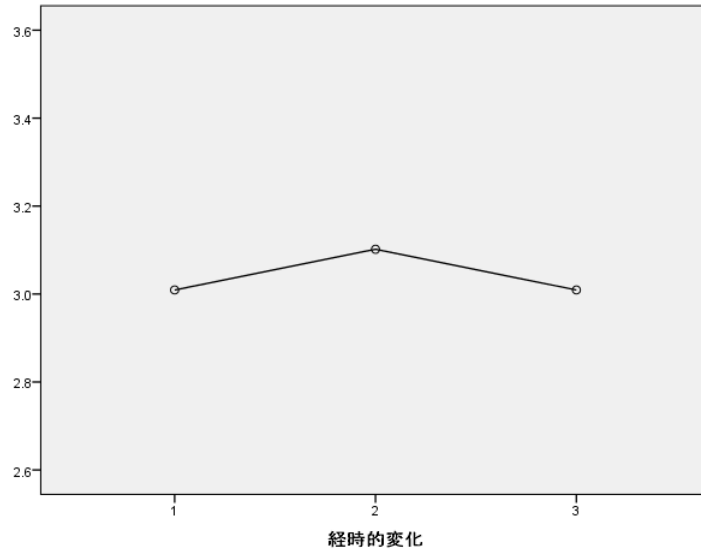
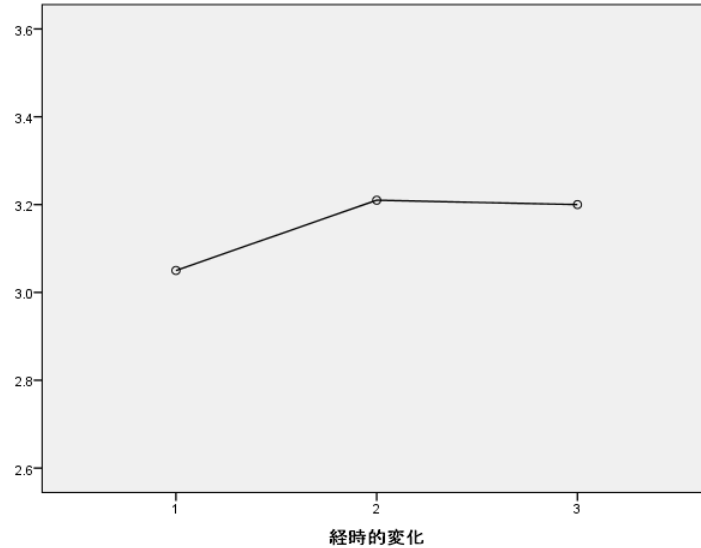


図 15 家事に関する利用者による評価の変化(3時点)



## 8) 認知症の程度

認知症の程度を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意でなかった ( $F(2,107)=0.447, p>.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意であった ( $F(2,98)=3.090, p<.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における認知症の程度は、ケアマネによる評価には変化がなく、利用者による評価は有意に変化していたといえる。利用者による評価の変化パターンとしては、11 年時点で悪化し、その後改善するというものであった。

図 16 認知症の程度のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

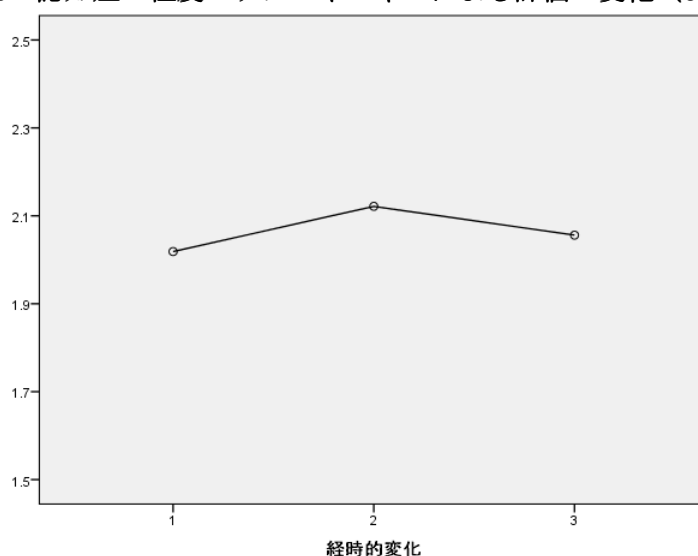
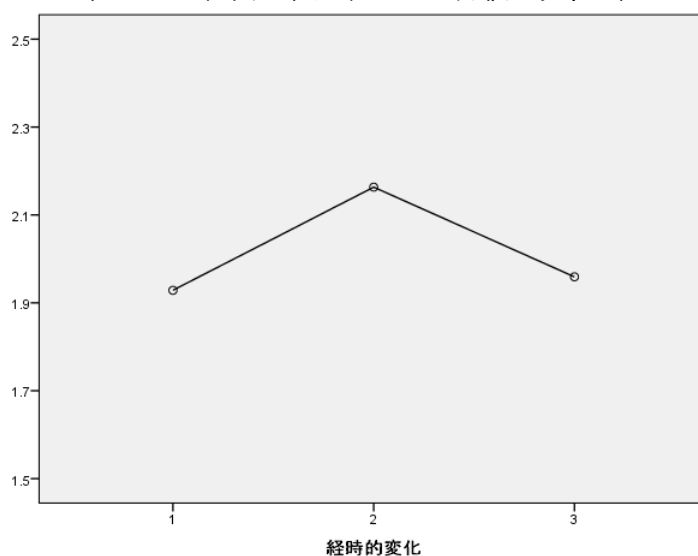


図 17 認知症の程度の利用者による評価の変化 (3 時点)



## 9) 生活の意欲

生活の意欲を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意でなかった ( $F(2,107)=2.751, p>.05$ )。一方、利用者による評価の分析結果では、時間の主効果は有意であった ( $F(2,100)=5.728, p<.01$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における生活の意欲は、ケアマネによる評価には変化がなく、利用者による評価は有意に変化していたといえる。生活の意欲の利用者による評価でも、11 年時点で悪化し、その後 12 年時点で若干改善するというパターンだった。

図 18 生活の意欲のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

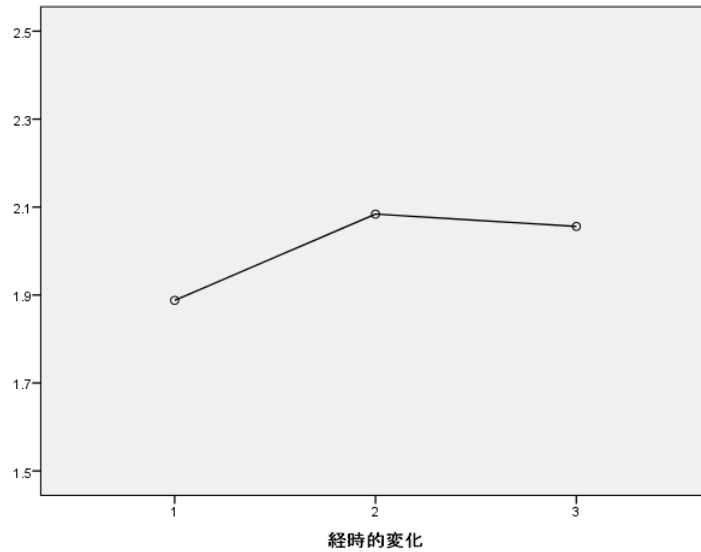
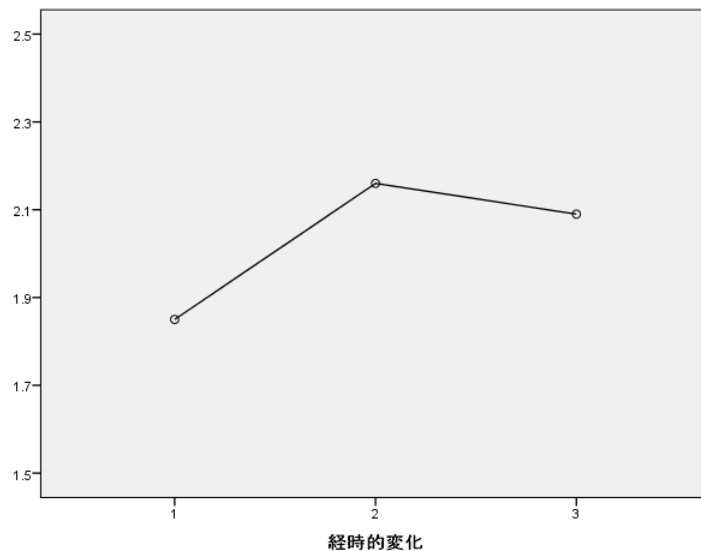


図 19 生活の意欲の利用者による評価の変化 (3 時点)





## 10) 意思の疎通に関して

意思の疎通に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意だった ( $F(2,106)=3.378, p<.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,101)=1.892, p>.05$ )。したがって、この3時点(2年間)における意思の疎通に関しては、ケアマネによる評価は有意に変化しており、利用者による評価には変化がなかったといえる。なお、ケアマネによる評価は、11年時点で一度悪化し、その後12年時点で若干改善するという変化パターンを辿っていた。

図 20 意思の疎通に関するケアマネジャーによる評価の変化(3時点)

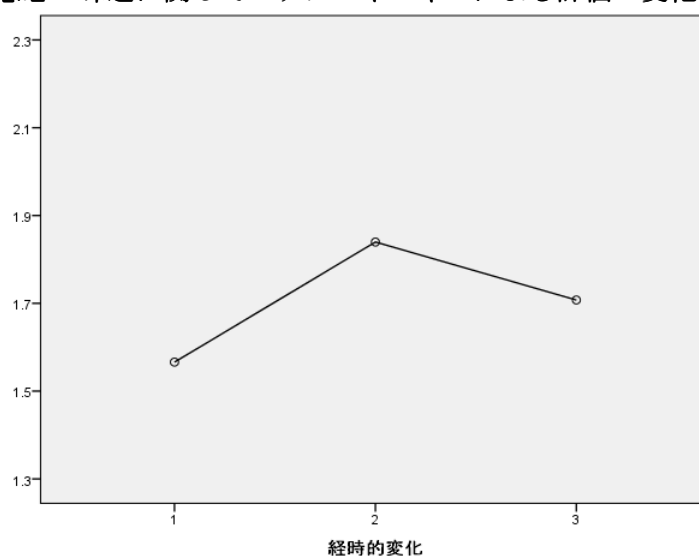
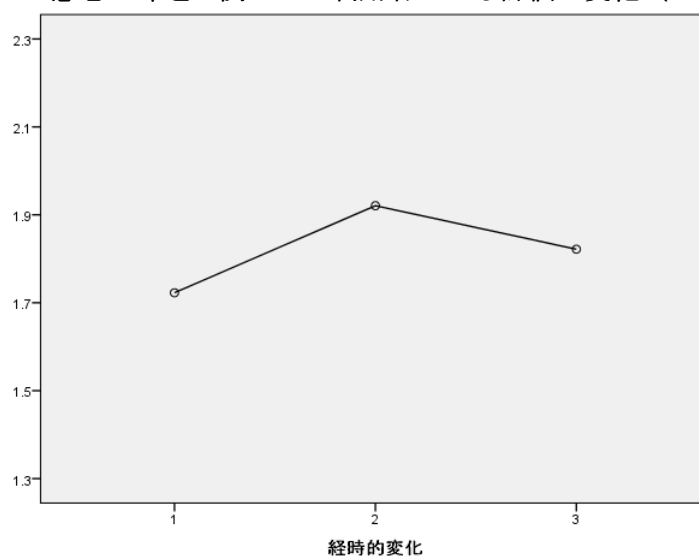


図 21 意思の疎通に関する利用者による評価の変化(3時点)



## 11) 社会参加や役割

社会参加や役割を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意でなかった ( $F(2,107)=1.297, p>.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意であった ( $F(2,101)=5.035, p<.01$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における社会参加や役割は、ケアマネによる評価は変化がなく、利用者による評価には有意に変化したといえる。利用者による評価では、11 年時点で大きく悪化し、その後若干改善するという変化パターンを辿っていた。

図 22 社会参加や役割のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

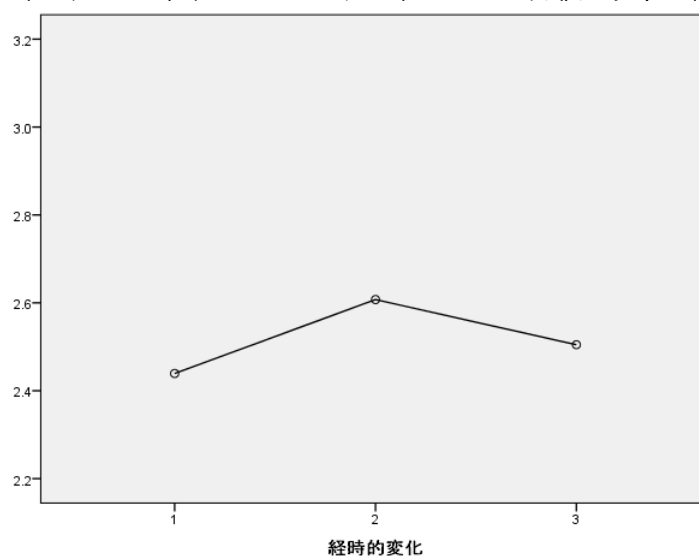
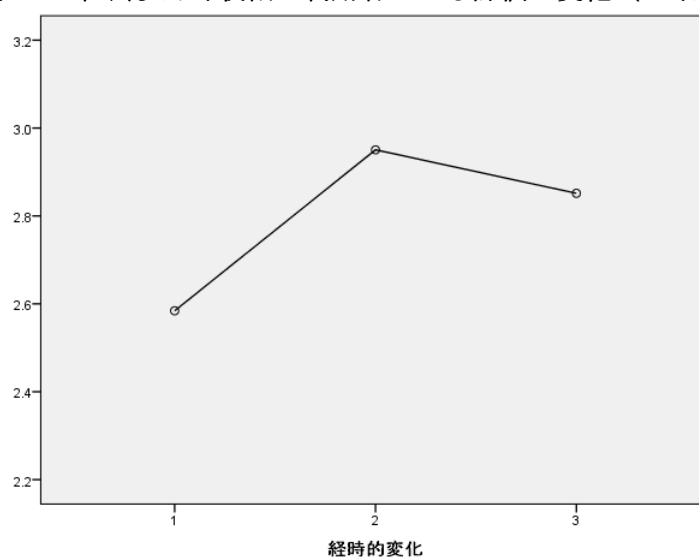


図 23 社会参加や役割の利用者による評価の変化 (3 時点)



## 12) 家族の介護負担

家族の介護負担を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(2,103)=3.502, p<.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,95)=0.441, p>.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における家族の介護負担は、ケアマネによる評価は有意に変化しており、利用者による評価には変化がなかったといえる。ケアマネによる評価では、11 年時点で悪化し、その後維持するという変化パターンであった。

図 24 家族の介護負担のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

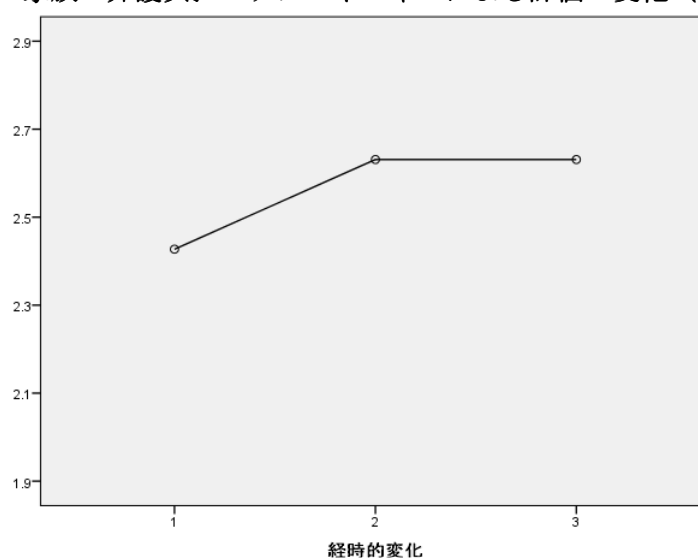
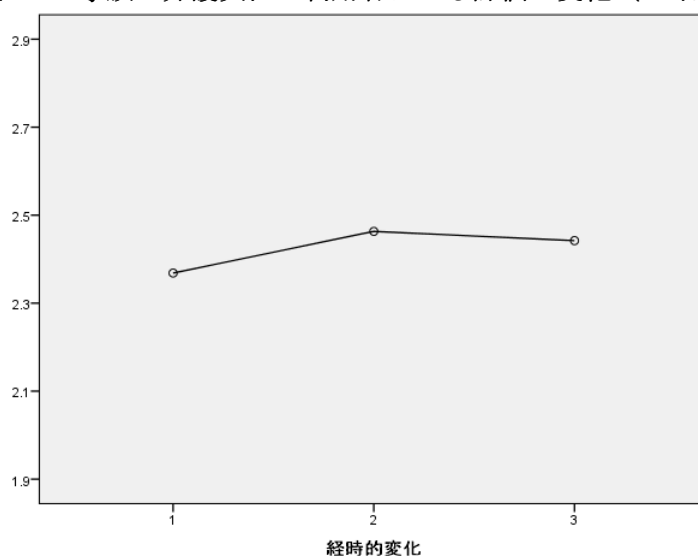


図 25 家族の介護負担の利用者による評価の変化 (3 時点)



### 13) 住んでいる環境（段差など）

住んでいる環境を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意でなかった ( $F(2,108)=0.285, p>.05$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,101)=1.818, p>.05$ )。したがって、この3時点(2年間)における住んでいる環境は、ケアマネによる評価、利用者による評価ともに変化がなかったといえる。

図 26 住んでいる環境のケアマネジャーによる評価の変化(3時点)

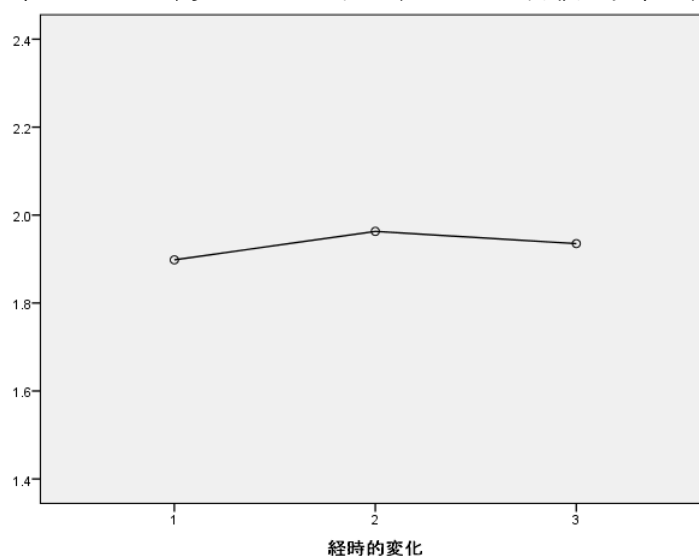
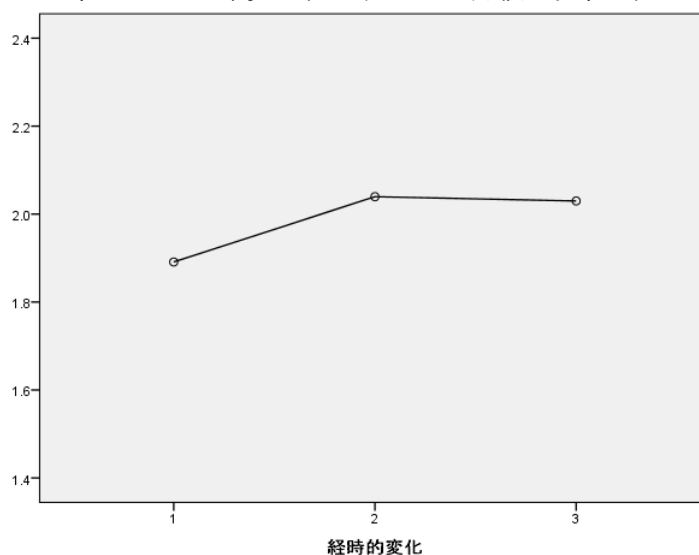


図 27 住んでいる環境の利用者による評価の変化(3時点)



#### 14) 経済環境（サービス利用等）

経済環境を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(2,109)=0.708, p>.05$ )。一方、利用者による評価の分析結果では、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,101)=1.703, p>.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における経済環境は、ケアマネによる評価は有意に変化しており、利用者による評価には変化がなかったといえる。ケアマネによる評価では、11 年時点までは維持しているものの、その後悪化するという変化パターンを辿っていた。なお、有意ではなかったが、利用者の評価では一貫して若干の悪化傾向が示された。

図 28 経済環境のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

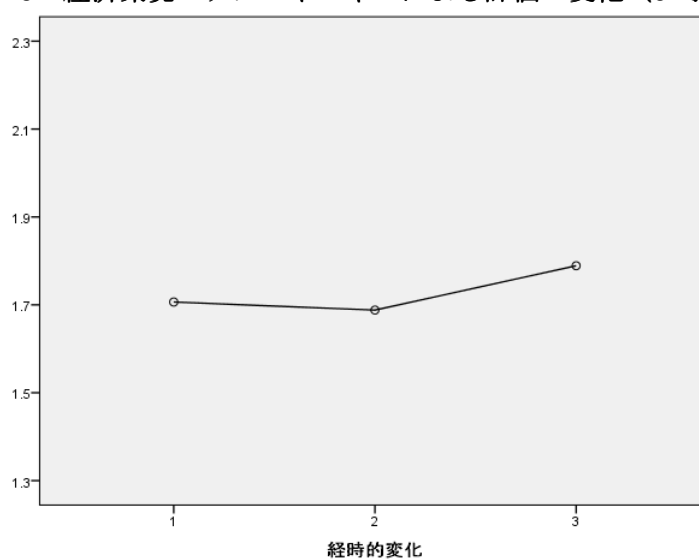
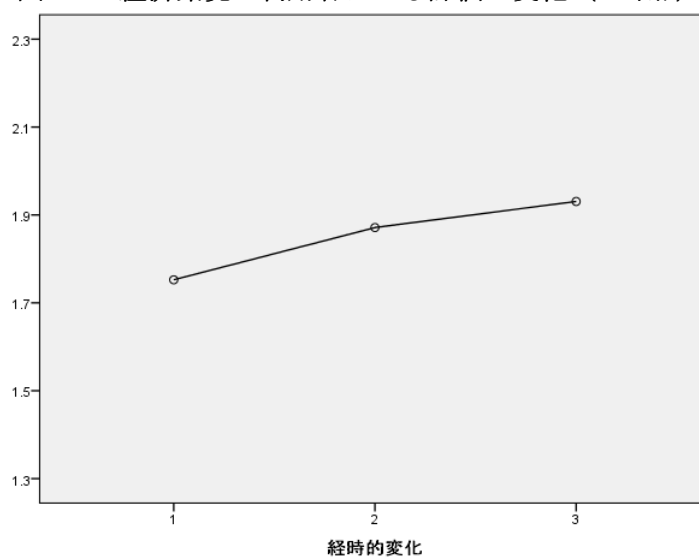


図 29 経済環境の利用者による評価の変化 (3 時点)



### 15) 在宅生活の状況

在宅生活の状況を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意でなかった ( $F(2,103)=2.697, p>.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意であった ( $F(2,92)=3.639, p<.05$ )。したがって、この 3 時点 (2 年間) における在宅生活の状況は、ケアマネによる評価には変化が見られないが、利用者による評価は有意に変化したといえる。利用者による評価の変化パターンでは、一貫して若干の悪化傾向にあることが示された。

図 30 在宅生活の状況のケアマネジャーによる評価の変化 (3 時点)

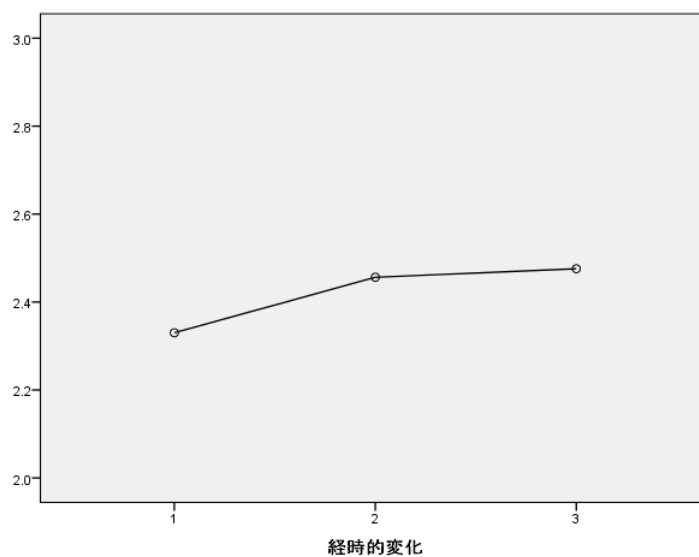
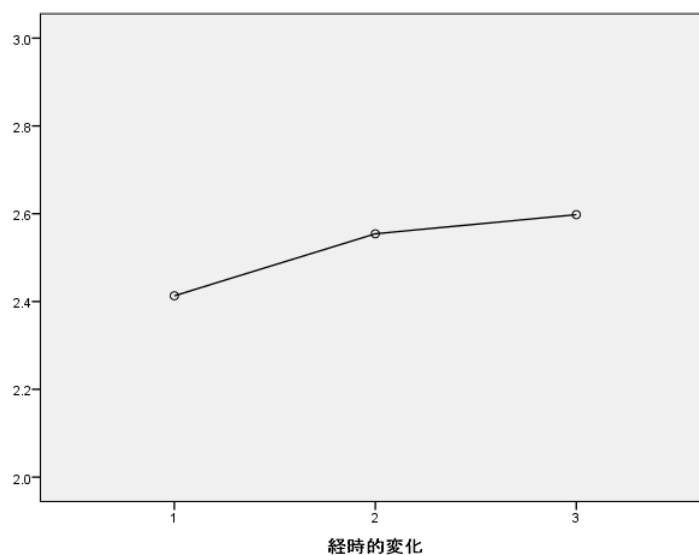


図 31 在宅生活の状況の利用者による評価の変化 (3 時点)



## 16) 在宅生活を継続する自信

QOLに関する14の評価項目以外に、在宅生活を継続する自信についても、「在宅で暮らす自信がある(1点)」、「どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある(2点)」、「どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない(3点)」、「在宅で暮らす自信はない(4点)」の4件で尋ね、点数化した(点数が高くなるほど在宅で暮らす自信が低下する)。

この在宅生活を継続する自信を従属変数としてR-M ANOVAを実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった( $F(2,104)=8.329, p<.001$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果が有意であった( $F(2,99)=5.739, p<.01$ )。したがって、この3時点(2年間)における在宅生活を継続する自信は、ケアマネによる評価、利用者による評価ともに有意に低下しており、またその変化パターンとしては、一貫して悪化傾向にあることが示された。

図 32 在宅生活を継続する自信のケアマネジャーによる評価の変化(3時点)

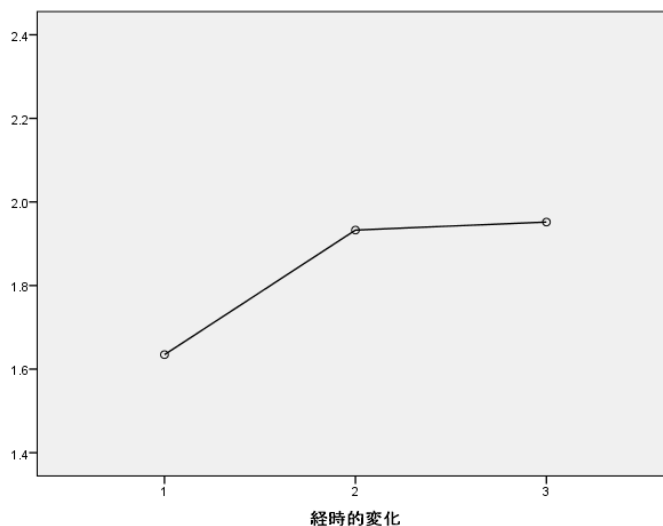
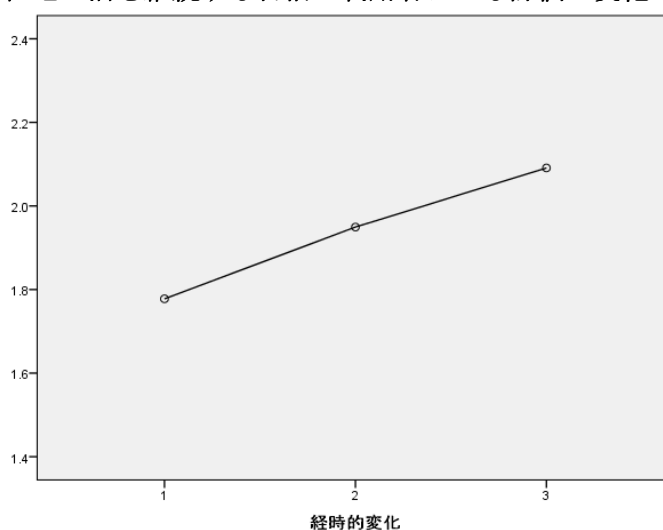


図 33 在宅生活を継続する自信の利用者による評価の変化(3時点)



### 【参考分析】ケアマネジャーおよび利用者における4時点(仮想)でのQOL評価項目の変化分析

本研究では、10年度、11年度、12年度の3回調査を実施し、3時点での利用者の状態の変化について検討している。ただ、3回の調査のうち、1回目の10年度調査においては、調査時点だけではなく、ケアマネジメント開始時の状態についても設問を設定し、データを収集している。このケアマネジメント開始時について尋ねたデータは、10年度現在の時点における振り返りデータ(後ろ向き調査)であり、3時点のような時系列データではない。

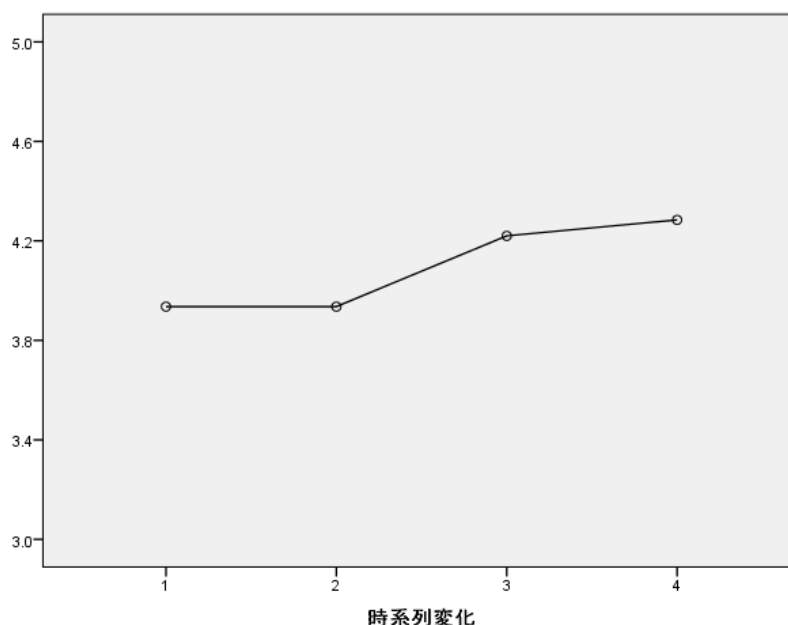
そのため、本来的には当該データを活用して統計的分析を実施することは適切ではないが、開始時を含めた4時点での状態の変化には、一定の示唆が含まれているものと考え、参考分析として4時点で実施したR-M ANOVAの結果について、以下に掲載することとした。第1時点(ケアマネジメント開始時)は振り返りデータであるため、回答結果の信頼性に課題があるものの、第1時点(ケアマネジメント開始時)から第2時点(ケアマネジメント開始後半年~1年程度)にかけて多くの項目で大きな改善傾向が示された。今後は、ケアマネジメント開始後における状態の変化についても検討していくことが必要であると考えられる。

ただし、今回の報告書において、以下の結果はあくまでも参考分析である。

#### 1) 要介護度の変化

要介護度を従属変数としてR-M ANOVAを実施した結果、時間の主効果は有意であった( $F(2,109)=3.171, p<.05$ )。

図 34 利用者の要介護度の変化 (4時点)





## 2) 日常生活の自立度

日常生活の自立度を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,109)=3.892, p<.01$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(3,98)=0.962, p>.05$ )。

図 35 日常生活の自立度のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

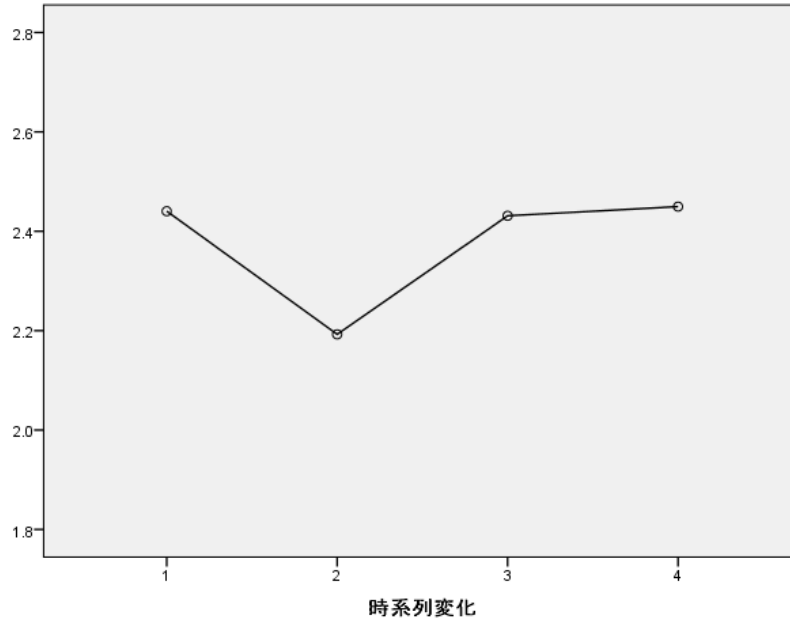
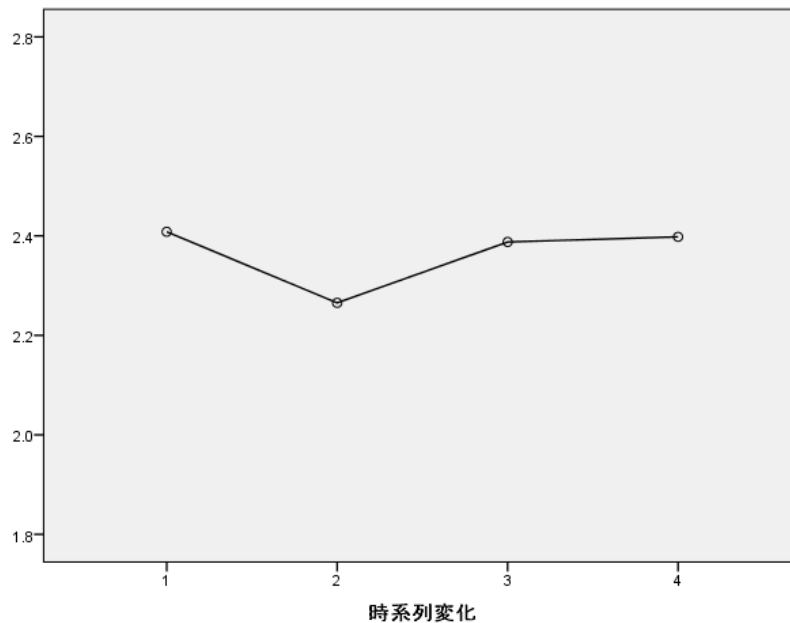


図 36 日常生活の自立度の利用者による評価の変化 (4 時点)



### 3) 健康状態や受診に関して

健康状態や受診を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,108)=27.463, p<.001$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(3,99)=11.789, p<.001$ )。

図 37 健康状態や受診に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

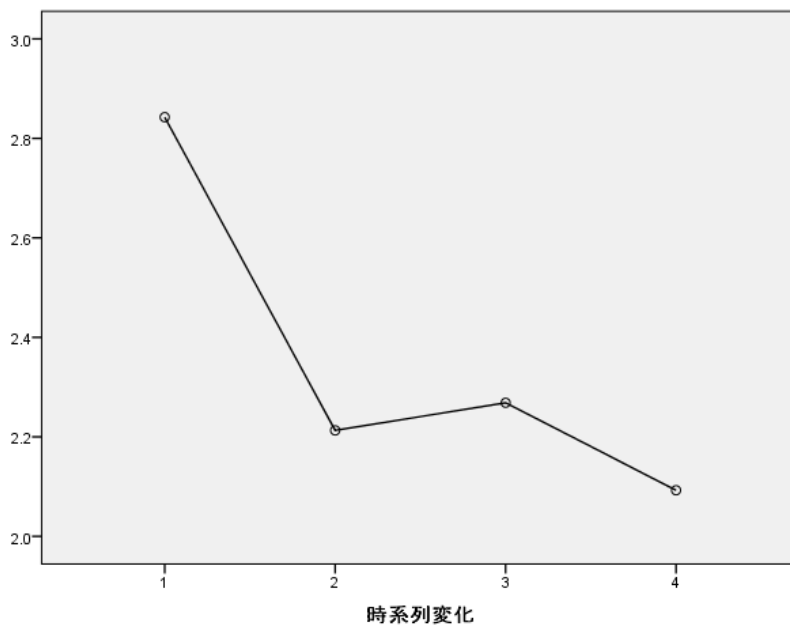
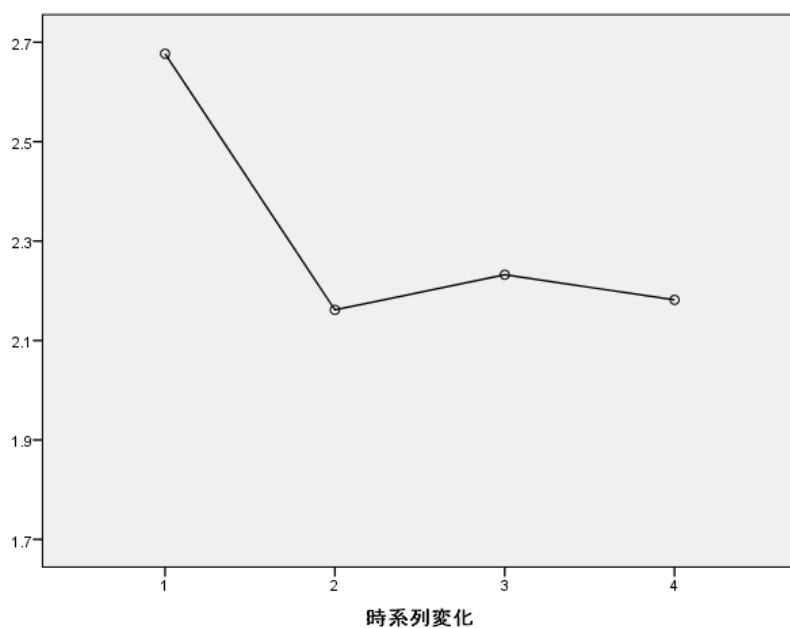


図 38 健康状態や受診に関しての利用者による評価の変化 (4 時点)



#### 4) 食事に関して

食事に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,109)=7.844, p<.001$ )。また、利用者による評価についての分析結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(3,99)=2.829, p<.05$ )。

図 39 食事に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

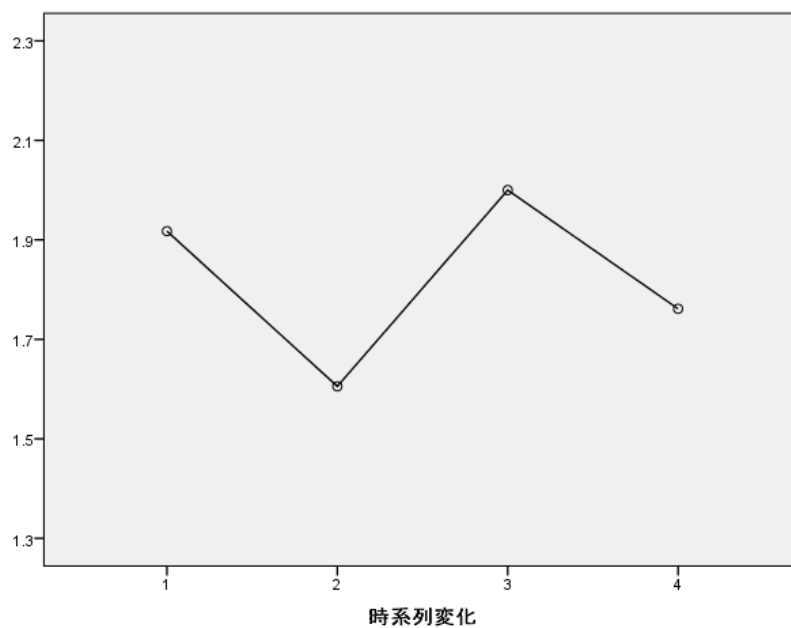
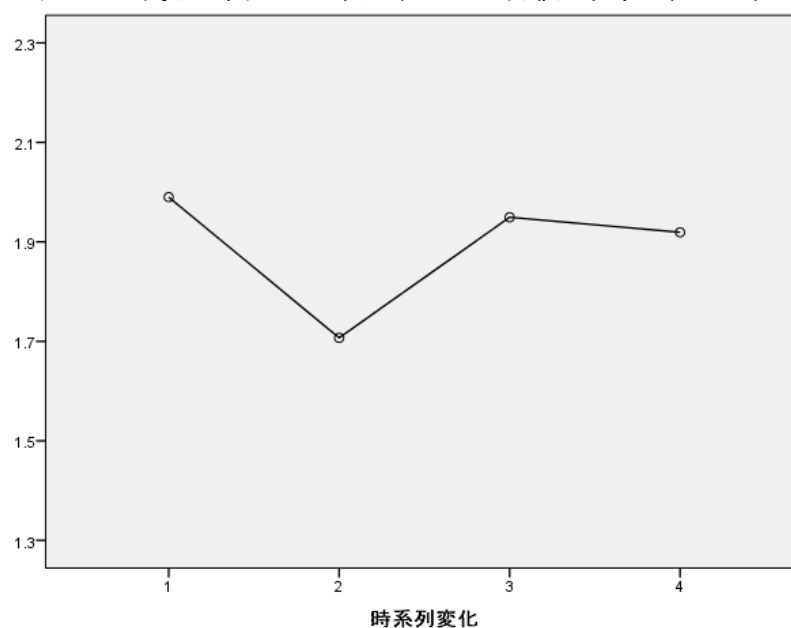


図 40 食事に関しての利用者による評価の変化 (4 時点)



## 5) 入浴に関して

入浴に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,110)=8.794$ ,  $p<.001$ )。また、利用者による評価についての分析結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(3,101)=4.994$ ,  $p<.01$ )。

図 41 入浴に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

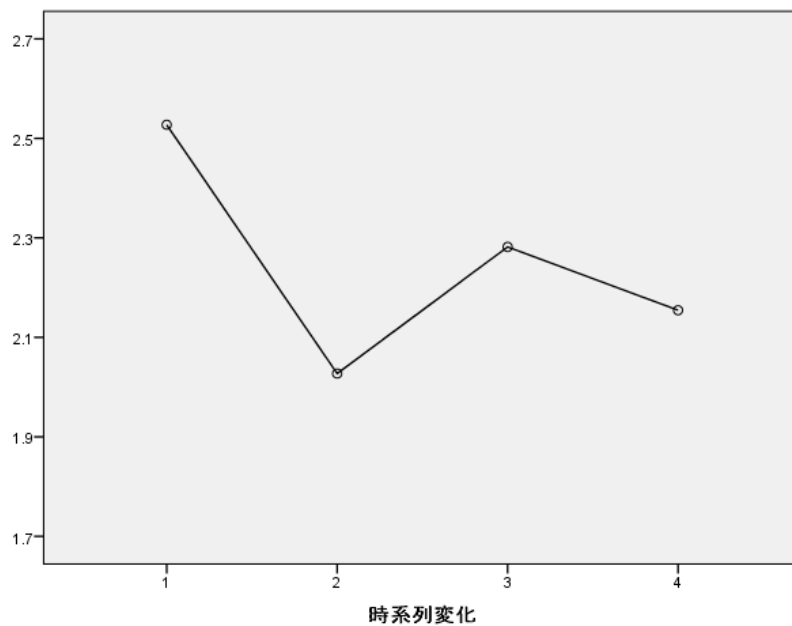
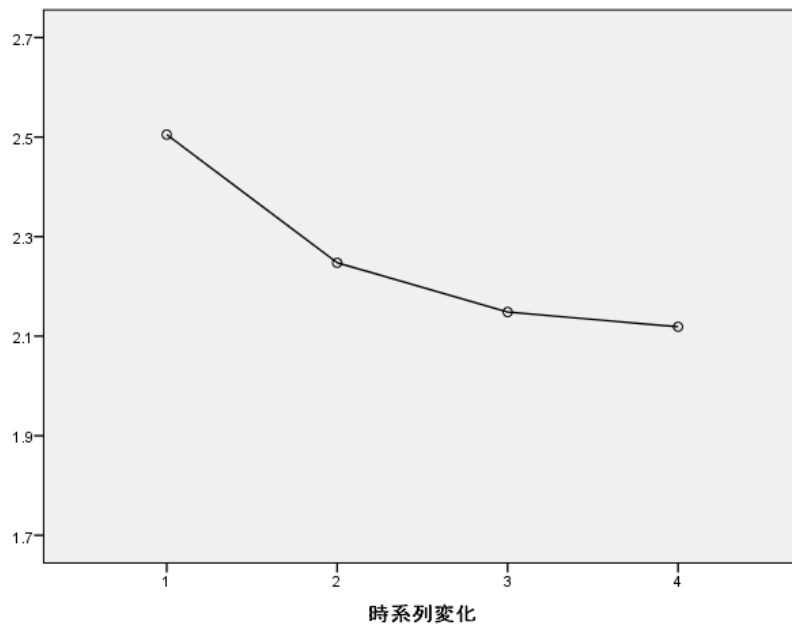


図 42 入浴に関しての利用者による評価の変化 (4 時点)



## 6) 排泄に関して

排泄に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意でなかった ( $F(3,110)=2.144, p>.05$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(3,102)=0.522, p>.05$ )。

図 43 排泄に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

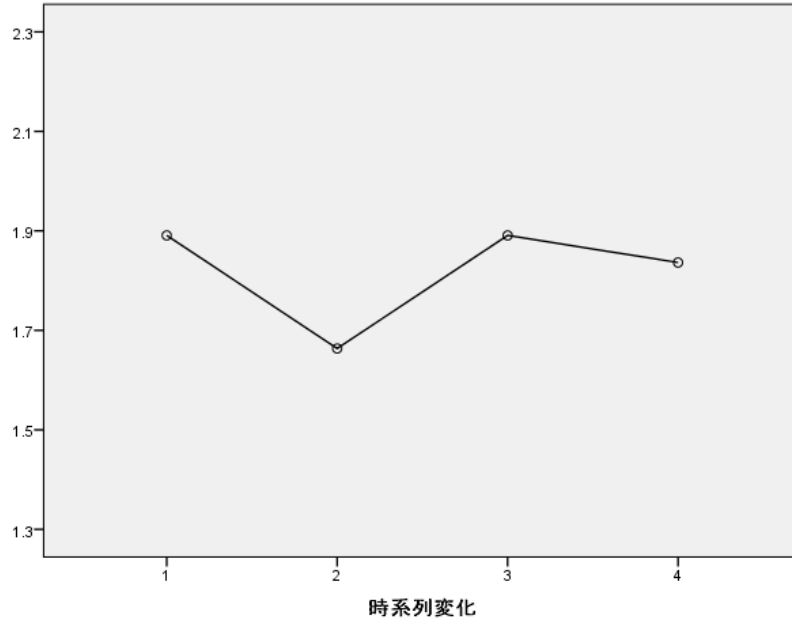
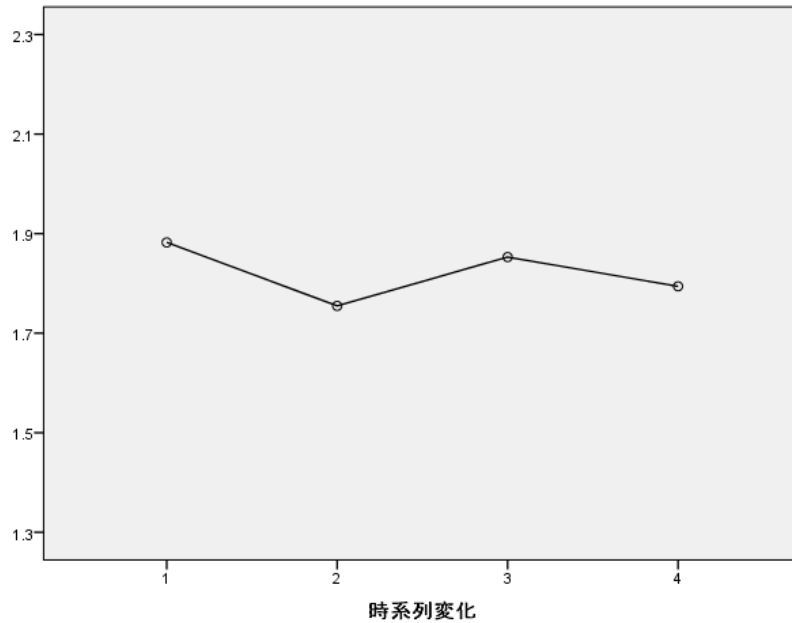


図 44 排泄に関しての利用者による評価の変化 (4 時点)



## 7) 家事に関して

家事に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,108)=3.725, p<.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果では、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(3,100)=1.259, p>.05$ )。

図 45 家事に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

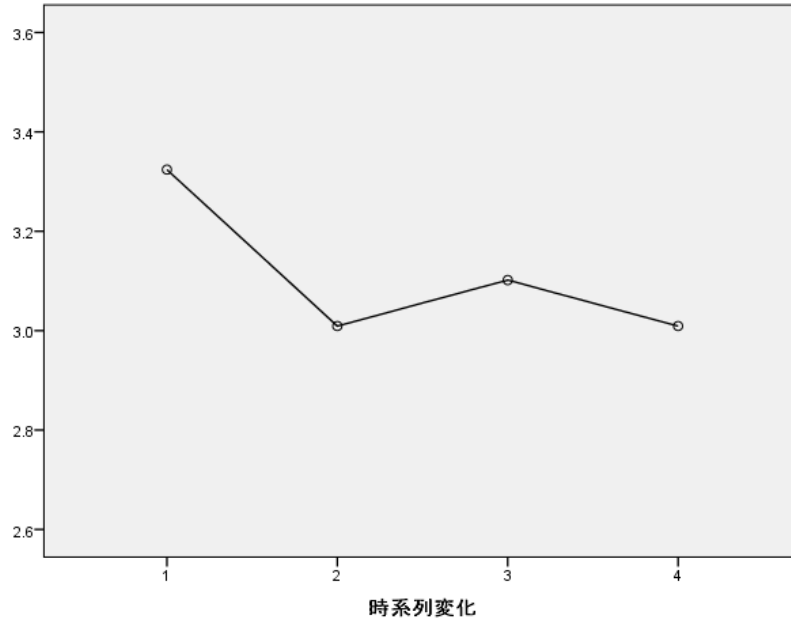
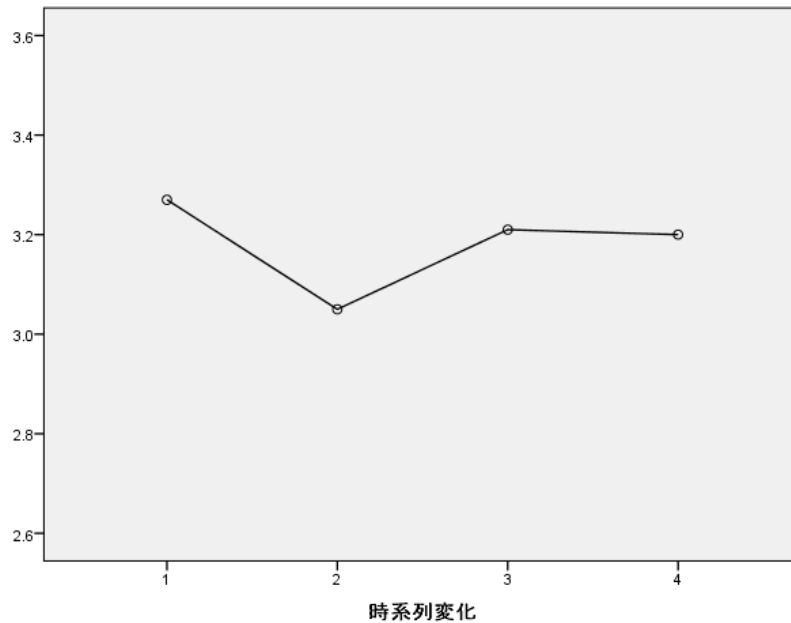


図 46 家事に関しての利用者による評価の変化 (4 時点)



## 8) 認知症の程度

認知症の程度を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意でなかった ( $F(3,106)=0.353, p>.05$ )。また、利用者による評価について分析を行った結果においても、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2,463,98)=2.709, p>.05$ )。

図 47 認知症の程度のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

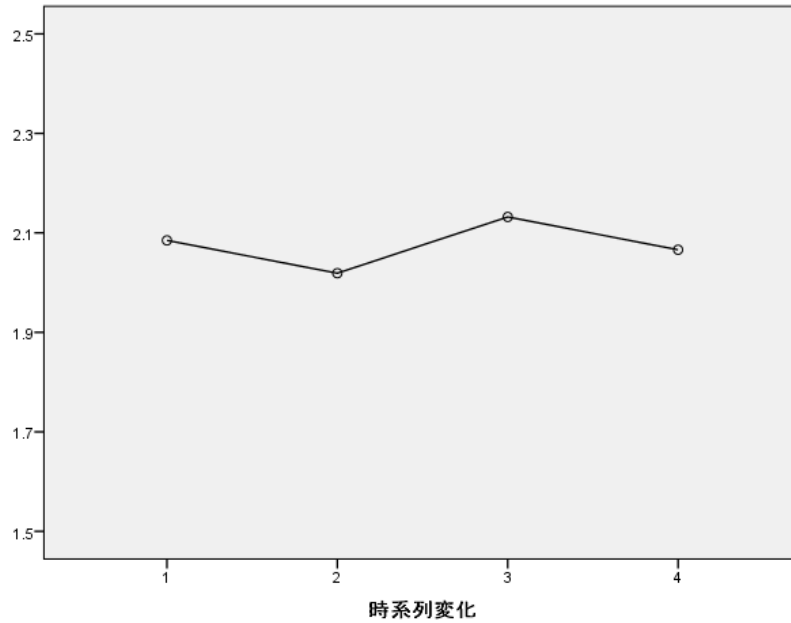
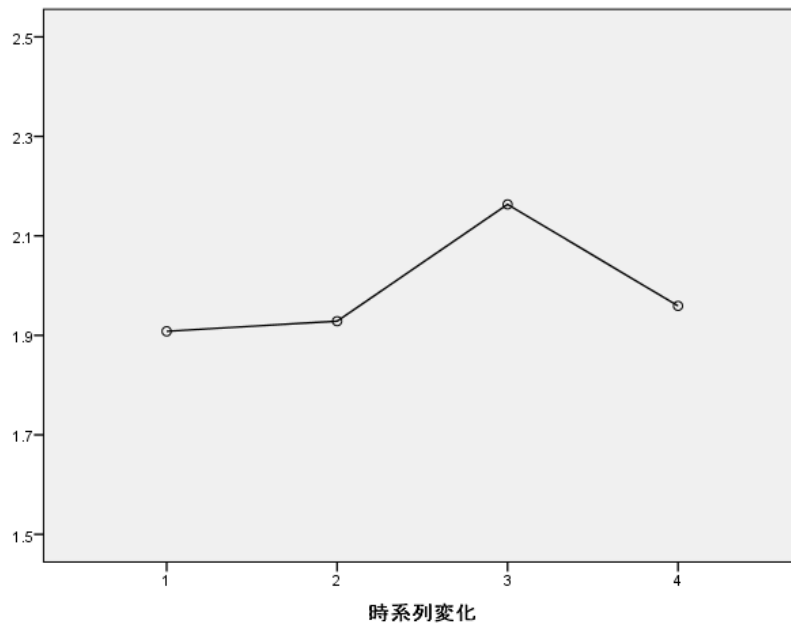


図 48 認知症の程度の利用者による評価の変化 (4 時点)



## 9) 生活の意欲

生活の意欲を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,107)=12.389, p<.001$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(2,665,100)=5.418, p<.01$ )。

図 49 生活の意欲のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

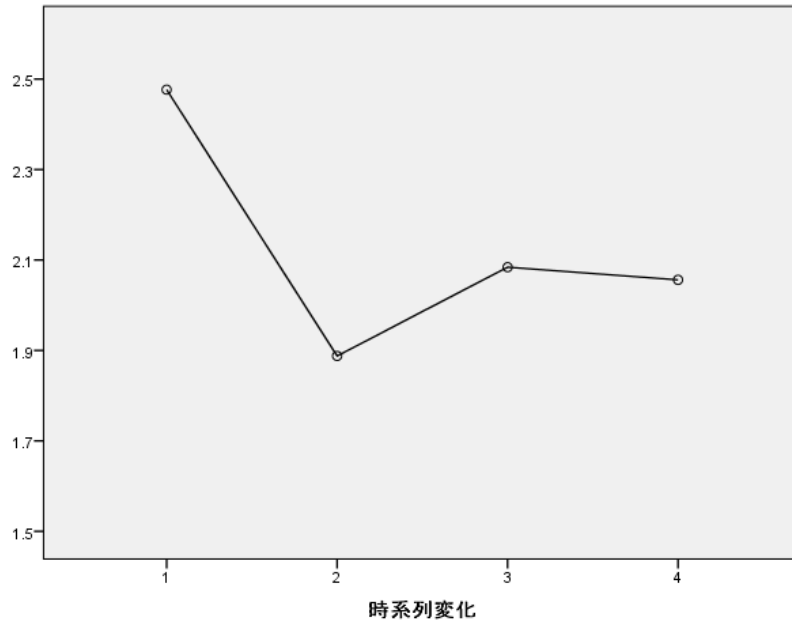
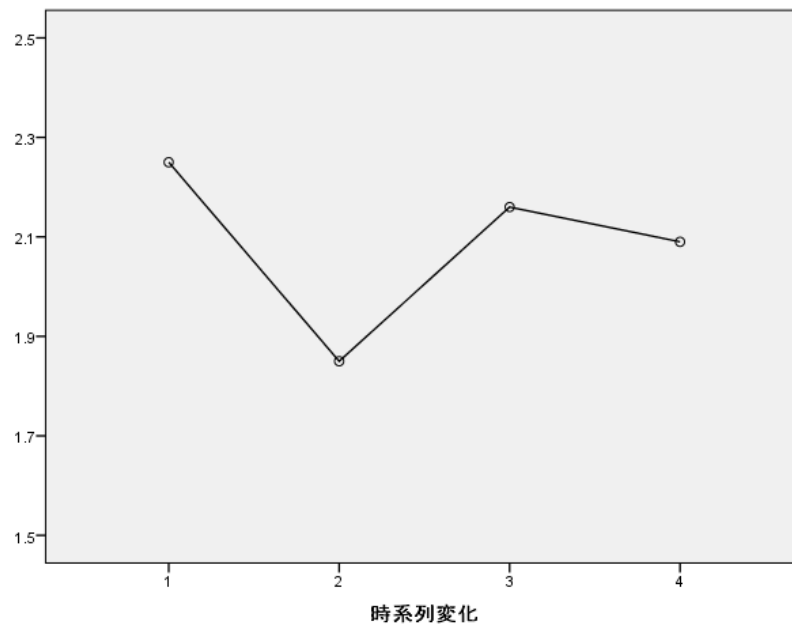


図 50 生活の意欲の利用者による評価の変化 (4 時点)





## 10) 意思の疎通に関して

意思の疎通に関してを従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,106)=2.820$ ,  $p<.05$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2.454,101)=1.628$ ,  $p>.05$ )。

図 51 意思の疎通に関してのケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

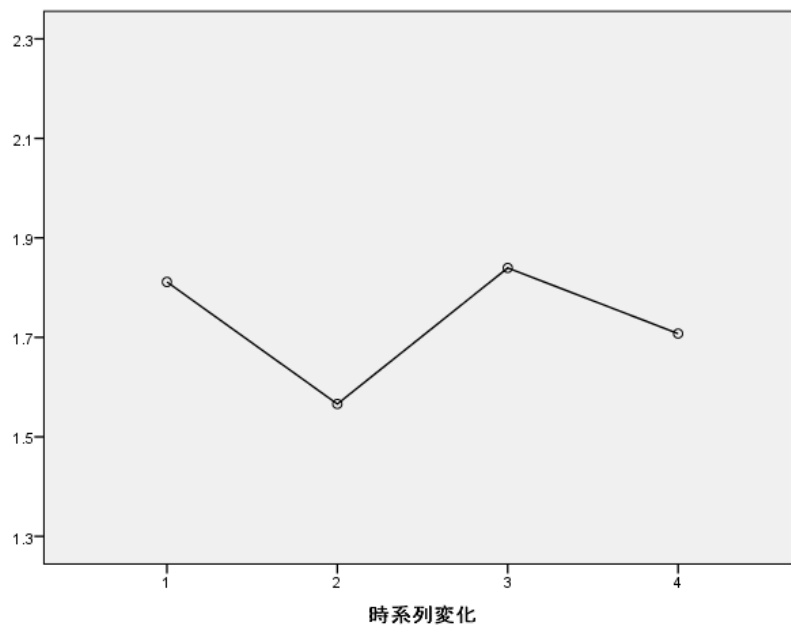
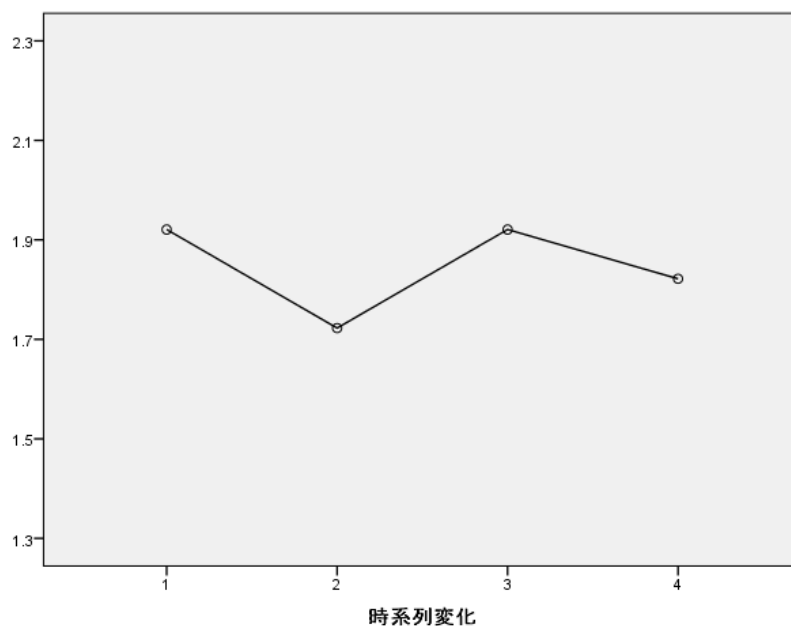


図 52 意思の疎通に関しての利用者による評価の変化 (4 時点)



## 11) 社会参加や役割

社会参加や役割を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,107)=12.917, p<.001$ )。また、利用者による評価について分析を行った結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(3,100)=3.738, p<.05$ )。

図 53 社会参加や役割のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

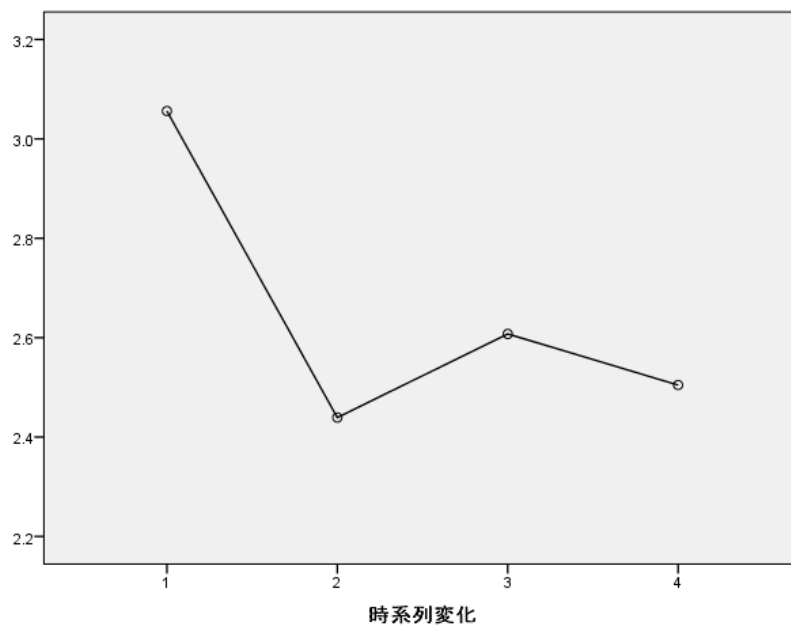
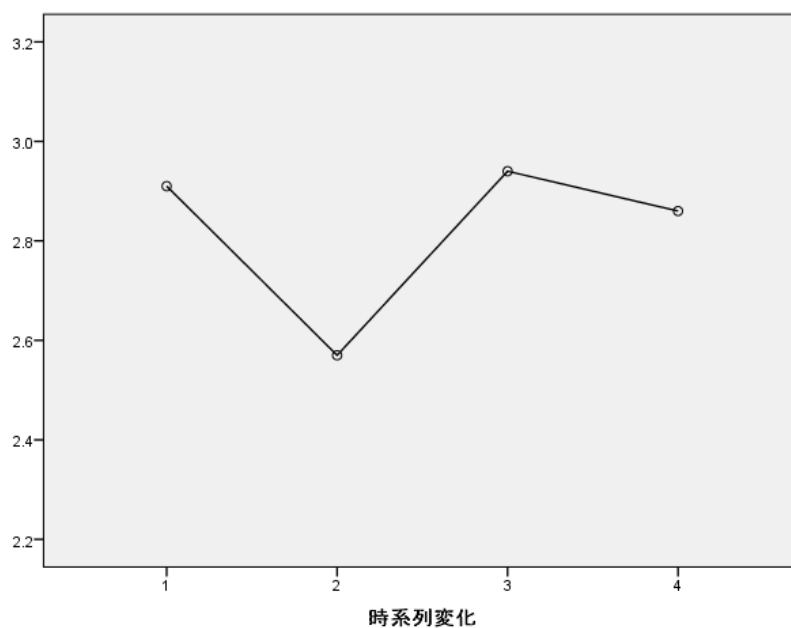


図 54 社会参加や役割の利用者による評価の変化 (4 時点)



## 12) 家族の介護負担

家族の介護負担を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,103)=6/523, p<.001$ )。一方、利用者による評価について分析を行った結果、時間の主効果は有意ではなかった ( $F(2.668,95)=1.325, p>.05$ )。

図 55 家族の介護負担のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

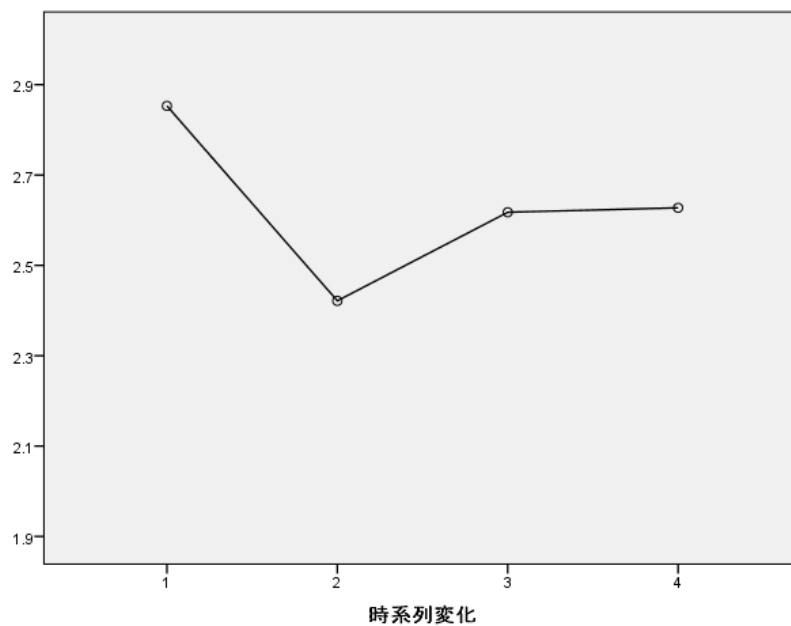
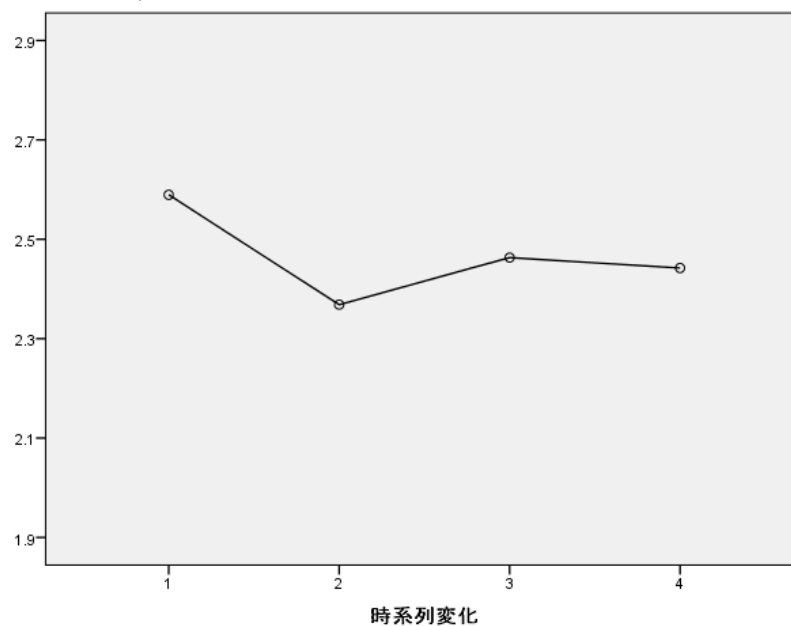


図 56 家族の介護負担の利用者による評価の変化 (4 時点)



### 13) 住んでいる環境（段差など）

住んでいる環境を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,107)=16.029, p<.001$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(2,611,101)=6.207, p<.01$ )。

図 57 住んでいる環境のケアマネジャーによる評価の変化（4 時点）

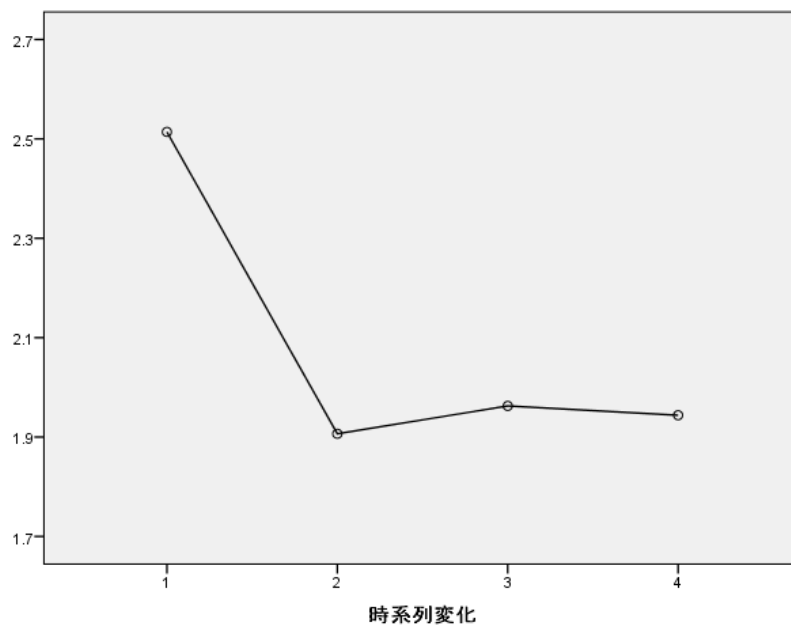
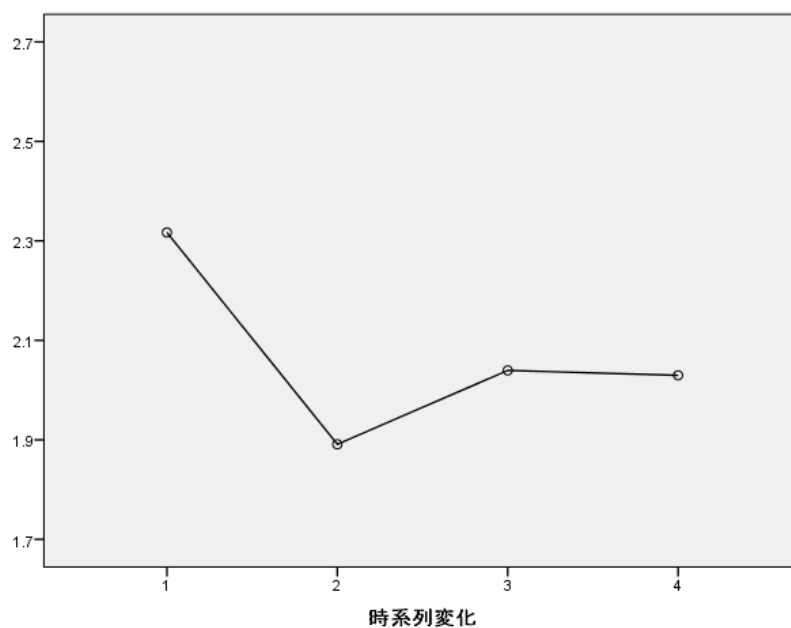


図 58 住んでいる環境の利用者による評価の変化（4 時点）



#### 14) 経済環境（サービス利用等）

経済環境を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,109)=6.863, p<.001$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果は有意ではあった ( $F(2,405,101)=4.030, p<.05$ )。

図 59 経済環境のケアマネジャーによる評価の変化（4 時点）

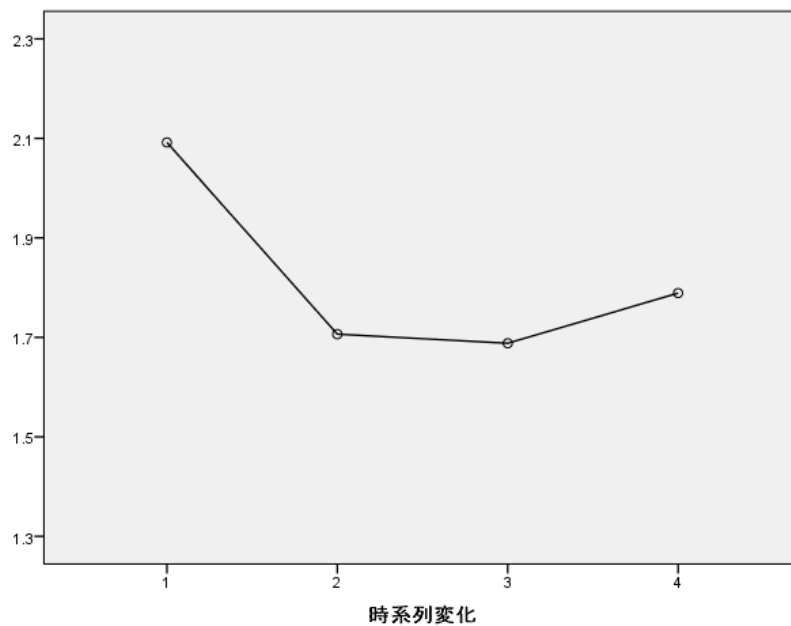
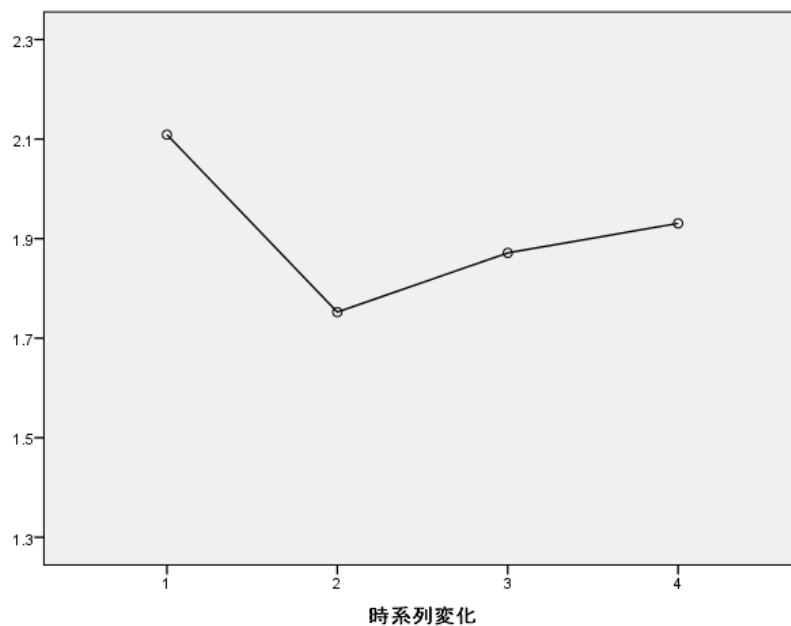


図 60 経済環境の利用者による評価の変化（4 時点）



### 15) 在宅生活の状況

在宅生活の状況を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,102)=17.917, p<.001$ )。また、利用者による評価について分析を行った結果においても、時間の主効果は有意であった ( $F(3,92)=8.500, p<.001$ )。

図 61 在宅生活の状況のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

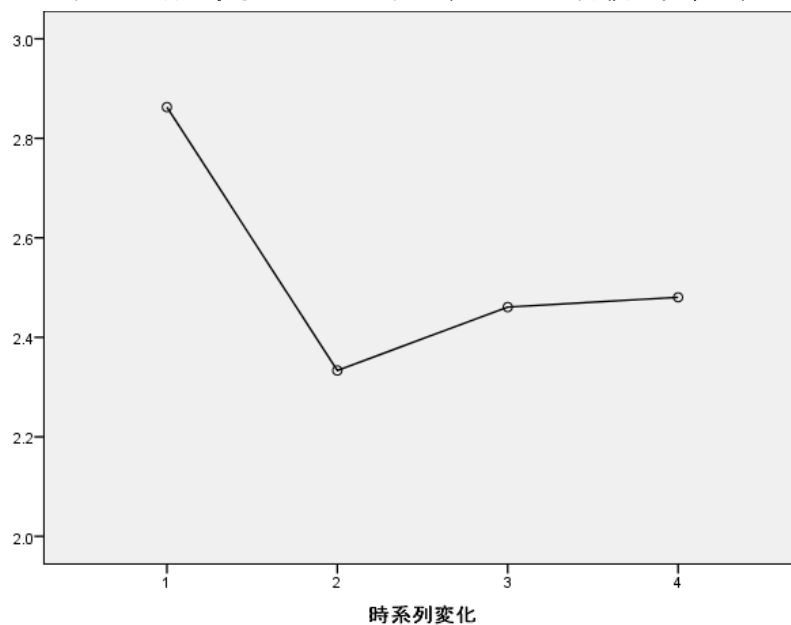
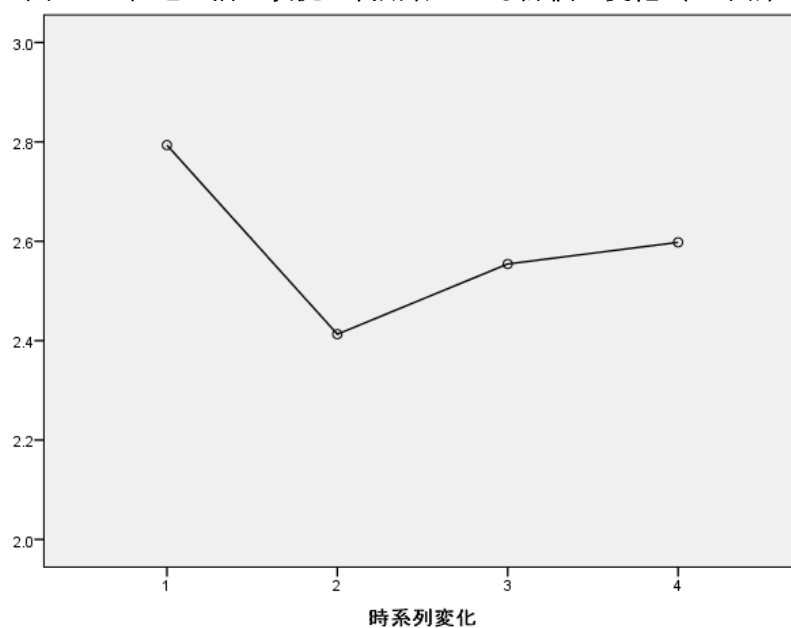


図 62 在宅生活の状況の利用者による評価の変化 (4 時点)



## 16) 在宅生活を継続する自信

在宅生活を継続する自信を従属変数として R-M ANOVA を実施した。まずケアマネジャーによる評価について分析を行った結果、時間の主効果が有意であった ( $F(3,104)=10.967$ ,  $p<.001$ )。また、利用者による評価の分析結果においても、時間の主効果が有意であった ( $F(2,489,99)=5.032$ ,  $p<.01$ )。

図 63 在宅生活を継続する自信のケアマネジャーによる評価の変化 (4 時点)

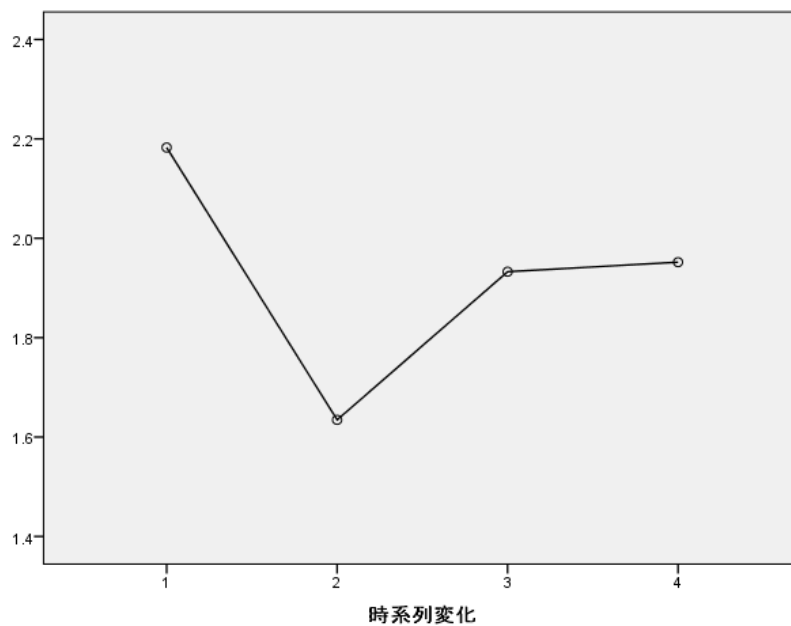
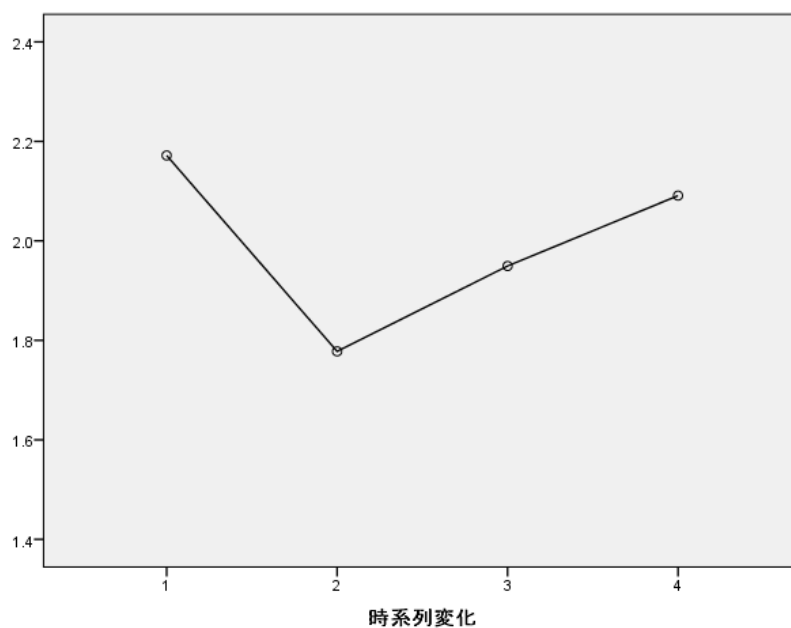


図 64 在宅生活を継続する自信の利用者による評価の変化 (4 時点)



## 4.5.2 QOL 効果指標の経年変化に影響を与える要因の検討

### 1) 分析経緯の概要

2010 年度から 2011 年度にかけての QOL 効果指標の経年変化と、2011 年度から 2012 年度にかけての QOL 効果指標の経年変化について、利用者の基本属性がどのように関連しているのかということを検証することで、QOL が低下しやすい利用者の特性を明らかにすることを目的に分析を行なった。

分析に際しては、経年変化を「維持・改善群」と「悪化群」に分類し、関連をみるために二項ロジスティック回帰分析を行なった。独立変数には利用者の基本属性として「性別 (0=女性/1=男性)」、「年齢区分 (0=前期高齢者/1=後期高齢者)」、「現在の家族の状況 (0=同居家族有/1=独居)」、「認知症の有無 (0=無/1=有)」、「脳血管障害後遺症の有無 (0=無/1=有)」、「廃用症候群の有無 (0=無/1=有)」、「関節疾患の有無 (0=無/1=有)」、「要支援・要介護度」を設定した。なお、分析において経年変化の結果が、最も悪い状態を維持しているものについては、分析から除外することとした。

### 2) 分析結果

二項ロジスティック回帰分析の結果、以下の点が利用者の QOL を低下させるリスク要因として析出された。

#### (ケアマネジャー調査)

・経年変化におけるリスク要因 (2010 年—2011 年)

- 「食事」 ⇒ 「年齢区分」、「脳血管障害後遺症」
- 「入浴」 ⇒ 「年齢区分」、「要支援・要介護度」
- 「排泄」 ⇒ 「認知症」
- 「意思疎通」 ⇒ 「認知症」
- 「社会参加」 ⇒ 「要支援・要介護度」

・経年変化におけるリスク要因 (2011 年—2012 年)

- 「入浴」 ⇒ 「関節疾患」、「要支援・要介護度」
- 「排泄」 ⇒ 「認知症」
- 「意思疎通」 ⇒ 「認知症」、「現在の家族の状況」
- 「社会参加」 ⇒ 「要支援・要介護度」

#### (利用者調査)

・経年変化におけるリスク要因 (2010 年—2011 年)

- 「食事」 ⇒ 「現在の家族の状況」
- 「家事」 ⇒ 「認知症」



「社会参加」 ⇒ 「性別」

「介護家族の負担」 ⇒ 「現在の家族の状況」

・経年変化におけるリスク要因（2011年—2012年）

「排泄」 ⇒ 「性別」

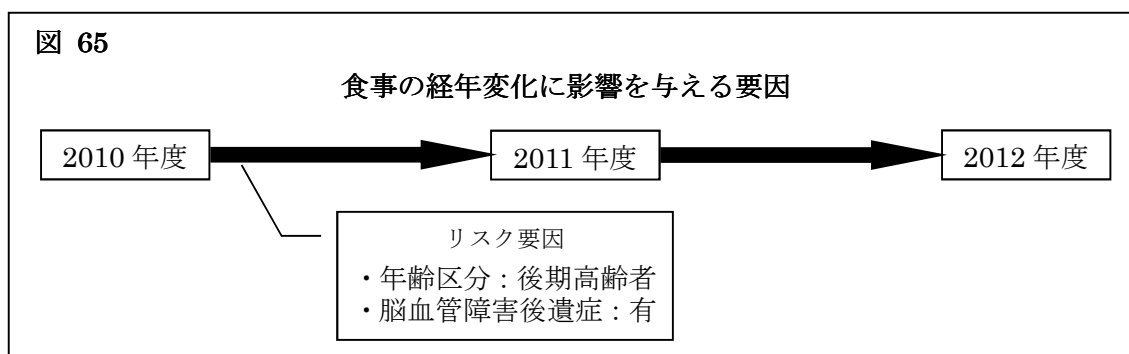
「家事」 ⇒ 「性別」、「認知症」

「意思疎通」 ⇒ 「脳血管障害後遺症」、「年齢区分」

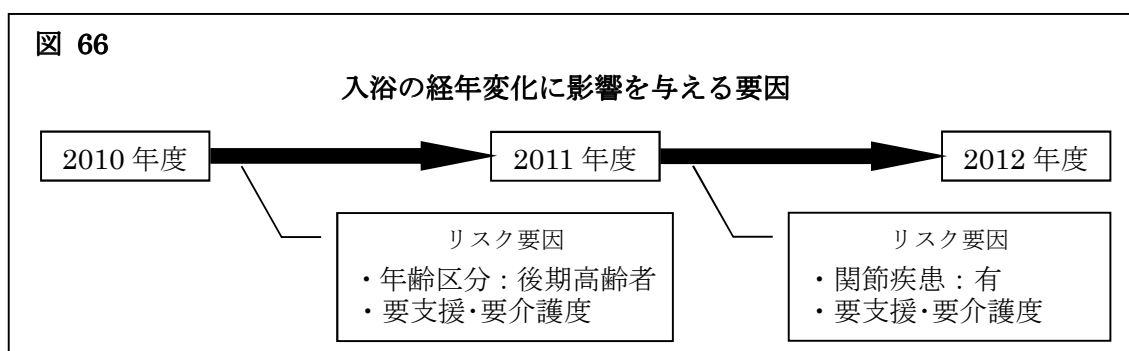
「社会参加」 ⇒ 「性別」

以下、分析の結果、関連が見られた QOL 効果指標ごとに結果を示す。

### ①ケアマネジャー調査の分析結果



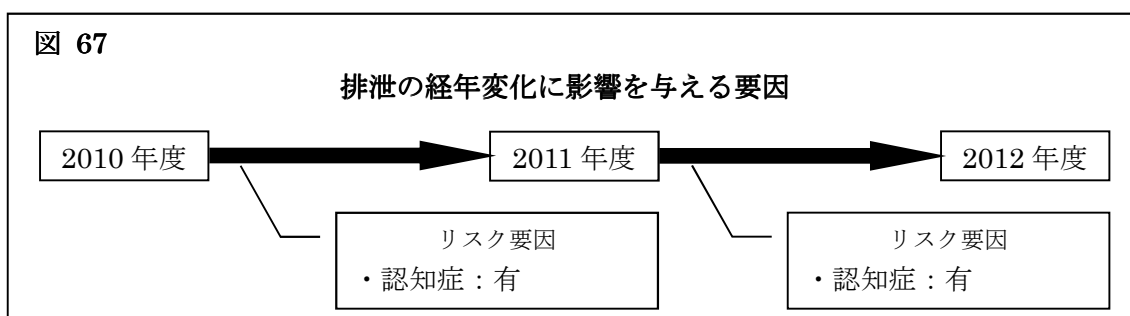
2010年度から2011年度にかけての「食事の状態」の経年変化について、「年齢区分（0=前期高齢者/1=後期高齢者）；OR=2.47,  $p<.05$ 」および、「脳血管障害後遺症の有無（0=無/1=有）；OR=1.45,  $p<.05$ 」が関連を示していた。つまり、前期高齢者に比べ後期高齢者は、食事の状態が低下するリスクが2.47倍高まり、脳血管障害後遺症が有る高齢者は、無い高齢者に比べ食事の状態が低下するリスクが1.45倍高まること示された。



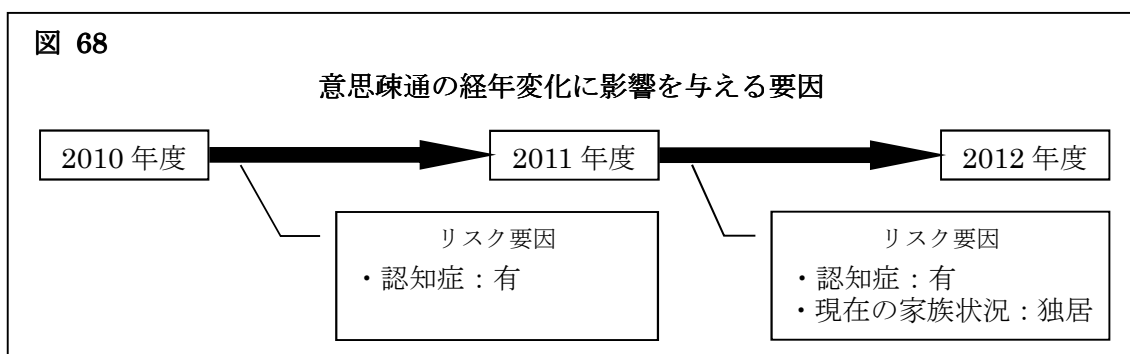
2010年度から2011年度にかけての「入浴の状態」の経年変化について、「年齢区分（0=前期高齢者/1=後期高齢者）；OR=2.48,  $p<.05$ 」および、「要支援・要介護度；OR=1.27,  $p<.05$ 」が関連を示していた。つまり、前期高齢者に比べ後期高齢者は入浴の状態が低下

するリスクが 2.48 倍高まり、要支援・要介護度が 1 上がるにつれて入浴の状態が低下するリスクが 1.27 倍高まることが示された。

また、2011 年度から 2012 年度にかけての「入浴の状態」の経年変化については、「関節疾患の有無 (0=無/1=有) ; OR=1.78, p<.05)」および、「要支援・要介護度 ; OR=1.73, p<.05)」が関連を示していた。つまり、関節疾患が有る高齢者は、無い高齢者に比べ入浴の状態が低下するリスクが 1.78 倍高まり、要支援・要介護度が 1 上がるにつれて入浴の状態が低下するリスクが 1.73 倍高まることが示された。



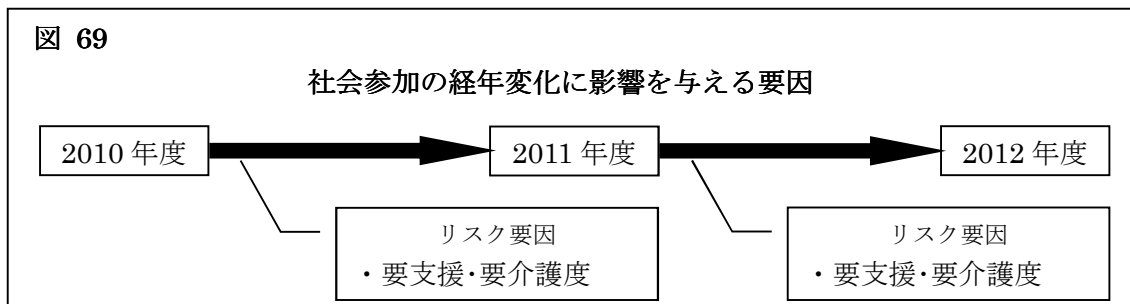
2010 年度から 2011 年度にかけての「排泄の状態」の経年変化について、「認知症の有無 (0=無/1=有) ; OR=2.17, p<.05)」が関連を示していた。また 2010 年度から 2011 年度にかけての経年変化についても、「認知症の有無 (0=無/1=有) ; OR=2.69, p<.05)」が関連を示していた。つまり、両時点において認知症が有る高齢者は、無い高齢者に比べ、排泄の状態が低下するリスクが 2 倍以上高まることが示された。



2010 年度から 2011 年度にかけての「意思疎通の状態」の経年変化について、「認知症の有無 (0=無/1=有) ; OR=2.31, p<.01)」が関連を示していた。つまり、認知症が有る高齢者は、無い高齢者に比べ、意思疎通の状態が低下するリスクが 2.31 倍高まることが示された。

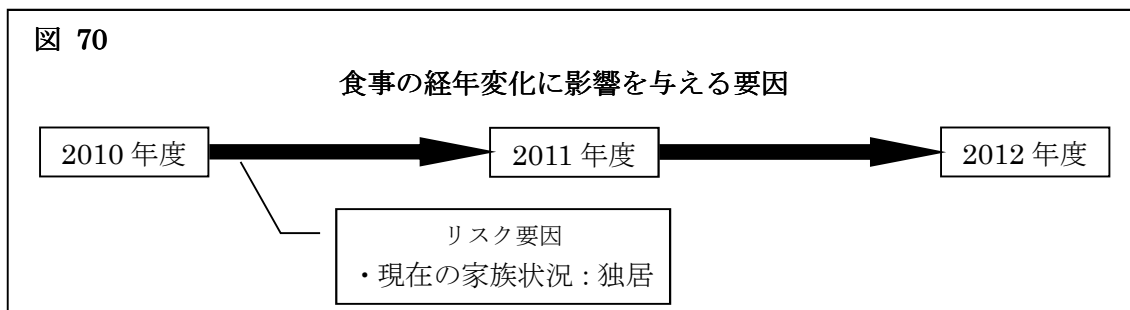
また、2011 年度から 2012 年度にかけての「意思疎通の状態」の経年変化については、「認知症の有無 (0=無/1=有) ; OR=3.36, p<.05)」および、「現在の家族の状況 (0=同居家族有/1=独居) ; OR=2.84, p<.01)」が関連を示していた。このことから、認知症が有る高齢者

は、無い高齢者に比べ意思疎通の状態が低下するリスクが 3.36 倍高まり、独居高齢者は意思疎通の状態が低下するリスクが 2.84 倍高まることが示された。

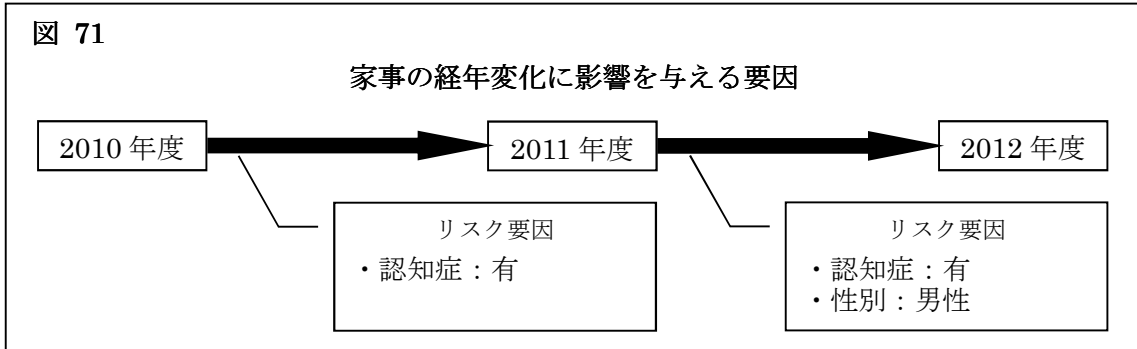


2010年度から2011年度にかけての「社会参加の状態」の経年変化について、「要支援・要介護度；OR=3.32,  $p<.05$ ）」が関連を示していた。つまり、要支援・要介護度が1上がるにつれて社会参加の状態が低下するリスクが3.32倍高まることが示された。また2011年度から2012年度にかけての経年変化についても、「要支援・要介護度；OR=2.42,  $p<.05$ ）」が関連を示しており、要支援・要介護度が1上がるにつれて社会参加の状態が低下するリスクが2.42倍高まることが示された。

## ②利用者調査の分析結果

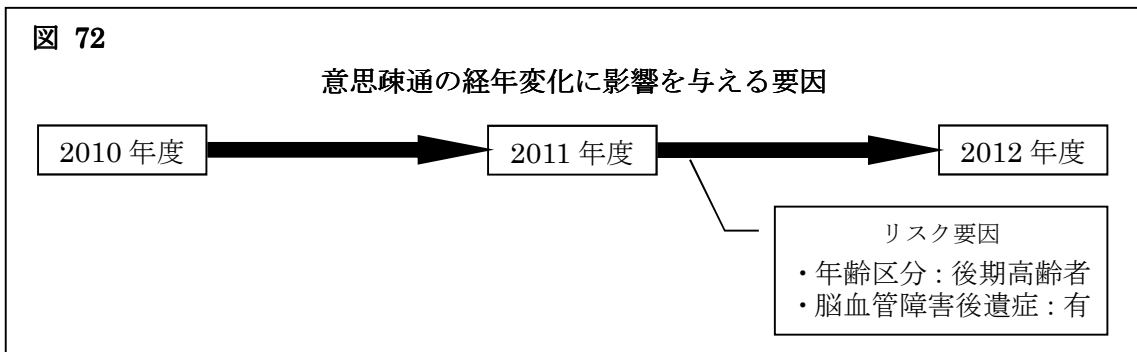


2010年度から2011年度にかけての「食事の状態」の経年変化について、「現在の家族の状況（0=同居家族有/1=独居）；OR=8.99,  $p<.01$ ）」が関連を示していた。つまり、独居高齢者は食事の状態が低下するリスクが8.99倍高まることが示された。

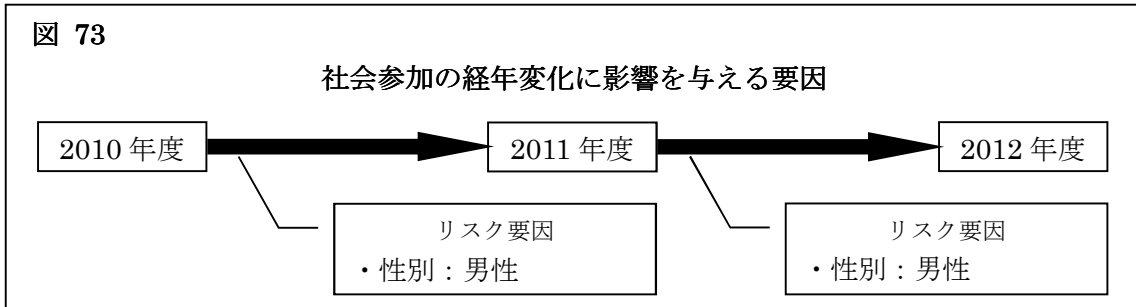


2010年度から2011年度にかけての「家事の状態」の経年変化について、「認知症の有無 (0=無/1=有) ; OR=3.90,  $p<.05$ 」が関連を示していた。つまり、認知症が有る高齢者は、無い高齢者に比べ、家事の状態が低下するリスクが3.90倍高まることが示された。

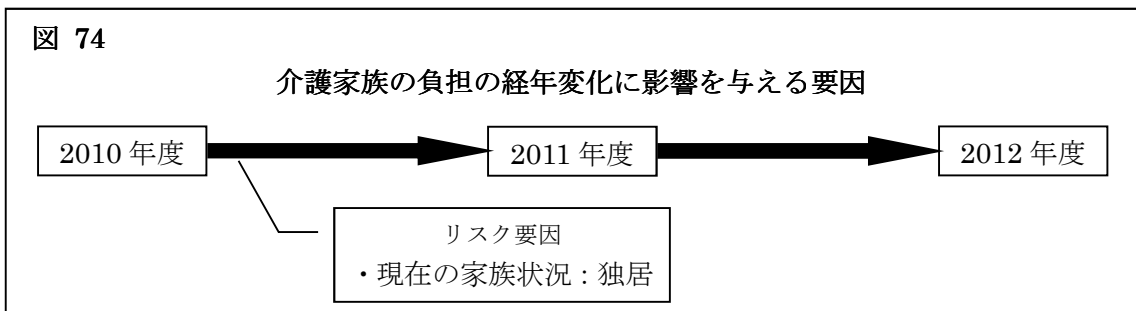
また、2011年度から2012年度にかけての「家事の状態」の経年変化については、「認知症の有無 (0=無/1=有) ; OR=3.43,  $p<.05$ 」および、「性別 (0=女性/1=男性) ; OR=5.09,  $p<.05$ 」が関連を示していた。このことから、認知症が有る高齢者は、無い高齢者に比べ家事の状態が低下するリスクが3.43倍高まり、男性は家事の状態が低下するリスクが女性と比べて5.09倍高まることが示された。



2011年度から2012年度にかけての「意思疎通の状態」の経年変化について、「年齢区分 (0=前期高齢者/1=後期高齢者) ; OR=4.43,  $p<.05$ 」および、「脳血管障害後遺症の有無 (0=無/1=有) ; OR=4.85,  $p<.05$ 」が関連を示していた。つまり、前期高齢者に比べ、後期高齢者の方が意思疎通の状態が低下するリスクが4.43倍高まり、脳血管障害後遺症が有る高齢者は、無い高齢者に比べ意思疎通の状態が低下するリスクが4.85倍高まることが示された。



2010年度から2011年度にかけての「社会参加の状態」の経年変化について、「性別（0=女性/1=男性）；OR=2.50,  $p<.05$ 」が関連を示していた。また2011年度から2012年度にかけての経年変化についても、「性別（0=女性/1=男性）；OR=2.86,  $p<.05$ 」が関連を示していた。つまり、両時点において男性の高齢者は、女性の高齢者に比べ、社会参加の状態が低下するリスクが3倍近く高まることが示された。



2010年度から2011年度にかけての「介護家族の負担の状態」の経年変化について、「現在の家族の状況（0=同居家族有/1=独居）；OR=2.89,  $p<.05$ 」が関連を示していた。つまり、独居高齢者においては、介護家族の負担が増大するリスクが2.89倍高まることが示された。

### 4.5.3 ケアマネジャーと利用者との3時点でのQOL評価項目の一致度の推移

5.1では、QOLに関する質問項目と、在宅生活を継続する自信について尋ねた質問項目を合わせた15項目について、ケアマネジャーと利用者による評価が経年に伴い変化したのか、つまりケアマネの介入によって、利用者のQOLや在宅生活継続の自信に対する有意な影響が示されたのかということについて分析を行った。そこで次に、これらの15項目について、年度ごとにケアマネジャーと利用者との評価がどの程度一致しているのかを算出し、それらが経年に伴ってどのように推移するのかということ整理した。

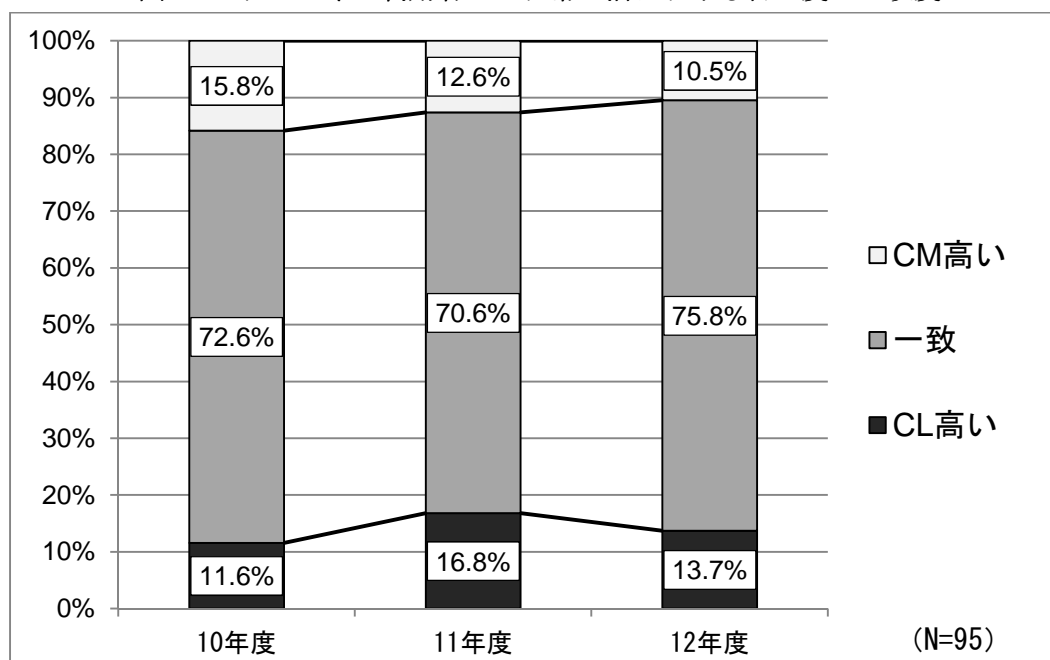
一致の割合を算出する際に、両者の回答が一致しているものを「一致」、ケアマネの方が高く評価しているものを「CM高い」、利用者の方が高く評価しているものを「CL高い」としてそれぞれの割合を求めた。

なお、本分析においては、質問項目ごとに、3時点（10年度現在、11年度現在、12年度現在）において、ケアマネと利用者との回答に一切欠損値がないものを分析対象としているため、それぞれのケース数が異なる。各質問項目におけるケース数はグラフの右下に記した。

#### 1) 日常生活における自立度

日常生活における自立度の一致度は、10年度が72.6%、11年度が70.6%、12年度が75.8%であった。また、11年度に若干低下したものの12年度には上昇に転じており、全ての調査時点において7割を超える比較的高い一致度を示した。

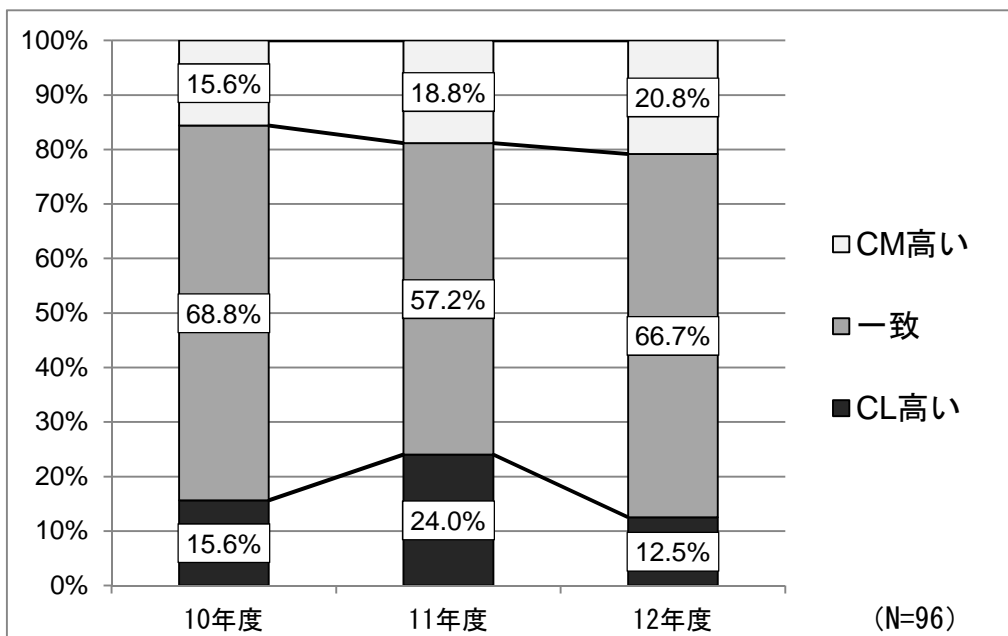
図 75 ケアマネと利用者との日常生活における自立度の一致度



## 2) 健康状態や受診に関して

健康状態や受診に関しての一致度は、10年度が68.8%、11年度が57.2%、12年度が66.7%であった。11年度に低下したものの12年度には上昇に転じていることが示された。

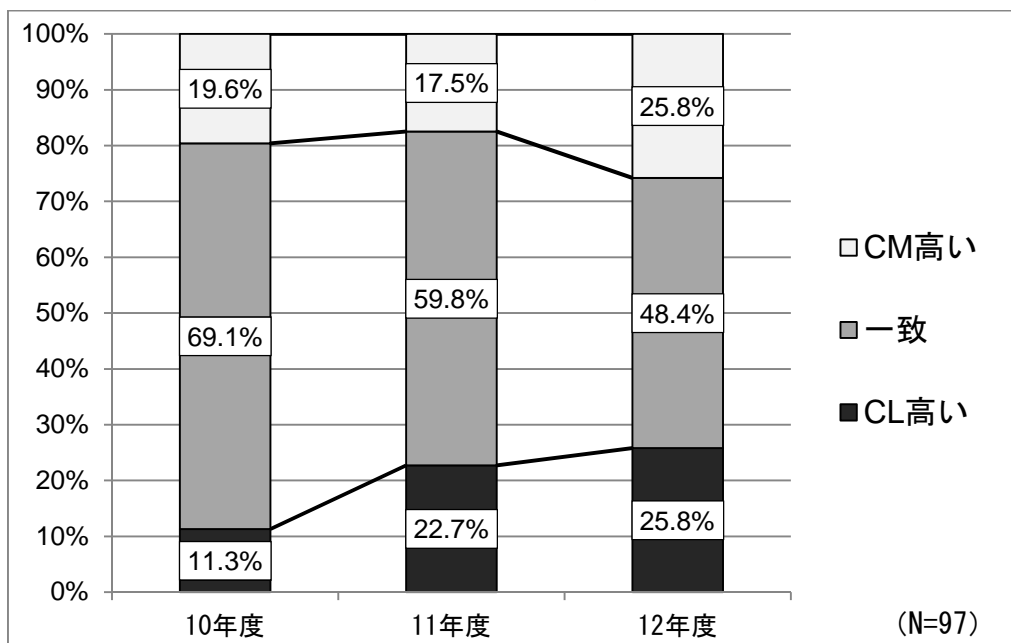
図 76 ケアマネと利用者との健康状態や受診に関しての一致度



## 3) 食事に関して

食事に関しての一致度は、10年度が69.1%、11年度が59.8%、12年度が48.4%であった。10年度時点では7割近い一致度だったが、その後一致度は大きく低下していた。

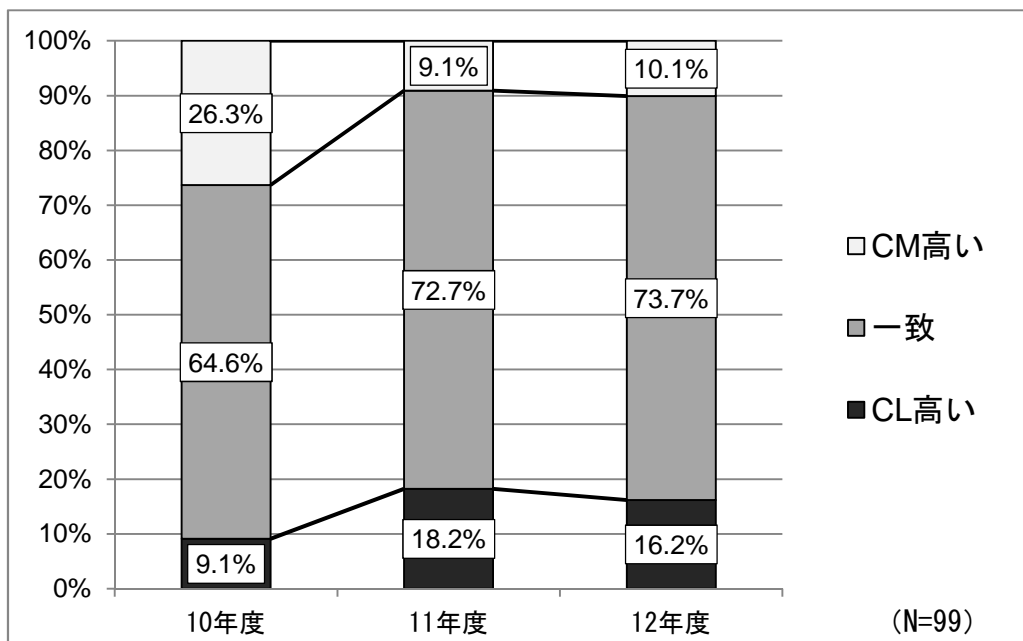
図 77 ケアマネと利用者との食事に関しての一致度



#### 4) 入浴に関して

入浴に関しての一致度は、10年度が64.6%、11年度が72.7%、12年度が73.7%であった。3時点全てを通して一致度は上昇傾向にあることが示された。

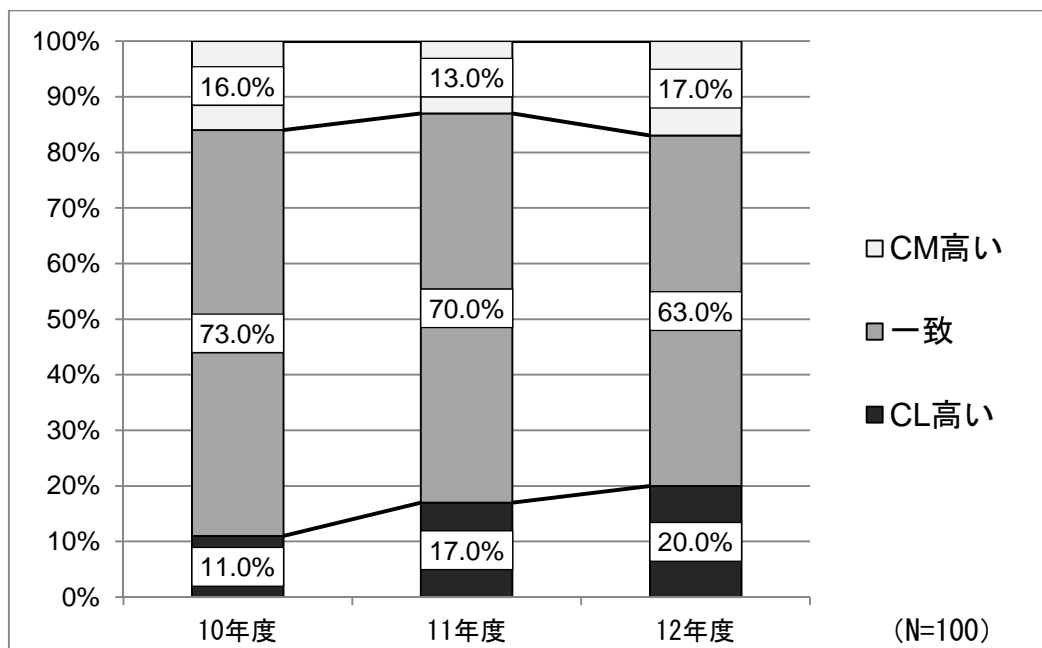
図 78 ケアマネと利用者との入浴に関しての一致度



#### 5) 排泄に関して

排泄に関しての一致度は、10年度が73.0%、11年度が70.0%、12年度が63.0%であった。10年度時点では7割を超える一致度だったが、その後一致度は低下傾向を示した。

図 79 ケアマネと利用者との排泄に関しての一致度

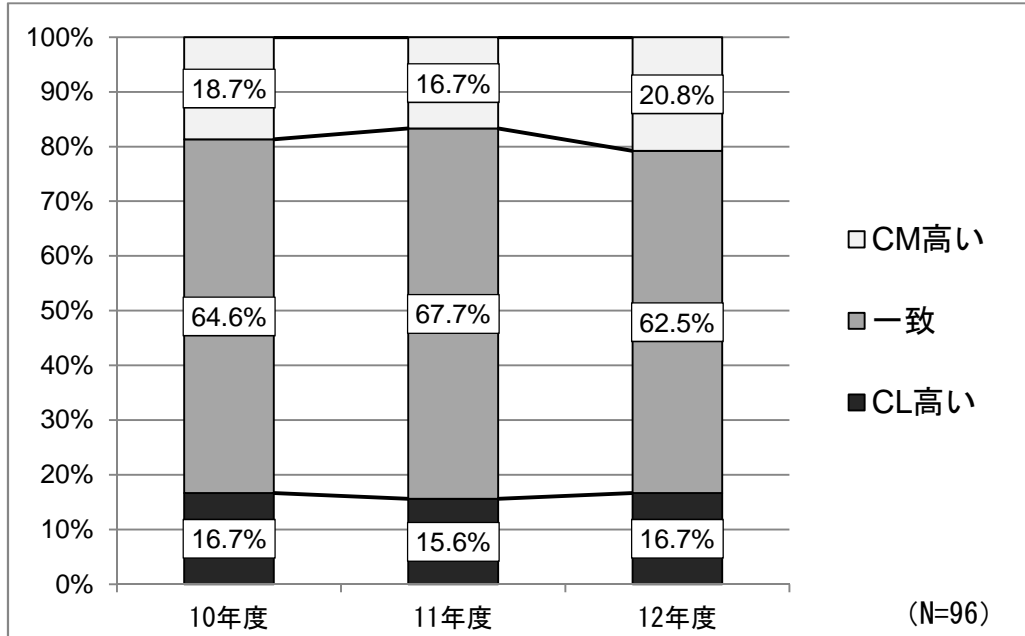




## 6) 家事に関して

家事に関しての一致度は、10年度が64.6%、11年度が67.7%、12年度が62.5%であった。3時点全てにおいて6割強の安定した一致度であることが示された。

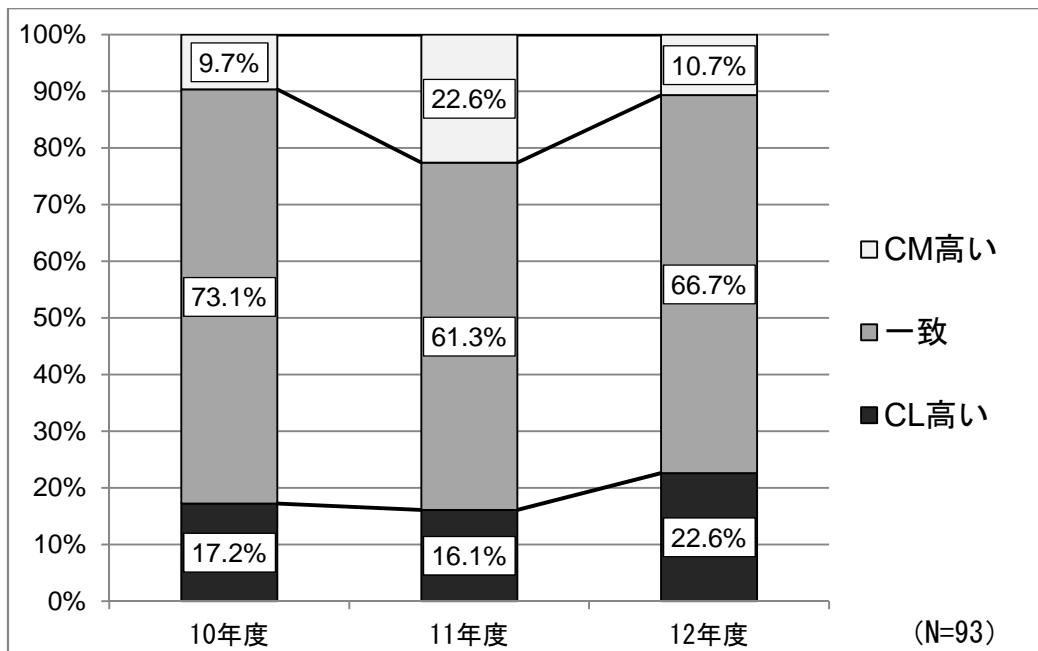
図 80 ケアマネと利用者との家事に関しての一致度



## 7) 認知症の程度

認知症の程度の一致度は、10年度が73.1%、11年度が61.3%、12年度が66.7%であった。11年度時点で一度低下したが、12年度には多少上昇傾向を示した。

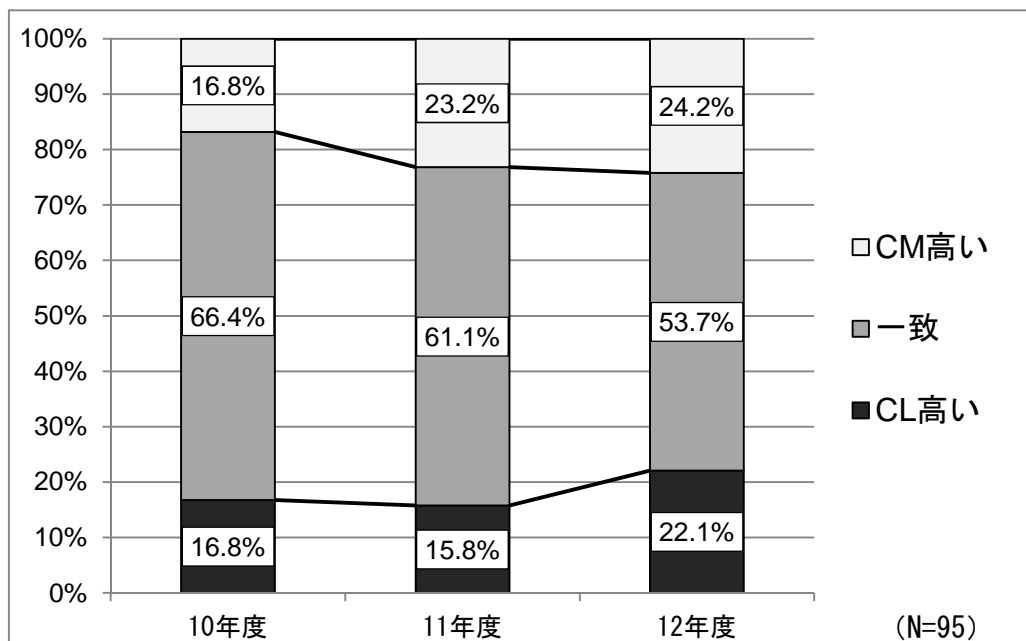
図 81 ケアマネと利用者との認知症の程度の一一致度



## 8) 生活の意欲

生活の意欲の一致度は、10年度が66.4%、11年度が61.1%、12年度が53.7%であった。経年に伴い一貫して大きく低下していることが示された。

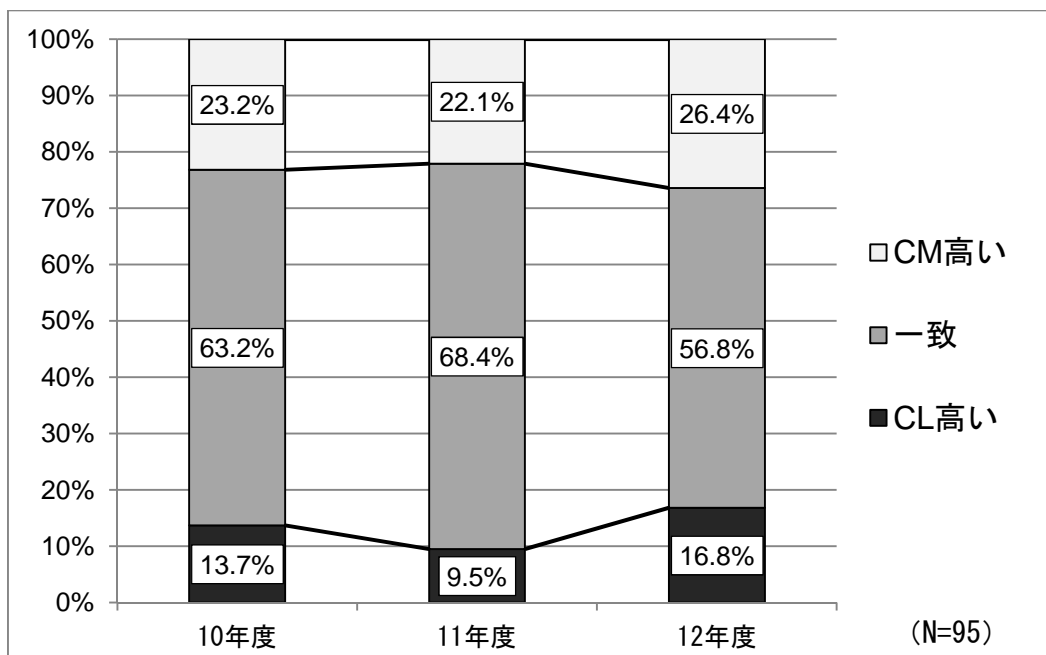
図 82 ケアマネと利用者との生活の意欲の一致度



## 9) 意思疎通に関して

意思疎通に関しての一致度は、10年度が63.2%、11年度が68.4%、12年度が56.8%であった。11年度時点では若干の上昇を示したが、12年度時点では大きく低下していた。

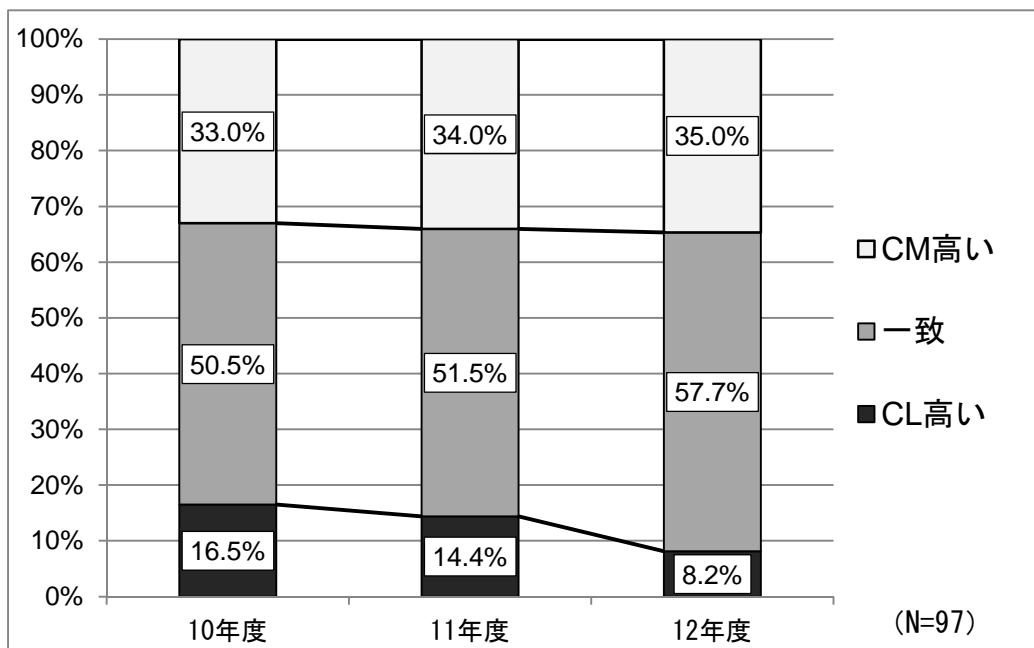
図 83 ケアマネと利用者との意思疎通に関しての一致度



### 10) 社会参加や役割

社会参加や役割の一致度は、10年度が50.5%、11年度が51.5%、12年度が57.7%であった。10年度時点では5割程度と低い一致度だったが、その後は若干の上昇傾向を示した。

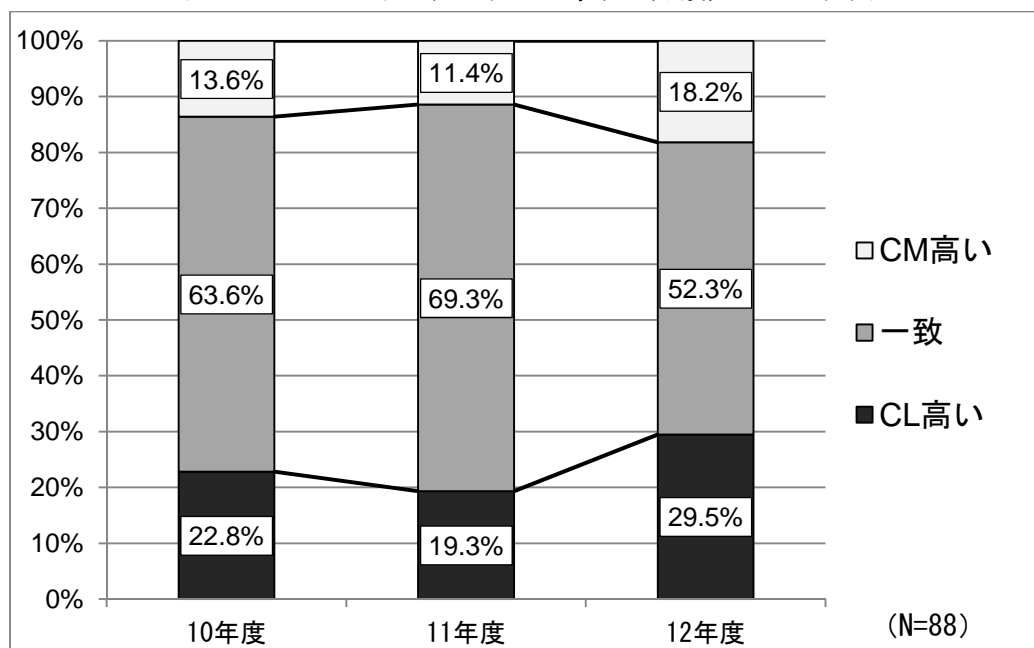
図 84 ケアマネと利用者との社会参加や役割の一致度



### 11) 家族の介護負担

家族の介護負担の一致度は、10年度が63.6%、11年度が69.3%、12年度が52.3%であった。11年度では7割近い一致度であったが、12年度には5割強と大きく低下していた。

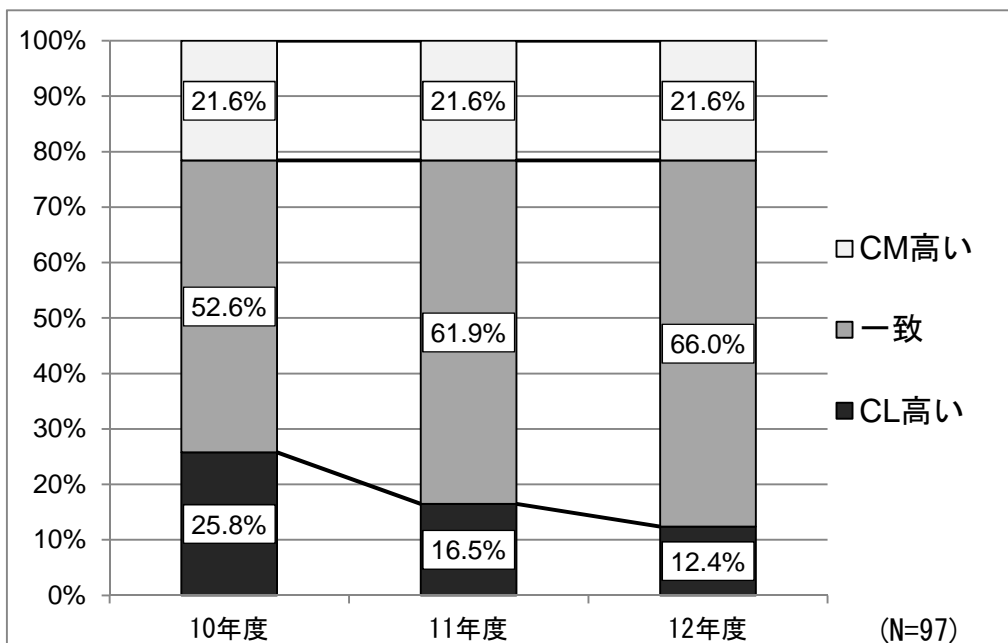
図 85 ケアマネと利用者との家族の介護負担の一致度



## 12) 住んでいる環境（段差など）

住んでいる環境の一致度は、10年度が52.6%、11年度が61.9%、12年度が66.0%であった。10年度では約5割と低い値であったが、その後は一貫して大きな上昇傾向を示した。

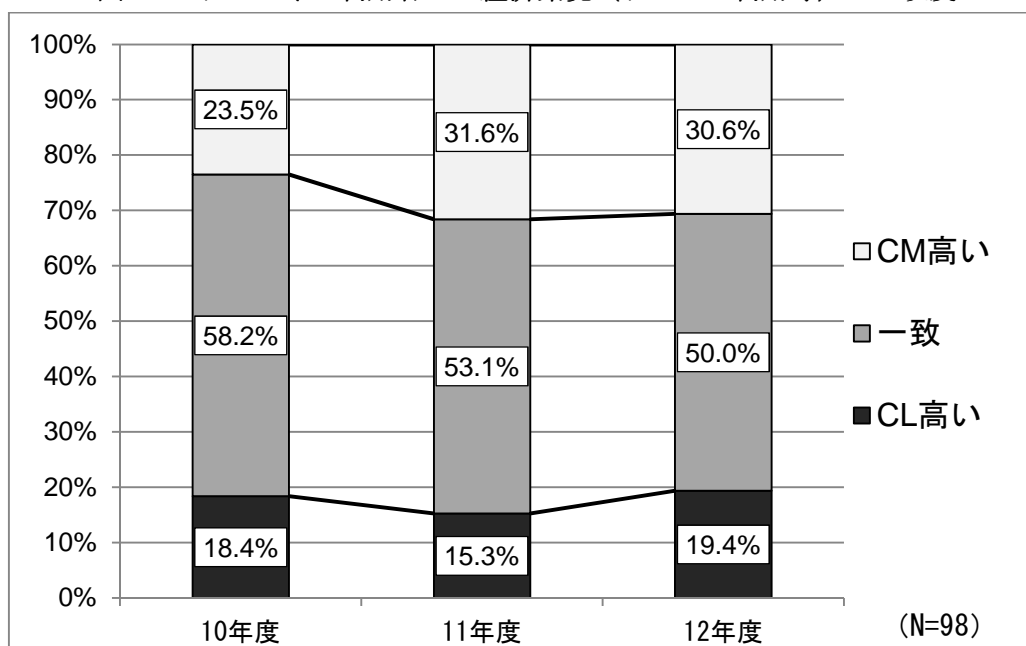
図 86 ケアマネと利用者との住んでいる環境（段差など）の一致度



## 13) 経済環境（サービス利用等）

経済環境の一致度は、10年度が58.2%、11年度が53.1%、12年度が50.0%であった。3時点全てにおいて50%代と低い一致度であり、さらに一貫した低下傾向が示され

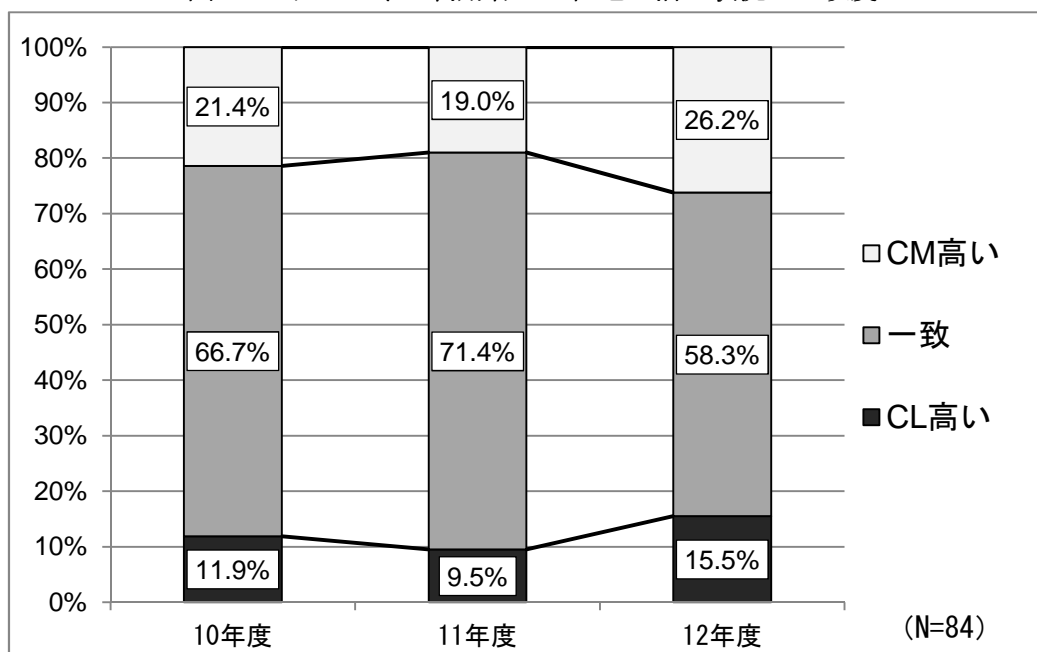
図 87 ケアマネと利用者との経済環境（サービス利用等）の一致度



#### 14) 在宅生活の状況

在宅生活の状況の一致度は、10年度が66.7%、11年度が71.4%、12年度が58.3%であった。11年度時点では7割を超える一致度だったが、12年度には大幅な低下を示した。

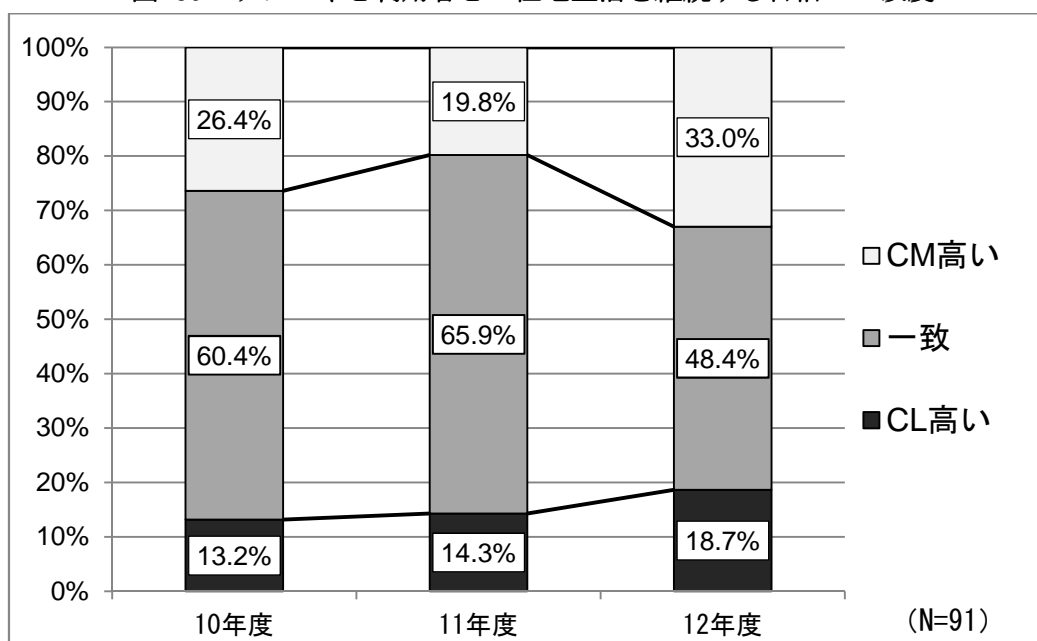
図 88 ケアマネと利用者との在宅生活の状況の一致度



#### 15) 在宅生活を継続する自信

在宅生活を継続する自信の一致度は、10年度が60.4%、11年度が65.9%、12年度が48.4%であった。11年度には一度上昇したが、12年度には大きく低下し5割を切る一致度だった。

図 89 ケアマネと利用者との在宅生活を継続する自信の一致度



## 16) 将来の施設入所への意向

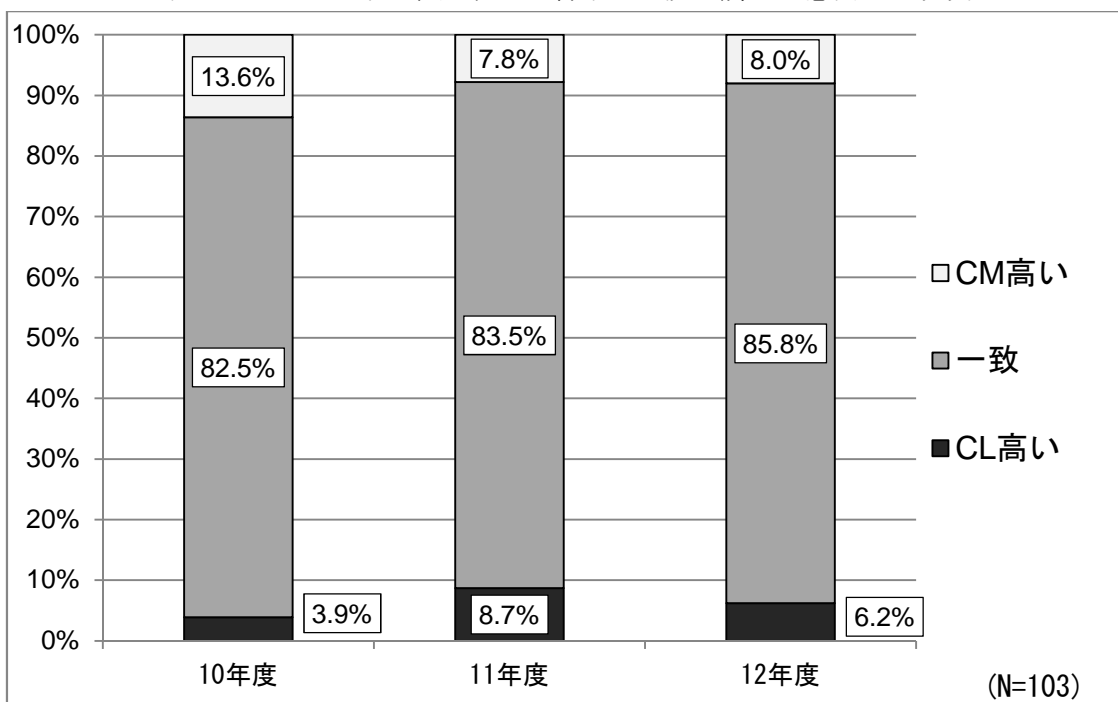
利用者の将来の施設入所への意向について、「施設への入所は考えていない」、「施設への入所を考え始めている」、「実際に施設への入所を申し込んでいる」という3件法によって尋ねた。

この質問に対するケアマネと利用者との回答の一致度は以下のグラフの通りである。両者の回答が同じ選択肢であった場合は「一致」である。また、利用者が「施設への入所を考え始めている」と回答しており、ケアマネが「施設への入所は考えていない」と回答しているケース、あるいは利用者が「実際に施設への入所を申し込んでいる」と回答しており、ケアマネが「施設への入所は考えていない」もしくは「施設への入所を考え始めている」と回答しているケースを「CM 高い」とした。逆に、ケアマネが「施設への入所を考え始めている」と回答しており、利用者が「施設への入所は考えていない」と回答しているケース、あるいはケアマネが「実際に施設への入所を申し込んでいる」と回答しており、利用者が「施設への入所は考えていない」もしくは「施設への入所を考え始めている」と回答しているケースを「CL 高い」とした。

一致度の推移について、10年度が82.5%、11年度が83.5%、12年度が85.8%であった。これまでの質問項目が4件法であったのに対し、本質問項目は3件法で尋ねているため一致度が高くなりやすいということも影響していると考えられるが、3時点とも8割を超える高い一致度であり、また時間が経過するごとに一致度が若干ながら上昇する傾向が示された。

ただし、施設入所という非常に重要な事項について、少数ながら両者の回答が一致していない、つまりケアマネが利用者の意向を十分に把握できていないという結果も示された。

図 90 ケアマネと利用者との将来の施設入所への意向の一致度



## 5 総括

ケアマネジメント開始後約 6 か月の要介護者等または家族（以降は、「高齢者」とする）とケアマネジャーを無作為にマッチングさせ、それ以降、1年ごとに3回のパネル調査を実施し、結果的に、高齢者とケアマネジャーの関係が出来て以降3年間の変化を捉えてきた。第1回目の調査は、ケアマネジャーと高齢者をそれぞれ1500名を対象にして始めたが、第3回目の調査まで継続して回答を得たケアマネジャーは158名、高齢者は138名となった。このような継続したパネル調査は稀であるだけでなく、それが高齢者とケアマネジャーがマッチングして調査されているものは皆無であり、極めて貴重なデータであると言える。そのため、今後詳細な分析を行い、学会誌等で調査結果を公表するとともに、施策への提言を行っていかなければならない。

本研究では、ケアマネジメントの効果を客観的 QOL として捉え、この客観的 QOL を①身体面、②心理面、③社会面に分けて分析をしてきた。これについて、3回の調査での変化をみると、以下のようなことが明らかになった。

高齢者の客観的 QOL として位置づけた身体面、心理面、社会面いずれについても、1回目と2回目の調査を比較すると、高齢者もケアマネジャーも悪くなっていく意識傾向が強かったが、2回目と3回目の比較では維持できている意識傾向が多くみられた。また、高齢者とケアマネジャーの比較では、身体面、心理面、社会面のいずれにおいても、3回の調査とも、ケアマネジャーの方が高齢者よりも高く評価する傾向が見られた。このような結果の背景なり要因については、ケアマネジャーおよび高齢者の属性との関係についての今後の分析で明らかにしたい。

次に、高齢者の身体面、心理面、社会面での3回の調査での経年での状態変化について、高齢者とケアマネジャーはそれぞれどのようなリスク要因を示したかの分析では、高齢者とケアマネジャーでは異なった結果になっている。例えば、ケアマネジャーは認知症が「排泄」と「意思疎通」のリスク要因としているが、高齢者は認知症が「家事」のリスク要因としている。また、独居をリスク要因とするには、ケアマネジャーの場合は「意思疎通」に、高齢者では「食事」と「介護負担」であった。このような両者のリスク要因の違いはどのように生じているのを、さらにケアマネジャーの特性や回答者が高齢者か家族によりどのように異なるのかで、一層分析を進めていきたい。

さらに、3回の調査でのケアマネジャーと高齢者のマッチング分析から明らかになったこととして、高齢者の身体状況・心理状況・社会状況・将来に対する意向について、ケアマネジャーと認識と高齢者の自己認識についての一致度をみてみた。その結果、高齢者の身体状況を除いた心理状況、社会状況、将来に対する意向は両者の一致度は時間の経過により低くなった。これは、ケアマネジャーのアセスメントが経年につれ弱くなっていることであり、ケアマネジャーのモニタリング能力を強化することが必要不可欠であることが分

かった。

さらに、ケアマネジャーに対する高齢者の満足度を3回の調査ともに尋ねたが、3回ともに高い満足度が得られた。具体的には、「不安や心配なことの話をしてもらう」、「介護サービスの調整をしてもらう」、「病院や診療所への連絡をしてもらう」、「何かあった時のために見守ってもらう」の4点についてであるが、高齢者は多様な側面でケアマネジャーに対する満足度示しており、ケアマネジャーに対してそれなりに高い評価をすることができる。ただし、医療サービスと調整する「病院や診療所への連絡をしてもらう」については、他の項目に比べて満足度が3回とも低く、ケアマネジャーの大きな課題である。

以上は、分析結果の一端であるが、ケアマネジャー養成での施策も部分的ではあるが明らかになった。今後詳細な分析を深めていきたい。



## 資料

### 1.委員会の開催経過

#### (1) 委員名簿

		氏名(敬称略)	所属
1	委員長	白澤 政和	桜美林大学大学院
2	委員	白木 裕子	株式会社フジケア
3	委員	高砂 裕子	社団法人南区医師協会居宅介護支援センター
4	委員	山田 圭子	前橋市地域包括支援センター西部
5	委員	高瀬 義昌	医療法人社団 至高会 たかせクリニック
6	委員	岸田 宏司	和洋女子大学
7	委員	吉江 悟	東京大学 高齢社会総合研究機構
8	委員	丹野 克子	山形県立保健医療大学
9	委員	増田 和高	早稲田大学
10	委員	畑 亮輔	北星学園大学
11	オブザーバー	佐々木 智彦	(株)ワイズマン
12	オブザーバー	林 尚子	(株)ワイズマン
13	オブザーバー	野口 和博	(株)ライフケアパートナーズ
14	オブザーバー	山下 千鶴	(株)ニッセイ情報テクノロジー
15	オブザーバー	近藤 美佳	(株)ニッセイ情報テクノロジー
16	事務局	米澤 麻子	(株)NTTデータ経営研究所
17	事務局	今井 久人	(株)マチュールライフ研究所

(2) 開催経過

回	日時	場所	主な内容
1	平成24年10月25日(木) 17:30～19:30	桜美林大学 四谷キャンパス	(1) 委員長開会挨拶 (2) 調査計画について (3) 調査の考え方について
2	平成25年1月28日(月) 17:00～19:00	桜美林大学 四谷キャンパス	(1) 委員長開会挨拶 (2) 調査の集計結果について (3) その他
3	平成25年2月27日(水) 10:00～12:00	桜美林大学 四谷キャンパス	(1) 委員長開会挨拶 (2) 調査の集計結果について (3) その他

## 2 アンケート(ケアマネジャー)

I. あなた(ケアマネジャー)についてお尋ねします。あてはまるものに○を付けてください。

1) あなたが介護支援専門員以外に保有する資格を教えてください。(複数選択可)

1. 介護福祉士	2. ホームヘルパー	3. 看護師/准看護師	4. 社会福祉主事
5. 社会福祉士	6. 歯科衛生士	7. 鍼灸マッサージ師	8. 薬剤師
9. 栄養士/管理栄養士	10. 理学療法士/作業療法士	11. その他( )	

2) あなたは日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャーの資格を持っていますか。

1. 持っている	2. 持っていない
----------	-----------

3) あなたは主任介護支援専門員の資格を持っていますか。

1. 持っている	2. 持っていない
----------	-----------

4) あなたの雇用・勤務形態を教えてください。

1. 常勤・専任	2. 常勤・兼務	3. 非常勤・専任	4. 非常勤・兼務
----------	----------	-----------	-----------

5) あなたの職場での職位を教えてください。

1. 管理者	2. 管理者以外
--------	----------

6) あなたの平成24年10月時点での担当保有件数を教えてください。

1. 介護給付( )件/月	2. 予防給付( )件/月
---------------	---------------

II. 調査対象となる利用者についてお尋ねします。あてはまるものに○を付けてください。

1) 対象利用者へのケアマネジャーとしての現在の関わり方を教えてください。

1. 担当ケース	2. 指導ケース	3. 担当外 ※
----------	----------	----------

※「3. 担当外」と回答した場合、以下の質問にお答えください。

1-1) 担当変更の理由を教えてください。

1. 入院	2. 施設入所	3. 死亡	4. 担当者変更	5. その他( )
-------	---------	-------	----------	-----------

**※「3. 担当外」と回答した方は、アンケートは以上で終了です。**

**ご協力ありがとうございました。**

**※「1. 担当ケース」「2. 指導ケース」と回答した方は、引き続きアンケートにご回答下さい。**

2) 対象利用者の現在の家族状況を教えてください。

1. 独居	2. 同居家族あり ※
-------	-------------

※「2. 同居家族あり」と回答した場合、以下の質問にお答えください。

2-1) 同居する世帯の形態を教えてください。

1. 夫婦のみ	2. 子世帯と同居	3. 子以外の親族と同居	4. その他( )
---------	-----------	--------------	-----------

3) 対象利用者の現在の介護度を教えてください。

1. 要支援 1	2. 要支援 2	3. 要介護 1	4. 要介護 2
5. 要介護 3	6. 要介護 4	7. 要介護 5	8. 非該当

4) 対象利用者の現在の状態について、該当するものを教えてください。(複数選択可)

1. 脳血管障害後遺症	2. 認知症 ※	3. ターミナル(看取り)	4. 廃用性症候群
5. 関節疾患	6. その他( )	7. 該当なし	

※「2. 認知症」に該当する場合、以下の質問にお答えください。

4-4) 対象利用者の状態を現在(平成24年10月)のそれぞれの時期について、あてはまるものをひとつずつ選んで○を付けてください。

(1) 認知症の日常生活自立度を教えてください。

1. I	2. II	3. III	4. IV	5. M
------	-------	--------	-------	------

(2) 認知症治療薬の服薬有無を教えてください。

1. ある	2. ない
-------	-------

(3) 徘徊や暴言、妄想などの行動(BPSD)はどの程度ありますか。

1. かなりある	2. まあある	3. 少しある	4. ほとんどない	5. 全くない
----------	---------	---------	-----------	---------

(4) 対象利用者の行動(BPSD)の傾向についてどの程度分かっていますか。

1. 全く分からない	2. ほとんど分からない	3. 少しある	4. まあ分かる	5. 分かる
------------	--------------	---------	----------	--------

(5) 対象利用者に対して適切に対応できていますか。

1. 全くできていない	2. ほとんどできていない	3. 少しある	4. まあできている	5. できている
-------------	---------------	---------	------------	----------

Ⅲ. 現在の利用者の状態をお尋ねします。

現在の利用者の状態を、ケアマネジャーとして見たときに利用者ご本人がどう考えていると思われるか、あてはまるものをA～Dの中からひとつずつ選んで○を付けてください。

**<評価基準の考え方>**

A から順に、最も良い段階から4段階で評価を行います。

A 特に問題はなく、自立している状態

B 問題はあるが、家族や専門家の援助によって解消されている状態

C 問題に対処はしているが、日常生活において困難が生じている状態

D 全く問題が解決されていない状態

		A	B	C	D
(1) 身体面	①日常生活の自立度	1 ひとりで外出できる	2 屋内ではひとりで生活できる	3 座ることができる(車いす)	4 ほとんどベッド上
	②健康状態や受診に関して	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
	③食事に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	④入浴に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑤排泄に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑥家事に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
(2) 気持ち 認知面	⑦認知症の程度	1 問題ない(自立)	2 誰かが注意していれば問題ない	3 時々介護が必要	4 常に介護が必要
	⑧生活の意欲	1 とてもある	2 少しある	3 あまりない	4 ない
(3) 周囲との 関係面	⑨意思疎通に関して	1 できる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑩社会参加や役割	1 自分で参加できている	2 助けてもらって参加できている	3 少し参加できないところがある	4 参加できない
(4) 介護 環境面	⑪家族の介護負担	1 小さい	2 まあ小さい	3 まあ大きい	4 大きい・介護者がいない
	⑫住んでいる環境(段差等)	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
	⑬経済環境(サービス利用等)	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
(5)在宅生活の状況		1 質の高い生活が送れる	2 安心して在宅で暮らせる	3 なんとか在宅で暮らせる	4 在宅では暮らせない

2) (1)～(4)の領域で、現在**利用者ご本人**が大切にしていると思われる項目を、優先度の高い順番に1～4位までの数字をご記入ください。(重複不可)

(1) 身体面	( )位
(2) 気持ち・認知面	( )位
(3) 周囲との関係面	( )位
(4) 介護環境面	( )位

3) あなた自身が評価した利用者の在宅生活の状況は、利用者の評価と一致していると思いますか。

1. 全く思わない	2. あまり思わない	3. どちらともいえない	4. まあそう思う	5. そう思う
-----------	------------	--------------	-----------	---------

4) あなた自身のケアマネジメントが、利用者による評価に影響していると考えますか。

1. 全く思わない	2. あまり思わない	3. どちらともいえない	4. まあそう思う※	5. そう思う※
-----------	------------	--------------	------------	----------

※「4. まあそう思う」「5. そう思う」と回答した場合、以下の質問にお答えください。

4-1) 対象利用者のどの領域に影響を与えたと思いますか。(複数回答可)

1. 身体面	2. 気持ち・認知面	3. 周囲との関係面	4. 介護環境面
--------	------------	------------	----------

5) 利用者の在宅で暮らす自信の程度を、あてはまる数字(1～4)に○を付けてください。

1. 在宅で暮らす自信がある
2. どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある
3. どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない
4. 在宅で暮らす自信はない

6) 対象利用者の施設入所についての考えを、あてはまる数字(1～3)に○を付けてください。

1. 施設入所を考えていない
2. 施設入所を考えはじめている
3. 実際に施設入所を申し込んでいる

7) 利用者について、あなたのケアマネジメントの状況について、あてはまる数字(1~4)に○を付けてください。

利用者の身体的な状況についての理解	1 ほとんど理解できていない	2 少し理解できていない	3 ほぼ理解できている	4 十分理解できている
②利用者の心理的な状況についての理解	1 ほとんど理解できていない	2 少し理解できていない	3 ほぼ理解できている	4 十分理解できている
③利用者の社会的な状況についての理解	1 ほとんど理解できていない	2 少し理解できていない	3 ほぼ理解できている	4 十分理解できている
④利用者の今後の生活目標についての理解	1 ほとんど理解できていない	2 少し理解できていない	3 ほぼ理解できている	4 十分理解できている
⑤利用者の生活上のニーズについての理解	1 ほとんど理解できていない	2 少し理解できていない	3 ほぼ理解できている	4 十分理解できている
⑥利用者のニーズに合ったサービスや支援につなげている	1 ほとんどつなげられていない	2 少しつなげられていない	3 ほぼつなげられている	4 十分つなげられている
⑦必要な場合には、利用者宅に訪問し、話を聴いている	1 ほとんど聴いていない	2 少し聴いていない	3 ほぼ聴いている	4 十分聴いている

8) 現在利用しているサービスの有無に○を付け、利用サービスには導入の目的や経緯を右の選択肢①～⑬の中から優先順位の高いものひとつを選んで番号を記入してください。

	サービス種別	現在	目的 経緯
	記入例	⑦・無	⑨
居宅 サービス	1. 訪問介護(ホームヘルプ)	有・無	
	2. 訪問入浴介護	有・無	
	3. 訪問看護	有・無	
	4. 訪問リハビリテーション	有・無	
	5. 居宅療養管理指導	有・無	
通所 サービス	6. 通所介護(デイサービス)	有・無	
	7. 通所リハビリテーション(デイケア)	有・無	
短期入所 など	8. 短期入所生活介護	有・無	
	9. 短期入所療養介護	有・無	
	10. 特定施設入居者生活介護	有・無	
福祉用具 住宅	11. 福祉用具の貸与	有・無	
	12. 福祉用具購入費支給	有・無	
	13. 住宅改修	有・無	
地域 密着型	14. 夜間対応型訪問介護	有・無	
	15. 認知症対応型通所介護	有・無	
医療 サービス	16. 訪問診療・往診、訪問看護(医療)	有・無	
	17. その他医療機関の受診・通院	有・無	
介護保険 以外の サービス	18. 生活支援サービス	有・無	
	19. 生きがい対応型デイサービス	有・無	
	20. 配食サービス	有・無	
	21. 近隣等インフォーマルサービス	有・無	
	22. その他( )	有・無	

- |   |
|---|
| <p>① 日常生活動作(ADL)の維持・向上</p> <p>② 医療管理、健康面の維持・向上</p> <p>③ 食事・入浴・排泄面の維持・向上</p> <p>④ 家事・身の回り面の維持・向上</p> <p>⑤ 認知症日常生活自立度の維持・向上</p> <p>⑥ 生活意欲の維持・向上</p> <p>⑦ 意思疎通面の維持・向上</p> <p>⑧ 社会参加・役割の維持・向上</p> |
|---|



IV. あなた(ケアマネジャー)ご自身のケアマネジメントについてお尋ねします。

1) 以下の項目がどの程度できているか、それぞれ最もあてはまると思われる数字(1~5)ひとつに○を付けてください。

	1. できて いない	2. あまり できて いない	3. どちら ともいえ ない	4. まあ できて いる	5. できて いる
利用者や家族が抱えているリスクを特定する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者のニーズや、家族・友人などの周辺環境を評価する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者の強みや弱み、そしてそれらが日常生活に与える影響を把握する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者のニーズや目標達成に向けた適切なサービス提供が行われているか、継続的にアセスメントを行う	1.	2.	3.	4.	5.
継続的なアセスメントの結果を記録に残す	1.	2.	3.	4.	5.
利用者や家族と協働してケアプランを作成する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者との適切な関係性を築き、継続する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者の自立を促し、自己決定を支援する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者の緊急時に適切に対処する	1.	2.	3.	4.	5.
サービスが利用者のニーズに合っているか確認するため、継続的にサービス提供者や利用者との連絡・調整を行う	1.	2.	3.	4.	5.
利用者のニーズの変化に迅速に対応し、適切にサービスを変更する	1.	2.	3.	4.	5.
サービスの終了が適切な場合に、利用者とともに計画し、手続きを行う	1.	2.	3.	4.	5.
公的資源のみではなく、家族などのインフォーマルな資源も適切に活用する	1.	2.	3.	4.	5.
利用者が利用可能な地域資源について、最新の情報を把握する	1.	2.	3.	4.	5.

	1. できて いない	2. あまり できて いない	3. どちら ともいえ ない	4. まあ できて いる	5. できて いる
利用者へのサービス提供に関連する法律や規制について十分な知識と理解を持つ	1.	2.	3.	4.	5.
適切なサービスが受けられるよう、利用者の権利を擁護する	1.	2.	3.	4.	5.
多職種によるチームの一員として働く	1.	2.	3.	4.	5.
ケアマネジャー自身が適切にスーパービジョンを受ける	1.	2.	3.	4.	5.
重要事項説明、同意取得、ケアプラン交付などの書類関係業務を、利用者に対し適切に行う	1.	2.	3.	4.	5.
日本介護支援専門員協会の倫理綱領等に定められた内容を理解し、実践に活かす	1.	2.	3.	4.	5.

アンケートは以上で終了です。同封の返信用封筒に入れてご返送ください。  
ご協力ありがとうございました。

### 3.アンケート(利用者)

I. ご記入者についてお尋ねします。あてはまるものに○を付けてください。

1) 記入者はどなたですか？

1. 利用者ご本人	2. ご本人以外 (代理の方)	→	①ご家族( 配偶者・子供・その他 ) ②その他( )
-----------	--------------------	---	-------------------------------

2) あなたは昨年度(平成23年11月頃)アンケートと同じ回答者ですか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

II. 現在の利用者ご本人の状態をお尋ねします。

利用者ご本人の現在の状態を、利用者ご本人がどう考えているか、あてはまるものをA~Dの中からひとつずつ選んで○を付けてください。

#### <評価基準の考え方>

A から順に、最も良い段階から4段階で評価を行います。

- A 特に問題はなく、自立している状態
- B 問題はあるが、家族や専門家の手助けによって解消されている状態
- C 家族や専門家の手助けがあっても、普段の生活の中で困難が生じている状態
- D 手助けがなく、全く問題が解決されていない状態

		A	B	C	D
(1) 身体面	①日常生活の自立度	1 ひとりで外出できる	2 屋内ではひとりで生活できる	3 座ることができる(車いす)	4 ほとんどベッド上
	②健康状態や受診に関して	1 困っていることはない	2 困らないよう助けてもらっている	3 少し困っていることがある	4 困っている
	③食事に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	④入浴に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑤排泄に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない
	⑥家事に関して	1 ひとりでできる	2 助けてもらってできている	3 少しできないところがある	4 できない

		A	B	C	D
(2) 気持ち 認知面	⑦認知症の程度	1 問題ない (自立)	2 誰かが注意して いれば問題ない	3 時々 介護が必要	4 常に 介護が必要
	⑧生活の意欲	1 とてもある	2 少しある	3 あまりない	4 ない
(3) 周囲との 関係面	⑨意思疎通に 関して	1 ひとりで できる	2 助けてもらって できている	3 少しできない ところがある	4 できない
	⑩社会参加や 役割	1 自分で参加 できている	2 助けてもらって 参加できている	3 少し参加でき ないところがある	4 参加 できない
(4) 介護 環境面	⑪家族の介護 負担	1 小さい	2 まあ小さい	3 まあ大きい	4 大きい・介護 者がいない
	⑫住んでいる 環境(段差等)	1 困っている ことはない	2 困らないよう 助けてもらっている	3 少し困っている ことがある	4 困っている
	⑬経済環境(サー ビス利用等)	1 困っている ことはない	2 困らないよう 助けてもらっている	3 少し困っている ことがある	4 困っている
(5)在宅生活の状況		1 質の高い 生活が送れる	2 安心して在宅で 暮らせる	3 なんとか在宅で 暮らせる	4 在宅では 暮らせない

(1)～(4)の領域で、現在利用者ご本人が大切にしている項目を、優先度の高い順番に1～4位までの数字をご記入ください。(重複不可)

(1) 身体面	( )位
(2) 気持ち・認知面	( )位
(3) 周囲との関係面	( )位
(4) 介護環境面	( )位

現在の在宅で暮らす自信の程度を、あてはまる数字(1～4)に○を付けてください。

1. 在宅で暮らす自信がある
2. どちらかといえば、在宅で暮らす自信がある
3. どちらかといえば、在宅で暮らす自信はない
4. 在宅で暮らす自信はない

現在、施設への入所を考えていますか？あてはまる数字(1～3)に○を付けてください。

1. 施設への入所は考えていない
2. 施設への入所を考えはじめている
3. 実際に施設への入所を申し込んでいる

あなたは、担当のケアマネジャーから以下のことについて、どの程度対応してもらっていますか？ あてはまる数字(1～4)に○を付けてください。

①利用者の身体的な状況について理解してもらっているか	1 ほとんど理解してもらっていない	2 少し理解してもらっていない	3 ほぼ理解してもらっている	4 十分理解してもらっている
②利用者の心理的な状況について理解してもらっているか	1 ほとんど理解してもらっていない	2 少し理解してもらっていない	3 ほぼ理解してもらっている	4 十分理解してもらっている
③利用者の社会的な状況について理解してもらっているか	1 ほとんど理解してもらっていない	2 少し理解してもらっていない	3 ほぼ理解してもらっている	4 十分理解してもらっている
④利用者の今後の生活目標について理解してもらっているか	1 ほとんど理解してもらっていない	2 少し理解してもらっていない	3 ほぼ理解してもらっている	4 十分理解してもらっている
⑤利用者の生活上のニーズについて理解してもらっているか	1 ほとんど理解してもらっていない	2 少し理解してもらっていない	3 ほぼ理解してもらっている	4 十分理解してもらっている
⑥利用者のニーズに合ったサービスや支援につなげてもらっているか	1 ほとんどつなげてもらっていない	2 少しつなげてもらっていない	3 ほぼつなげてもらっている	4 十分つなげてもらっている
⑦必要な場合には、利用者宅に訪問し、話を聞いてもらっているか	1 ほとんど聞いてもらっていない	2 少し聞いてもらっていない	3 ほぼ聞いてもらっている	4 十分聞いてもらっている

現在、ケアマネジャーに対して①～⑤のことをどの程度満足していますか？  
 あてはまる数字(1～5)に○を付けてください。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
① 不安や心配なことを話をきいてもらう	1	2	3	4	5
② 介護サービスの調整をしてもらう	1	2	3	4	5
③ 病院や診療所への連絡をしてもらう	1	2	3	4	5
④ 何かあった時のために見守ってもらう	1	2	3	4	5
⑤ その他( )	1	2	3	4	5

アンケートは以上で終了です。同封の返信用封筒に入れてご返送ください。  
 ご協力ありがとうございました。

平成 24 年度厚生労働省補助事業老人保健健康増進等事業

介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する調査研究

ケアマネジメント QOL 研究会

発 行 平成 25 (2013) 年 3 月

発行責任者 白澤 政和

桜美林大学大学院老年学研究科